

1680迄 (2638件)

1661年-08:00|イントネア/スペイン| |||<就任>モリッカ諸島スペイン総督「Agustin de Cepeda Carnacedo」(~1663年)
1661年-05:45|ネーデル| |||<即位>ゴッラ・ラジヤ「ルト・ラ・シヤ」(~1673年)
1661年-05:45|ネーデル| |||<即位>ラリタラ王「ジヤスリニバ・サマツ」(~1685年)
1661年-05:30|イント| |||<就任>シヤイサミル国統治者(マハラ)「アマル・シン」(~1702年没)
1661年-05:30|イント| |||<就任>スルブール国ラジヤ「マンダ・タ・シン」(~1700年)
1661年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「アーチル」(~1663年)
1661年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「カンブール・ムスタファ・ハ・シヤ」(~1663年)
1661年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「メク・イブラヒム・ハ・シヤ」(~1664年)
1661年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Suleyman Pasha2世」(~1662年)
1661年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・デ・クアマ、モノモタパ 総司令官「マヌエル・デ・マスカレニヤス」(~1664年)
1661年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||オスマン帝国はルミアから分離したモレア(ペロポネソス半島)をモレアのイヤイトとして統治
1661年-01:00|ドイツ| |||<死去>ホーエンツォレルン=ヘンゲン侯国「Eitel Frederick5世」
1661年-01:00|アルジェリア/トルコ| |||<就任>アルジェのアガ・シュ「シャバン・アガ」(~1665年)
1661年-01:00|イタリヤ| |||<就任>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「カルロ」(~16750918死去)
1661年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Jeronimo de Noronha」(~1665年)
1661年-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ルイ2世」(~16861111死去)
1661年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン=イッター方伯ゲオルク3世「ヘッセン=ダルムシュタット方伯ゲオルク2世の次男」(~1676年1代で断絶)
1661年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホーエンツォレルン=ヘンゲン侯国「Philipp」(~16710124死去)
1661年-01:00|フランス| |||<復位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「シャルル4世(3世)」(~16750918)
1661年-01:00|デンマーク| |||デンマークで絶対王政成立
1661年-01:00|オランダ/ポルトガル| |||ポルトガルとオランダとの間で和平条約が結ばれた
1661年 00:00|イギリス| |||<死去>2代アングルシー伯「チャールズ・ダ・グリアーズ」
1661年 00:00|イギリス| |||<就任>初代アナンデイル=ハートフェル伯「ジェームズ・ジョンストン」(~1672年死去)
1661年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Pedro da Silva」(~1669年)
1661年 00:00|モロッコ| |||<就任>タンジール首長「ルイス・デ・アルメイダ・ポルトガル」(~16620129)
1661年 00:00|カリヤ諸島| |||<就任>ランサローテ島領主「Fulgencio Bravo de Guzman」(~同年)⇒「Juan Francisco」(~1696年死去)
1661年 00:00|イギリス/タイ| |||イギリスがアユタヤの商館を再開
1661年 00:00|ポルトガル/イギリス/イント| |||イント、ホンバエ島がポルトガルからイギリスに譲渡
1661年 00:00|イギリス| |||ボイルが「懐疑的な化学者」を刊
1661年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<就任>アンティグア総督「ジョン・バッキリー」(~1664年)
1661年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||イギリス人がバ・ブー・ダ島に入植地を建設
1661年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イリス領メーランド植民地総督「チャールズ・カルハート」(~1676年)
1661年 06:00|カナダ/アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ダバウカー男爵ヒェール・デ・ユボワ・ダバウカー」(~1663年)
1661年 06:00|ニカラガ/イギリス| |||<設立>イギリス保護領モスキートコースト(~19610912)
1661年 06:00|ニカラガ/イギリス| |||<即位>モスキート王「オールドマン1世」国家設立(~1677年)
1661年 06:00|アメリカ| |||ヴァージニア法が制定され、黒人奴隷制度が成立/黒人奴隷を終身制とし、白人奉公人と差別
1661年1月1日-02:00|ルーマニア| |||<即位>トランシルヴァニア大公「ヤノス・ケニーゼル・オ・モノストリ」(~16620123没)
1661年1月13日-09:00|日本|茨城県土浦市|万治3年12月13日|<死去>常陸土浦藩3万石「朽木植綱」⇒長男「朽木植昌」が継ぐ(弟「朽木則綱」に3000石分与⇒寛文9(1669)年6月8日、丹波福知山藩32000石へ加増移封)
1661年1月17日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・セルバン・バサラブ」(2回目~2.16没)
1661年1月20日 00:00|アイスランド/デンマーク| |||デンマークがアイスランドへお直接支配
1661年1月31日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|万治4年|愛媛宇和郡土居中村に清良神社建立
1661年1月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|万治4年|<完成>前・伊予松山藩主「松平定行」隠居所、東野茶屋(千宗安が設計)
1661年1月31日-09:00|日本|山形県鶴岡市|万治4・寛文1年|羽黒山表参道石段完成(2446段)
1661年2月3日-01:00|ポーランド/リトアニア| |||ポーランド・リトアニア共和国の天文学者ヘヴェリウスが彗星153P(池谷・張彗星)発見/複数回帰し周期彗星番号がついた唯一の長周期彗星
1661年2月5日-08:00|中国| |||清・順治18年1月7日|<死去>清皇帝「世祖順治帝」天然痘で没/23歳(誕生1638年)
1661年2月8日-08:00|中国| |||清・順治18年1月10日|<即位>清4代目皇帝「聖祖康熙帝」6歳(~1722年)
1661年2月12日-09:00|日本|静岡県周智郡森町|万治4年1月13日|森町村で大火があり、本町・河原町・横町などが焼失し、三嶋大明神・梅林院・西光寺まで延焼
1661年2月14日 02:00|日本|京都府京都市|万治4年1月15日|<京大火>巳の下刻(午前11時ごろ)、公家の二条家屋敷から出火、大内裏、仙洞御所を焼く/公家屋敷119軒、寺院16か所、町家568軒を焼失/本満寺・本禅寺等焼失
1661年2月16日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「シュテファン・アルブ」(2回目~9.19)
1661年2月19日-05:00|日本|東京都|万治4年1月20日|<江戸神田万治四年元鷹匠町の大火>寅の刻(午前4時ごろ)、小石川丸山下にある岩槻城主・阿部伊代守正春の下屋敷で火事、近隣の間間町と弓町を焼いてようやく炎が収まり一息ついた巳の刻(午前10時ごろ)、今度は神田の元鷹匠町の書院番・日下部権太夫定久宅より出火、城内曲

1680迄 (2638件)

輪内に入り、大手下馬、大腰掛、畳蔵、伝奏屋敷、評定所を灰とした/炎は龍ノ口通りから大名小路(屋敷街)へと侵入、松平隆綱、板倉重矩、蜂須賀至照、安藤重元など大、小名の屋敷110余家を廃虚とし、鍛冶橋門を灰とした後、町家へ延焼/南は京橋四丁目まで、西は中橋を限り、鉄砲州へと焼きあげた/焼けた町々は、上槇町をはじめ南槇町、材木町、南伝馬町、畳町、南鍛冶町、桶町、南、北、西紺屋町、銀座、木挽町など41町、家数にして787軒を焼失、申下刻(17時ごろ)ようやく鎮火/山村座、森田座焼失

- 1661年3月9日-01:00|フランス| |||<死去>フランス宰相・ヌヴェール公・ルテル伯「ジュール・マザラン」[16020714生~](享年58)
1661年3月9日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣(宰相)「ジャン・バティスト・コルベール」(~16830906死去)
1661年3月9日-01:00|フランス| |||<就任>ルテル伯「オルタンス・マンチーニ」(~16990702死去)マザランの姪、マザラン女公、マイエヌ女公、メイレユ女公
1661年3月9日-01:00|フランス| |||<即位>ヌヴェール公「Philippe Jules Mancini」(~1707年死去)
1661年3月11日-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「ミルザ・モハンマド・マフディ・カラキ」(~1669年)
1661年3月11日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ハクル伯「メアリー・スコット」
1661年3月11日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ハクル伯「アン・スコット」(⇒16630420初代ハクル公~17320206死去)
1661年3月19日 00:00|ガンビア/ラトビア/イギリス| |||イギリス軍がセント・アントリュース島とその他のケラントー島の所有物を占領し、ジェームズ島をジェームズ砦と改名
1661年3月22日-01:00|イタリア| |||<死去>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジャン・ペルナルト・フルゴーニ」
1661年3月28日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アントニオット・インヴェラ」(~16630329)
1661年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベルツツィ」[スフォルツァ・ジョーニ]
1661年4月4日-09:00|日本|栃木県大田原市|万治4年3月5日|<死去>下野大田原藩12400石「大田原政清」⇒長男「大田原高清」が継ぐ(弟為清に1千石分与し11400石⇒延宝5(1677)年9月25日、強制隠居)
1661年4月10日 03:00|ブラジル| |||リオ・ジェロニモ・バルバリーヨ、植民地の重税に反対し反乱を起こす
1661年4月10日-09:00|日本/オランダ| ||万治4年3月11日|幕府がオランダ人に新条令を渡す
1661年4月19日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国総督代行「ヘーダー・リーツ・ティル・ティゲ・ストラップ」(~8.23)
1661年4月20日 00:00|イギリス| |||<就任>初代アングルー伯「アーサー・アンズリー」(~16860406死去)
1661年4月20日 00:00|イギリス| |||<就任>初代カーティガン伯「トマス・ブルーデネル」(~16630916死去)
1661年4月20日 00:00|イギリス| |||<就任>初代クラレンドン伯「エドワード・ハイト」(~16741209死去)
1661年4月20日 00:00|イギリス| |||<就任>エセックス伯「アーサー・カール」(~16830713死去)
1661年4月27日-09:00|日本|京都府綾部市|万治4年3月28日|<分与>丹波綾部藩2万石「九鬼隆季」弟「隆重」に500石⇒19500石(⇒延宝2年11月16日(16741213)、隠居)
1661年4月28日-09:00|日本|東京都|万治4年3月29日|伊達堀(今の神田川)完成期間は10か月
1661年4月30日 00:00|イギリス| |||<就任>カラル伯「チャールズ・ハワード」4代ノーフォーク公の玄孫(~16850224死去)
1661年4月30日-08:00|台湾/オランダ| ||南明・永暦15年4月2日|明の遺臣鄭成功が、台湾でのオランダの根拠地ゼーランツ・ア城とプロウアンア城の攻略を開始
1661年5月 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Jeronimo de Benavente y Quinones」(~16650519)
1661年5月1日-01:00|ルウェー/デンマーク| |||<就任>ルウェー総督「アイベル・クラッペ・ティル・ヨルド・ベリ」(~1664年6月)
1661年5月1日-09:00|日本|大分県東郷郡日出町|万治4年4月3日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊治」⇒長男「木下俊長」が継ぐ(⇒宝永4(1707)年9月12日、隠居)
1661年5月2日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領アンダーソン島管理人「Amias Andros」(~1674年死去)
1661年5月2日-08:00|台湾| ||南明・永暦15年4月4日|明の遺臣鄭成功が、プロウアンア城攻略
1661年5月3日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1661/4/23|イギリス王チャールズ2世が、ロンドン塔から始める即位式の行列を復活
1661年5月5日 00:00|イギリス| |||<死去>ケンブリッジ公「チャールズ・ステュアート」
1661年5月6日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ロバート・ストリンガー」(~1670年)
1661年5月9日-09:00|日本|東京都文京区|万治4年4月11日|小石川溝渠が完成
1661年5月10日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・ダ・グイタル・デ・ネグレイロス」(~16660820)
1661年5月10日-01:00|フランス| |||<即位>ヴァロア公・オルアン公「フィリップ1世」(~17010609、脳卒中で死亡60歳)
1661年5月11日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヘイブン植民地総督「ウィリアム・リット」(~1665年)
1661年5月12日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「アトリアン・ファン・デル・マイデン」(2度目~1663年)
1661年5月18日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1661/5/8|イギリスで騎士議会が始まる
1661年5月23日-09:00|日本| ||寛文1年4月25日|「寛文」に改元
1661年5月27日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アーガイル侯「アーチボルド・キャンベル」爵位剥奪
1661年5月29日-08:00|台湾| ||南明・永暦15年5月2日|鄭成功がプロウアンア城に承天府を築く
1661年6月 03:00|ブラジル| |||リオの反乱者、総合会社の派遣した軍との市街戦のすえ敗北
1661年6月3日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ビルマ王「ヒンデール・ミン」
1661年6月3日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「パ・ミン」(~16720414)
1661年6月4日-09:00|日本|京都府宇治市|寛文1年5月8日|明から渡来した隠元隆琦が、幕府より宇治の地を与えられ、黄檗山万福寺を創建
1661年6月8日-09:00|日本| ||寛文1年5月12日|幕府が、再び銭貨の価格、新銭鑄造に関する禁規を出す
1661年6月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ゲオルク2世」
1661年6月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝イッター方伯「ゲオルク3世」ヘッセン＝ダルムシュタット方伯ゲオルク2世の次男(~167607

1680迄 (2638件)

19死去、1代で断絶)

1661年6月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ルートヴィヒ6世」ゲオルク2世の息子(～16780424死去)
1661年6月14日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「統治委員会(ルイス・デ・メントンサ・フルタド・エ・アルバ・カキ/ペドロ・デ・ランカストル)」(～16621214)
1661年6月14日 00:00|イギリス| |||<就任>初代トモダチ伯「ヘンリー・ムーア」(～16760111死去)
1661年6月15日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ハミルトン女公「アン・ハミルトン」先代の姪(～16980709死去)クライステル侯・ラナーク伯・アラン＝ケンブリッジ伯
1661年6月21日-01:00|イタリア| |||<死去>アントニオ・サッキ、イタリアの画家(生年1599年頃)
1661年6月21日-01:00|スウェーデン/ロシア| |||ロシアとスウェーデンがガルト島の講和/ロシアのバルト海沿岸からの撤退
1661年6月23日-05:30|インド/ポルトガル/イギリス| |||イギリスとポルトガルの条約でボンベイがイギリスに割譲
1661年7月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドロス(総督)「Ahmed Pasha」(～同年)⇒「Yusuf Pasha」(～1662年)
1661年7月2日-09:00|日本|東京都墨田区|寛文1年6月6日|江戸本所の新溝渠が完成
1661年7月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>フアルツ＝ツヴァイブリュッケン公「フリートリヒ」
1661年7月9日-01:00|ドイツ| |||<即位>ツヴァイブリュッケン公「フリートリヒ＝ルートヴィヒ」(～16810411死去)
1661年7月9日-09:00|日本|宮崎県日南市|寛文1年6月13日|<死去>日向飢肥藩51000石「伊東祐由」31歳⇒弟「伊東祐実」が継ぐ(⇒正徳4(1714)年、隠居)
1661年7月11日-01:00|オランダ| |||<死去>ベルゲン＝オブ＝スーム辺境伯「アイテル＝フリートリヒ＝フォン＝ホーエンツォレルン＝ヘッピンゲン」
1661年7月16日-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンのストックホルム銀行がヨーロッパ最初の紙幣発行
1661年8月6日-08:00|インドネシア/東ティモール/オランダ/ポルトガル| |||ポルトガルとオランダがティモールを分割/オランダ領西ティモール(オランダ東インド諸島および後インドネシアの一部)、ポルトガル領東ティモール
1661年8月23日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国総督「ランツァウ伯爵クリスティアン＝ランツァウ」(～16631108没)
1661年8月23日-09:00|日本|茨城県水戸市|寛文1年7月29日|<死去>常陸水戸藩28万石「徳川頼房」(生年1603年)⇒8月19日、三男「徳川光圀」が継ぐ(⇒元禄3(1690)年10月14日、隠居)
1661年8月25日-09:00|日本|東京都台東区|寛文1年8月|江戸桐座開場
1661年8月25日-08:00|中国| |||清・順治18年8月|清が遷界令を發布し、沿岸住民を内地へ移動
1661年8月25日-09:00|日本| |||寛文1年8月1日|幕府が関所女手形制を布令
1661年8月27日-01:00|イタリア/トルコ| |||ペネシア海軍司令長官「ジョルジョ・モロシニ」ミロでトルコを破る
1661年9月5日-01:00|フランス| |||フランスの財務長官のニコラ＝フケ(46)が、公金横領の罪で逮捕され失脚
1661年9月14日-02:00|ルーマニア| |||<即位>トランシルヴァニア大公「ミハエル・アパフィ・アパチ・ザルバニ」(16620123まで対立～16900415没)
1661年9月16日-09:00|日本|東京都江東区|寛文1年8月23日|九州太宰府天満宮の大鳥居信祐が亀戸天神社創建(亀戸天神、亀戸天満宮)
1661年9月19日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ユースタチエ＝ダビヤ」(～16650911没)
1661年9月26日-09:00|日本|千葉県佐倉市|寛文1年閏8月3日|<移封>上野館林藩55000石「松平乗久」⇒下総佐倉藩6万石(⇒延宝6(1678)年1月23日、肥前唐津藩7万石へ加増移封)
1661年9月30日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛文1年閏8月7日|<再任>大坂城代「水野忠職」(～寛文2(1662)年3月29日)
1661年10月-01:00|フランス| |||<死去>ジャール＝デ＝ザルグ、フランスの数学者・建築家(生年1591年)無限遠点の概念など射影幾何学の基本概念を確立し、射影幾何学の最初の定理であるデ＝ザルグの定理を証明
1661年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ＝ドンニ」「イノセント・ボネリ」
1661年10月2日 00:00|イギリス| |||<就任>2代オモンド伯・初代フォーファー伯「アーチボルト＝ダグラス」初代オモンド伯爵の次男(～17121111死去)
1661年10月2日-09:00|日本|群馬県館林市|寛文1年閏8月9日|<加増移封>近江・美濃・信濃・駿河・上野国内15万石「徳川綱吉」⇒上野館林藩25万石(⇒延宝8(1680)年5月、「徳川家綱」養嗣子として江戸城二の丸に入る)
1661年10月2日-09:00|日本|山梨県甲府市|寛文1年閏8月9日|<加増>甲斐甲府藩15万石「徳川綱重」+10万石⇒25万石(⇒延宝6年9月14日(16781029)死去)
1661年10月20日-09:00|日本| |||寛文1年閏8月27日|相対済令(金公事[金銀貸借関係の訴訟]を幕府は取り上げず当事者同士で解決(「相対」)することを命じた示談促進法令)、出される
1661年10月31日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国大宰相「ケプルーリュ＝メフメド＝パシャ」
1661年10月31日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケプルーリュ＝ファズル＝アーメド＝パシャ」(～16761019)
1661年11月1日-01:00|スペイン| |||<死去>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「フェリペ＝プロスペロ」
1661年11月6日-01:00|スペイン| |||<就任>アストurias公(スペイン国王の推定相続人)「カルロスフェリペ＝プロスペロ」の弟、後のスペイン王カルロス2世(～16650917～17001101死去)
1661年11月16日-08:00|ブルネイ| |||<死去>ブルネイ＝スルタン「ムハンマド＝アリ」
1661年11月16日-08:00|ブルネイ| |||<即位>ブルネイ＝スルタン「アブドゥル＝ムヒン」(～1673年死去)
1661年11月17日-09:00|日本|茨城県久慈郡大子町|寛文1年9月26日|<立藩>常陸保内藩2万石「松平頼隆」水戸藩より分与(⇒元禄13(1700)年9月25日、常陸府中藩2万石に移封)
1661年11月17日-09:00|日本|茨城県那珂市|寛文1年9月26日|<立藩>常陸額田藩2万石「松平頼元」水戸藩より分与(⇒元禄6(1693)年4月28日、死去)
1661年11月24日 00:00|カリヤ諸島| |||<死去>ランカローテ島領主「Luisa Bravo de Guzman」
1661年11月25日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督代行「ペドロ＝フェルナンデス＝デ＝コルトバ」(～16620227)
1661年11月26日-01:00|スペイン| |||<死去>オリバーレス公「ルイス＝メンデス＝デ＝アロ」

1680迄 (2638件)

1661年11月26日-01:00|スペイン| |||<就任>オリバーレス公「ガスパール・メンデス・デ・アロ」(~16871116死去)
1661年12月13日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|寛文1年10月22日|<死去>伊勢神戸藩2万石「石川総長」⇒長男「石川総良」が継ぐ(⇒貞享2(1685)年6月29日、死去)
1661年12月18日-09:00|日本|大阪府岸和田市|寛文1年10月27日|<交替>和泉岸和田藩6万石「岡部宣勝」隠居⇒長男「岡部行隆」が継ぐ(弟「高成」に5千石、「豊明」に2千石分与し53000石⇒貞享3(1686)年8月25日、隠居)
1661年12月19日-09:00|日本|東京都中央区|寛文1年10月28日|中村座、山村座焼失
1661年12月22日-09:00|日本|東京都中央区|寛文1年11月|(~翌年始め)『河内通』(堺町の中村勘三郎座)二代目玉川千之丞、ロクラン
1661年12月22日-09:00|日本|千葉県富津市|寛文1年11月1日|<死去>上総飯野藩17000石「保科正貞」⇒長男「保科正景」が継ぐ(「保科正英」に2000石分与し15000石⇒延宝5(1677)年7月7日、丹波国内5000石を加増され2万石)
1661年12月24日-05:30|インド/オランダ| |||キロンはオランダが所有
1661年12月29日-09:00|日本|埼玉県東松山市|寛文1年11月8日|<拝領>武蔵国野本藩13500石「渡辺吉綱」(⇒寛文8(1668)年6月19日、死去)
1661年12月31日 05:00|ベル/スペイン| |||<就任>ペル副王「サンティスマン伯デ・イコ・デ・ベネ・デ・ス・イ・デ・ラ・クエバ」(~16660316没)
1662年-08:00|インド/ネパ/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Simon Cos」(3期目~1664年)
1662年-08:00|インド/ネパ/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Anthonij van Voorst」(~1667年)
1662年-08:00|インド/ネパ| |||<即位>チルボン・カマン君主「Sultan Anom1世 Badruddin」(~1703年)
1662年-08:00|インド/ネパ| |||<即位>チルボン・クスパン君主「Sultan Sepuh1世 Syamsuddin」(~1697年)
1662年-08:00|インド/ネパ| |||<即位>チルボン・パネンバハン君主「Panembahan Cirebon1世 Muhammad Nasruddin」(~1714年)
1662年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「ヤコフ・フスタルト」(~1663年)
1662年-05:30|インド| |||<就任>ナヤル国ラジャ「ガダ・タル・シン・マンタッタ」(~1701年)
1662年-05:30|インド| |||<就任>ムドゥル国統治者「ラジ・エ・ゴルバ・デ・ハ・ハドゥル」(「マロシ・ラジ・エ・ゴルバ・デ」(~1700年没))
1662年-05:30|インド/オランダ/ポルトガル| |||ポルトガル領サントメ・デ・メリアンがオランダに占領された(~16720725)
1662年-03:00|エチオピア| |||<就任>ハラール首長国エミール「ハシム・イブン・アリ」(~1671年)
1662年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>カンデリア王国総督「ニコロ・コーナ」(~1664年)
1662年-01:00|フランス| |||<就任>サンポール伯「ジャン・ルイ・ロンクヴァイル公」(~1668年)
1662年-01:00|ドイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク＝ルードルシュタット伯「アルブレヒト・アントン」(⇒1697年シュヴァルツブルク＝ルードルシュタット侯~17101215死去)
1662年-01:00|リトニア| |||<就任>ファトゥツ執行官「クリストフ・ケーベル」(1回目~1676年)
1662年-01:00|オーストリア| |||<即位>前方オーストリア大公「ジギスムント・フランツ」(~1665年)
1662年-01:00|デンマーク/アイスランド| |||アイスランドがデンマークの支配下におかれる
1662年-01:00|スペイン/インド/ネパ| |||スペインがモルッカ諸島を放棄
1662年 00:00|イギリス| |||<死去>初代キンカーディン伯「エドワード・ブルース」
1662年 00:00|イギリス| |||<就任>2代キンカーディン伯「アレクサンダー・ブルース」(~1680年)
1662年 00:00|イギリス| |||<就任>2代ストラフォード伯「ウィリアム・ウェントワース」(~16951016死去)
1662年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「アントニオ・ダ・フォンセカ・デ・オルネラス」(~1664年)
1662年 00:00|フェロー諸島/デンマーク| |||<就任>フェロー諸島首席大臣「Joen Poulsen」(2期目~1677年)
1662年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>ラ・コメロ伯「Diego3世 de Ayala Herrera y Rojas」(~1668年)
1662年 00:00|カナダ/スウェーデン| |||スウェーデンがカルボリを再占領(~16630422)
1662年 00:00|イギリス| |||ロバート・ボイルが、気体の体積は圧力に反比例するというボイルの法則を発見
1662年 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセラト総督「Anthony Brisket2世」(1期目~16670210)
1662年 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「ファン・デ・バルサ・ア・イ・モグロウエホ」(~1670年)
1662年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<就任>バ・ブー・ダ 総督「ジョン・ノエ」(~1665年)
1662年 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官代行「ペドロ・デ・モリス」(~1663年)
1662年 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのタートル島総督代行「フレデリック・デ・シャン・ド・ラ・ポラス」(~1665年6月)
1662年 05:00|キューバ| |||英国人海賊グランド、サンチアゴを襲撃。市内で略奪行為
1662年 06:00|アメリカ| |||ミグス提督、カンパチ湾のサンフランシスコを占領し略奪
1662年1月 00:00|イギリス| |||イギリスでロイヤルサティが設立
1662年1月 00:00|イギリス| |||ジョン・グラントが「死亡表」の統計を発表
1662年1月4日-08:00|マレーシア| |||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「ムヒディン・マンスール・シャー」
1662年1月4日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「ジャッティーン・ムカラム・シャー1世」(~16880501死去)
1662年1月10日-01:00|モナコ| |||<就任>モナコ公「ルイ・ジ」(=ルイ1世) (~17010103没)
1662年1月15日-05:30|インド/オランダ| |||クランガノーレはオランダが所有(~1770年)
1662年1月20日-06:30|ミャンマー/中国| |||清・順治18年12月|呉三桂率いる清軍がビルマに侵攻し、永歴帝を捕縛
1662年1月23日 05:00|エカトル/スペイン| |||<就任>スペイン領ネブセ総督・総司令官・大審問院長「アントニオ・フェルナンデス・デ・エレーア」(~1665年没)
1662年1月29日 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ピーター・バウ伯ヘンリー・モータント」(~1663年)
1662年1月29日 00:00|モロッコ/イギリス| |||タンジールはイギリスに譲渡された
1662年2月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Kanbur Mustafa Pasha」(~1663年)

1680迄 (2638件)

1662年2月1日-09:00|日本|大阪府|寛文1年12月13日|<分知立藩>摂津嶋下郡内1万石「板倉重形」(重宗二男)兄・重郷から9千石分与(⇒延宝9(1681)年5月21日、上野国安中藩15000石へ加増移封)
1662年2月1日-09:00|日本|千葉県野田市|寛文1年12月13日|<分与>下総関宿藩5万石「板倉重郷」弟「重形」に5000石と新田4000石を分与し45000石(⇒17日、死去)
1662年2月1日-08:00|台湾| ||南明・永暦15年12月13日|<即位>鄭氏政權国王「鄭成功」(~6.23死去)
1662年2月1日-08:00|台湾/オランダ| ||南明・永暦15年12月13日|鄭成功、オランダ勢力の台湾・安平古堡を陥落、鄭氏の台湾統治開始
1662年2月2日 05:00|コロンビア/スペイン| ||<就任>ヌエバグラナダ大統領・総督・総司令官「デ・イエゴ・デ・エグイス・イ・ホーメント」(~16641225没)
1662年2月5日-09:00|日本|千葉県野田市|寛文1年12月17日|<死去>下総関宿藩45000石「板倉重郷」⇒翌年、長男「板倉重常」が継ぐ(⇒寛文9(1669)年2月、伊勢亀山5万石に加増移封)
1662年2月16日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|寛文1年12月28日|<死去>備中足守藩2万5千石「木下利当」⇒翌年2月、長男「木下利貞」が継ぐ(⇒延宝7(1679)年4月16日、死去)
1662年2月18日-08:00|中国| ||清・康熙1年1月1日|清・康熙と改元
1662年2月19日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|寛文2年|芦之湯・松坂屋本店創業
1662年2月19日-09:00|日本|京都府南丹市|寛文2年|<分与>丹波園部藩28000石「小出吉親」が養子「吉直」に3千石⇒25000石(⇒寛文7(1667)年6月9日、隠居)
1662年2月23日-01:00|ドイツ| ||<死去>ヨハン・クリューガー、ドイツの作曲家(生年1598年)
1662年2月27日 04:00|オランダ/スペイン| ||<死去>オランダ総督「ペドロ・ポルター・セサ」
1662年2月27日 04:00|オランダ/スペイン| ||<就任>オランダ総督代行「デ・イエゴ・ゴンサレス・モンテロ・ユスティニアス」(1回目~5.22)
1662年2月27日 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ暫定総督「ロドリゴ・アリアス・マルドナド・イ・ゴンゾラ」(~1664年)
1662年3月12日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文2年1月22日|<死去>伊予松山藩15万石「松平定頼」⇒次男「松平定長」が継ぐ(⇒延宝2(1674)年2月12日、死去)
1662年3月16日 00:00|カナダ/スウェーデン| ||<就任>スウェーデン・ゴールド・コースト司令官「アントン・ヴァス」(~16630422)
1662年3月23日 00:00|イギリス| ||<死去>ジョン・ゴードン、イングランドの聖職者、作家(生年1605年)「エイコン・バシカ」の著者
1662年3月25日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文2年2月6日|<解任>老中「松平信綱」
1662年3月30日-01:00|フランス| ||<死去>フランソワ・マルト・ボワロベール、フランスの聖職者、詩人(生年1592年)
1662年4月-01:00|赤道ギニア/オランダ| ||オランダによるアンボンの占領(~1664年)
1662年4月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「フルゲンツィオ・マッジョニ」「ジ・ローモ・モラッチ」
1662年4月7日 00:00|カナダ/オランダ| ||<就任>オランダ領ゴールド・コースト総裁「ダーク・ウィル」(1回目~12.23)
1662年4月10日 00:00|イギリス| ||<就任>初代アラン伯「リチャード・パトラー」(~16860125死去)
1662年4月10日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛文2年2月22日|<拝領>常陸宍戸藩1万石「土屋数直」(⇒寛文4(1664)年6月13日、5000石加増され15000石)
1662年4月10日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文2年2月22日|幕府が若年寄を再置し、側衆久世広之・土屋数直を任じる
1662年4月18日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文2年2月30日|江戸幕府が老中・若年寄の任務を定める
1662年4月19日-09:00|日本|熊本県熊本市|寛文2年3月|<領土分与>肥後熊本藩51万石「細川綱利」弟「利重」に5000石分与し50万5千石(⇒寛文6(1666)年7月、弟「利重」に熊本新田藩3万5000石を内分立藩⇒元禄10(1697)年6月、熊本新田藩主「利昌」の弟「利武」に5000石分与し50万石)
1662年4月24日-09:00|日本|埼玉県深谷市|寛文2年3月6日|<交替>武蔵岡部19250石「安部信盛」隠居⇒長男「安部信之」が継ぐ(弟「信秀」に1000石、「信直」に1000石分与し17250石⇒寛文8(1668)年8月、3000石加増され20250石)
1662年4月30日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<死去>サミゲル島トナリオ長官「Rodrigo da Camara」
1662年5月4日-09:00|日本|埼玉県川越市|寛文2年3月16日|<死去>武蔵川越藩75000石(老中)「松平(大河内)信綱」(生年1596年)⇒4月18日、家督を長男「松平輝綱」が継ぐ(⇒寛文11(1671)年12月12日、死去)
1662年5月6日-02:00|南アフリカ/オランダ| ||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ザカリヤス・ワグナー」(~16660927)
1662年5月15日-09:00|日本|山梨県甲州市|寛文2年3月27日|<死去>甲斐徳美藩12000石「伊丹勝長」代官に殺害される⇒長男「伊丹勝政」が継ぐ(1万石⇒元禄4(1691)年7月15日、死去)
1662年5月16日-09:00|日本|長崎県|寛文2年3月28日|(1月~)長崎で天然痘流行、死者2318人
1662年5月17日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン・ヴァイマル公「グーティルヘルム」
1662年5月17日-01:00|ドイツ| ||<就任>ザクセン・アイルハース侯「Adolf Wilhelm」(~16681121死去)
1662年5月17日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン・ヴァイマル公「ヨハン・エルスト2世」グーティルヘルムの息子(~16830515死去)
1662年5月17日-09:00|日本|大阪府|寛文2年3月29日|<加増移封>信濃小諸藩3万石「青山宗俊」⇒摂津国・河内国・和泉国・遠江・相模・武蔵など5万石(大阪城代⇒延宝6(1678)年8月18日、遠江浜松藩5万石へ移封)
1662年5月17日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛文2年3月29日|<就任>大坂城代「青山宗俊」(~延宝6(1678)年6月17日)
1662年5月18日-09:00|日本|栃木県大田原市|寛文2年4月1日|<死去>下野黒羽2万石「大関増親」⇒弟「大関増栄」(~貞享5年6月21日(16880718)死去)
1662年5月22日 04:00|オランダ/スペイン| ||<就任>オランダ総督「エンツェル・デ・ヘレ」(~1664年1月)
1662年5月29日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1662/5/19|礼拝統一令が議会で承認される/1000人の清教徒が聖職から追放されることになる

1680迄(2638件)

1662年6月1日-08:00|中国| ||南明・永暦16年4月15日|南明最後の皇帝永暦帝が呉三桂により処刑され南明滅亡
1662年6月4日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|寛文2年4月18日|<死去>因幡鹿野藩1万石「池田輝澄」⇒四男「池田政直」
が嗣ぐ(⇒寛文3(1663)年、播磨福本藩1万石へ移封)
1662年6月6日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|寛文2年4月20日|<死去>大和国郡山新田藩1万石「本多政信」29歳⇒
養子「本多政貞」が継ぐ(⇒延宝7(1679)年、播磨山崎藩1万石に転封「忠英」に改名、廃藩
1662年6月7日 00:00|ガーナ/デンマーク| ||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「ヘンク・アルブレヒト」(16640910まで代行~1
668年6月)
1662年6月10日-09:00|日本|千葉県館山市|寛文2年4月24日|<死去>安房北条藩1万石「屋代忠正」69歳⇒養子「屋代
忠興」が継ぐ(⇒寛文3年1月6日(16630213)、45歳で死去)
1662年6月11日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ハース伯「ジョン・トラモント」
1662年6月11日 00:00|イギリス| ||<就任>3代ハース伯「ジェームズ・トラモント」先代の長男(~1675年)
1662年6月15日-01:00|フランス| ||<死去>ヴェルテンベルク=メメル公「レオポルト・フリードリヒ」
1662年6月15日-01:00|フランス| ||<即位>ヴェルテンベルク=メメル公「ゲオルク2世」レオポルト・フリードリヒの弟(~16990601死
去)
1662年6月16日-09:00|日本|京都府京都市上京区|寛文2年5月|儒学者伊藤仁斎が堀川下立売上るに私塾を開いた
(古義堂)
1662年6月16日 00:00|日本| ||寛文2年5月1日|<1662寛文近江・若狭地震「琵琶湖西岸地震」>巳の刻(午前9時ご
ろ)から午の刻(13時ごろ)にかけて、近畿、東海地方から信濃国に及ぶ広範囲な地域にマグニチュード7.25~7.6にわ
たる大地震/巳の刻発生日震では小浜や三方五湖周辺地域に被害が出たが、特に日向断層を挟んだ東側の地盤
が幅数Kmの範囲で隆起し、その西側の地盤を沈ませ、三方湖からの唯一の排水河川・気山川の河道がふさがれ、
同湖南西岸の村々の田畑を冠水させた/午の刻発生日震は葛川谷や琵琶湖沿岸地域に被害を与えたが、特に
西岸の比良岳付近の被害が甚大で、唐崎、志賀両郡では田畑85町歩(0.84平方Km)が湖中に水没、家屋倒壊1570軒
/湖岸の大溝では倒壊1020軒余、37人死亡/安曇川上流域の葛川谷では「町居崩れ」と称された史上屈指の大規模
な土砂崩れが起き、560人余が死亡、家屋はすべて埋没/対岸の彦根でも家屋倒壊1000軒、30人余が死亡/京都で
は、盆地南部の軟弱地盤地域に被害が集中し家屋倒壊1000軒余、200人余死亡という被害/全体の被害は家屋倒
壊4500軒余、880人余死亡
1662年6月23日-08:00|台湾| ||南明・永暦16年5月8日|<死去>鄭氏政権国王「鄭成功」37歳(誕生16240827)明朝再
興を目指した武人/「国姓爺」と言われた
1662年6月23日-08:00|台湾| ||南明・永暦16年5月8日|<即位>鄭氏政権国王「鄭襲」(~30日)
1662年6月30日-08:00|台湾| ||南明・永暦16年5月15日|<即位>鄭氏政権国王「鄭經」(~16810317)
1662年7月-04:00|ロシア| ||モスクワで「銅一揆」がおこる
1662年7月11日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|寛文2年5月26日|竹田芝居、道頓堀に開場
1662年7月12日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル国務長官「ルイス・ヴァスコデロス・エ・ソサ、カステロ・メルオール伯」(~166709
09)
1662年7月16日-01:00|イタリア| ||<死去>モナ・レージョ公「アルフォンソ4世」
1662年7月16日-01:00|イタリア| ||<即位>モナ・レージョ公「フランチェスコ2世」(~16940906死去)
1662年7月19日-09:00|日本|長野県小諸市|寛文2年6月4日|<加増移封>上野伊勢崎藩22500石「酒井忠能」⇒信濃小
諸藩3万石(⇒延宝7(1679)年9月6日、駿河田中藩4万石へ加増移封)
1662年7月25日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦7月15日|イギリスで、王立協会(ロイヤル・ソサエティ)が設立される
1662年7月27日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド副卿「オモント」公爵「ジェームズ・ハートレー」(3回目~16690918)
1662年7月28日 00:00|アイルランド/デンマーク| ||<就任>アイルランド総督「ヘンリック・ビエルケ・ティル・エリク・ト・オグ・ネズビホルム」(~16
830316)
1662年7月28日 00:00|日本|栃木県日光市|寛文2年6月13日|<寛文2年日光山中土砂災害>申刻(16時ごろ)東照宮
の東を流れる稲荷川(大谷)が大洪水にて、稲荷川町、表町、裏町十三丁家数三百軒余、此時家・馬おびただしく流
る、死亡した者148人
1662年7月29日-09:00|日本|栃木県日光市|寛文2年6月14日|日光、稲荷川の大洪水/目付代・田中高成をはじめ、同
心10人、町人148人が死亡
1662年8月11日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領ジャマイカ総督「ウインザー男爵トマス・ヒックマン・ウインザー」(~10.28)
1662年8月19日-01:00|フランス| ||<死去>フランスの数学者・哲学者「ブレス＝パスカル」39歳(誕生:16230619)計算機の原型
を考えた
1662年8月25日 04:00|パラグアイ/スペイン| ||<就任>パラグアイ総督「ファン・デ・イエス・デ・アンデ・イノ」(1回目~16710413)
1662年8月25日-09:00|日本|福井県小浜市|寛文2年7月12日|<死去>酒井忠勝(生年1587年)若狭国小浜藩初代藩主
、元老中、大老
1662年8月28日 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| ||フランス国王ルイ14世によってコーリス・ランブソンに個人事業(トバゴ男爵
領)として与えられた(16640930、オランダの三部会によってオランダ植民地の地位の保持が指定された)
1662年9月4日-09:00|日本|茨城県行方市|寛文2年7月22日|<死去>常陸麻生藩27300石「新庄直好」⇒従弟「新庄直
時」が継ぐ(⇒延宝2(1674)年8月9日、隠居)
1662年9月10日-09:00|日本|愛知県西尾市|寛文2年7月28日|<死去>三河西尾藩2万石「増山正利」⇒9月22日、甥「増
山正弥」が継ぐ(⇒寛文3(1663)年7月11日、常陸下館藩2万石に移封)
1662年9月15日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>サンミゲル島ドナリア長官「Manuel Luis Baltasar da Camara」
(~16731229死去)
1662年9月15日-09:00|日本|香川県高松市|寛文2年8月3日|落雷で高松城本丸北西隅の矢倉焼失、多門56間類焼、

黒金門東北隅の矢倉のそばで鎮火する

- 1662年9月19日-01:00|リテンシュタイン| |||<死去>ホーネムス・ガラ・ファト・ウツ伯「フランツ・ヴィルヘルム1世」
- 1662年9月19日-01:00|リテンシュタイン| |||<就任>ホーネムス・ガラ・ファト・ウツ伯摂政「エオノーラ・カタリーナ・グレフィン・スー」(~1670年没)/フルステンベルク(~16700218)/カール・フリードリヒ・ゲラフ・ツォー・ホーエンブス(~1675年没)」(~16751020)
- 1662年9月19日-01:00|リテンシュタイン| |||<就任>ホーネムス・ガラ・ファト・ウツ伯「フェルディナント・カール」(~16860218没)
- 1662年9月29日-01:00|イタリア/トルコ| |||オスマン艦隊、スタンパ付近で撃破される
- 1662年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロベール・ベルツィ」「ボンペ・イ・ゾリ」
- 1662年10月6日-09:00|日本|東急百貨店|寛文2年8月24日|近江長浜の材木商大村彦太郎が江戸日本橋に間口一間半の小間物店「白木屋」創業(→東急百貨店)/東京都
- 1662年10月12日-09:00|日本|千葉県富津市|寛文2年9月|<交替>上総佐貫藩15000石「松平勝隆」隠居⇒養子「松平重治」が嗣ぐ(⇒貞享元(1684)年11月10日、改易)
- 1662年10月12日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・万慶1年9月|大越後黎朝8代・神宗が万慶と改元
- 1662年10月13日-09:00|日本|栃木県栃木市|寛文2年9月2日|<死去>下野皆川藩10500石「松平重正」⇒長男「松平重利」が継ぐ(⇒寛文5(1665)年3月24日、死去無嗣廃藩)
- 1662年10月21日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンリー・ローズ、イングラントの音楽家・作曲家(生年1595年)
- 1662年10月24日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領マルティニーク知事「Adrien Dyel」
- 1662年10月24日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Mederic Roole」(~1663年)
- 1662年10月24日-09:00|日本|香川県丸亀市|寛文2年9月13日|<死去>讃岐丸亀藩6万石「京極高和」⇒12月4日、次男「京極高豊」が継ぐ(義兄「高房」へ3000石分知し57000石⇒寛文4(1664)年4月5日、曾祖母常高院の所領であった近江蒲生郡内1400余石を加増され58512石)
- 1662年10月28日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ総督代行「チャールズ・リトルン卿」(~16640502)
- 1662年10月31日-09:00|日本| |||寛文2年9月20日|<寛文2年日向灘地震「外所地震」>子の刻(午前0時ごろ)、日向、大隅両国をマグニチュード7.5クラスの大地震が襲い、日向国那珂郡の沿岸7か村の周囲約32km、田畑8500石余相当の土地が海に没し、入江となった/主な被害は、日向県(延岡藩)領で6人死亡、城の三の曲輪、橋脇の石垣が9mほど崩壊、町家ほか全壊1398軒、同半壊630軒余、津波のため船舶破損10隻、田畑0.6平方km余が水没/同高鍋藩領は城中の石垣崩壊、侍屋敷・町家など倒壊278軒/同佐土原藩領では多数の人が死亡、城中二の丸曲輪の冠木(柱の上部を貫く横木)が上から崩落したほか城内の長屋30軒倒壊、侍屋敷・町家など800軒余倒壊/同飢肥藩領15人死亡、城の石垣350mほど崩壊、堀2か所埋没、侍屋敷・町家など1213軒倒壊、その内264軒が水没、入江になった外所村とその周辺は同藩領/肥後人吉藩領は城中の本丸、三の丸曲輪東門口の石垣が少々崩落、侍屋敷・町家少々破損
- 1662年11月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Gurcu Mehmed Pasha」(~1664.10)
- 1662年11月2日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・万慶1年9月22日|<死去>後黎朝(大越)後期第8代皇帝「神宗黎維祺」
- 1662年11月2日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・万慶1年9月22日|<即位>後黎朝(大越)後期第9代皇帝「玄宗」(~16711116死去)
- 1662年12月9日-09:00|日本|広島県福山市|寛文2年10月29日|<死去>備後福山藩10万1000石「水野勝貞」38歳⇒翌年、長男「水野勝種」が継ぐ(⇒元禄10年8月23日(16971007)、死去)
- 1662年12月14日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「アントニオ・デ・モロ・カストロ」(~16661017)
- 1662年12月23日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ジョン・ヴァン・ファルケンバーグ」(2回目~16670602)
- 1662年12月26日-01:00|フランス| |||モリエールの「女房学校」がパレ・ロワイヤルで初演
- 1662年12月26日-09:00|日本| |||寛文2年11月16日|幕府が金銀の相場の令を出す
- 1662年12月30日-01:00|オーストリア/イタリア| |||<死去>前方オーストリア大公・チル伯「フェルディナント・カール」
- 1662年12月30日-01:00|イタリア| |||<就任>チル伯「Sigismund Francis」(~16650625死去)
- 1662年12月30日-01:00|オーストリア| |||<即位>前方オーストリア大公「ジギスムント・フランツ」(~16650625)
- 1663年-08:00|インドネシア/スペイン| |||<就任>モルッカ諸島スペイン総督「Francesco de Atienza Ibanez」(2期目~同年)
- 1663年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・スルタン国スルタン「ラジャ・バハル・ビン・ラジャ・サティ」(~1667年)
- 1663年-05:30|スリランカ/オランダ| |||<再任>オランダ領セイロン総督「リクフ・ファン・ゲーン」(2期目~同年)
- 1663年-05:30|インド| |||<就任>スエドランド国ラジャ「ジット・セン」(~1721年没)
- 1663年-05:30|インド| |||<就任>マクラン国ラジャ「マクランド・シャー」建国(~不明)
- 1663年-05:30|インド| |||マイソール王国トッタ・デーヴァ・ラージャはハッサンとサッカハッタを攻略し、ビダヌールを首都とするケラティナヤ朝に対しては貢納を命じた
- 1663年-05:30|インド| |||ラタック国はハインド(ムガル)帝国の支流(~1684年)
- 1663年-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国第14代ハン「アヌーシャアブル・カースイーの子」(~1685年)
- 1663年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「テムトレ」(~1664年)
- 1663年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「ハムク・ムスタファ・パシャ」(~1664年)
- 1663年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ヤコポ・ロレーノ」(~1665年)
- 1663年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Rilibeli Mustafa Pasha」(~1665年)
- 1663年-01:00|アンゴラ| |||<死去>アンゴラ王国女王「アン・デ・スーザ」40年にわたって支配してきた
- 1663年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「イスマイル・パシャ」(~16640801)
- 1663年-01:00|アルバニア/トルコ| |||ブトrintをオスマン帝国が占領(~1684年)
- 1663年 00:00|イギリス| |||<就任>第9代アーガイル伯「アーチバルド・キャンベル」(~16850630死去全爵位剥奪)
- 1663年 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ティエット伯アントニウ・ラザ・フォード」(~16640504)
- 1663年 00:00|イギリス| |||イギリスでタンパイクができる

1680迄 (2638件)

1663年 00:00|イギリス/バルバドス| |||バルバドス島がイギリス王領となり、以後イギリス人海賊の拠点となる
1663年 00:00|イギリス| |||ロバート・ボイルが鉱物の蛍光現象を発見(熱ルミネッセンス)
1663年 04:00|英領ヴァージン諸島/オランダ| |||<就任>トルトラ島オランダ知事「Willem Hunthum」(~1672年)
1663年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Jean Dye du Parquet sieur de Clermont」(~1665年)
1663年 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ペドロ・バスケス・デ・ベラスコ」(~16701212没)
1663年 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<設立>イギリスの王領植民地アンティグア・バブーダ
1663年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「パブロ・デ・フィゲロア」(~1665年)
1663年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル州市長兼副司令官「ペドロ・デ・サラウエス」(~1670年)
1663年 06:00|カナダ/アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「オーガスティン・ド・サフレ・ド・メシー」(~1665年)
1663年1月-01:00|ドイツ| |||ドイツでレーゲンスブルグの永久議会が開く
1663年1月4日-09:00|日本|広島県福山市|寛文2年11月25日|<交替>陸奥白河藩12万石「本多忠義」(隠居)⇒長男「本多忠平」が継ぐ(弟「忠利」に陸奥石川藩1万石、「忠以」に陸奥浅川藩1万石、「忠晴」に新田2500石、「忠周」に新田2500石を分与し10万石⇒天和元(1681)年7月27日、下野宇都宮藩11万石に転封)
1663年1月4日-09:00|日本|福島県石川郡|寛文2年11月25日|<立藩>陸奥石川藩1万石「本多忠利」白河藩より分与(⇒天和1(1711)年11月20日、三河挙母藩1万石へ移封)
1663年1月4日-09:00|日本|福島県石川郡浅川町|寛文2年11月25日|<立藩>陸奥浅川藩1万石「本多忠以」白河藩より分与(⇒寛文4(1664)年5月14日、死去)
1663年1月6日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーリッチ伯「ジョージ・ゴリング」
1663年1月6日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーリッチ伯「チャールズ・ゴリング」(~16710303死去)
1663年1月7日-05:30|インド/オランダ/ポルトガル| |||オランダがコーチンをポルトガルから奪取
1663年1月11日-09:00|日本|京都府綾部市|寛文2年12月2日|<死去>丹波山家藩1万石「谷衛政」65歳で死去⇒翌年、嫡孫「谷衛広」が継ぐ(⇒元禄2年12月21日(16900131)46歳で死去)
1663年1月12日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス領バミューダ総督「フロレンティウス・シーモア大佐」(1期目~16680515)
1663年1月13日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文2年12月4日|松山城下町のうち木屋町より出火、類焼14軒
1663年1月25日-09:00|日本|三重県津市|寛文2年12月16日|伊勢で大火、津城本丸などが焼失
1663年2月-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのペイルヴァイゲルグ・ア・マフト・パシャ(1回目~5月)
1663年2月 06:00|ホヅユース| |||ミンガス提督、14隻1400人からなる最大の海賊艦隊を編成、ホヅユースのサンフランシスコ・デ・カンパチを攻略
1663年2月7日-09:00|日本|群馬県吾妻郡嬬恋村|寛文2年12月29日|真田信利、幕府老中の命により大笹関所を創設
1663年2月7日-09:00|日本|群馬県吾妻郡長野原町|寛文2年12月29日|真田信利、幕府老中の命により狩宿関所を創設
1663年2月8日-09:00|日本|群馬県沼田市|寛文3年|真田信利、小川村(月夜野町)の常楽院法盛寺を幕岩城跡西隅に移し、千手観世音菩薩坐像を本尊とし、沼田城の鬼門除けとする
1663年2月8日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文3年|<再建>江戸城桜田門
1663年2月8日-09:00|日本|兵庫県神崎郡神河町|寛文3年|<移封>因幡鹿野藩1万石「池田政直」⇒播磨福本藩1万石(⇒寛文5年12月6日(16660111)死去)
1663年2月8日-08:00|中国| |||清・康熙2年|考証学者黄宗羲が政治論「明夷待訪録」を完成
1663年2月8日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・景治1年1月1日|大越後黎朝9代・玄宗が景治と改元(-1671)
1663年2月13日-05:30|インド/オランダ| |||カンヌールはオランダが所有(~1790年)
1663年2月13日-09:00|日本|千葉県館山市|寛文3年1月6日|<死去>安房北条藩1万石「屋代忠興」45歳⇒甥「屋代忠位」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年7月22日、失政を咎められて改易)
1663年2月14日 00:00|イギリス| |||<就任>初代モンマス公・ドンカスター伯「ジェームズ・スコット」(⇒16630420兼初代バクル公~16850613私権剥奪、妻の公爵位は存続)
1663年2月14日-09:00|日本|京都府舞鶴市|寛文3年1月7日|<死去>丹後田辺藩35000石「京極高直」32歳⇒長男「京極高盛」が継ぐ(弟「高門」に2000石分与し33000石⇒寛文8(1668)年5月3日、但馬豊岡藩33000石に転封)
1663年2月24日 06:00|カナダ/フランス| |||カナダがフランス王権の直接支配下に置かれる
1663年3月2日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|寛文3年1月23日|<死去>下総生実1万石「森川重政」⇒次男「森川重信」が継ぐ(⇒元禄5(1692)年6月27日、隠居)
1663年3月4日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||オランダの商船マースフェーンのバレンツ・シュラムによってデ・イ・アイランド(エドワード王子)とマースフェーン・アイランドと名付けられた諸島を発見
1663年3月5日-09:00|日本|京都府京都市|寛文3年1月26日|<就任>摂政「二条光平」(~寛文4年9.17)
1663年3月5日-09:00|日本|京都府京都市|寛文3年1月26日|<譲位>111代「後西天皇」
1663年3月5日-09:00|日本|京都府京都市|寛文3年1月26日|<踐祚>112代「霊元天皇」/4月27日即位(~16870321)
1663年3月9日-09:00|日本|兵庫県たつの市|寛文3年1月30日|<死去>播磨新宮藩1万石「池田薫彰」31歳⇒長男「池田邦照」が継ぐ(⇒寛文10(1670)年1月28日、13歳で死去無嗣改易)
1663年3月17日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代ポートランド伯「ジェローム・ウェストン」
1663年3月17日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代ポートランド伯「チャールズ・ウェストン」(~16650603死去)
1663年3月17日-09:00|日本|神奈川県小田原市|寛文3年2月8日|<加増>相模小田原藩85000石「稲葉正則」+伊豆・相

1680迄 (2638件)

模・武蔵国内1万石⇒95000石(⇒延宝8(1680)年1月12日、15000石を加増し11万石)
1663年3月17日-09:00|日本|埼玉県行田市|寛文3年2月8日|<加増>武蔵忍藩6万石「阿部忠秋」+2万石⇒8万石(⇒寛文11(1671)年5月25日、隠居)
1663年3月21日 06:00|カナダ/フランス| ||カナダで百人会社が特許状の権利を放棄し、国王直轄地となる
1663年4月 06:00|カナダ| ||ヌーヴェル・フランスに最高評議会を設置
1663年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ルキオーレ・マッジョ・ベッルツィ」「パオ・アントニオ・オノフリ」
1663年4月3日 00:00|イギリス/アメリカ| ||ユリウス暦3月24日|イギリス国王チャールズ2世が、王政復古に功のあった8人に、アメリカのヴァージニアからフロリダに至るを加ライケ地方を与える
1663年4月13日-01:00|イタリア| ||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ステファノ・デ・マリ」(~16650412)
1663年4月15日 05:00|日本|長崎県長崎市|寛文3年3月8日|<長崎寛文3年の大火(放火自殺事件)>(〜9日)筑後町、樋口惣右衛門と云う者、乱心(発狂)、近所の者を殺害し、己が家に火を掛け自害、諸方に延焼、未刻(14時ごろ)より其の夜中、翌日巳刻(午前9時半ごろ)鎮火/両御奉行所、御屋敷を始め、57町全焼、6町半焼、2町と出島残る/寺社の内、33か所類焼/家数2901軒焼失
1663年4月16日 00:00|カナダ/スウェーデン| ||<就任>スウェーデン領黄金海岸指揮官「Tonnie Voss」(~4.22、デンマーク、イギリスが占領、オランダに売却)
1663年4月18日-01:00|オーストリア/トルコ| ||オスマン朝がオーストリアに宣戦布告
1663年4月20日 00:00|イギリス| ||<昇格>4代バクル女公「アン・スコット」⇒初代バクル女公(~17320206死去);<就任>初代バクル公「ジェイムス・スコット」初代モマス公・ドンカスター伯(~16850613私権剥奪、妻の公爵位は存続)
1663年4月20日 00:00|カナダ/スウェーデン/デンマーク| ||デンマークがスウェーデンのゴールド・コースト最後の入植地(クリスチヤンホーグ砦とカールホーグ[ケー・キャッスル])を占領
1663年4月22日 00:00|カナダ/デンマーク/オランダ| ||カールホーグをオランダが奪還(~16640509)
1663年5月-01:00|ハンガリー/トルコ| ||<就任>バダのベイレベ「イサ・フェイン・パシャ」(~16641020)
1663年5月11日-01:00|フランス| ||<死去>ロングヴィル公「アンリ2世」
1663年5月11日-01:00|フランス| ||<即位>ロングヴィル公「Jean Louis Charles」(~1668年)
1663年5月19日 01:00|カーホベルグ/ポルトガル| ||<就任>カーホベルグ総督「アントニオ・ガルーアン」(~1667年)
1663年6月6日-09:00|日本|京都府京都市|寛文3年5月1日|京で地震。行宮・法室新院皆壊れる
1663年6月12日-05:30|インド/オランダ| ||<就任>オランダ領インド総督「コルネリス・スピールマン」(~1665年)
1663年6月13日 04:00|バルバドス/イギリス| ||バルバドスはイギリス直轄植民地
1663年6月15日 05:00|キューバ/スペイン| ||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「ロドリゴ・デ・フロレス・イ・アルダナ」(~16640730)
1663年6月17日-02:00|ウクライナ| ||ウクライナは親ロシアの左岸ヘチマン国家(ドニエプル川の東)と親ポーランドの右岸ヘチマン国家(ドニエプル川の西)に分かれる
1663年6月24日 00:00|イギリス/ドイツ| ||<死去>トマス・バルツァー、イングランドのドイツ人作曲家、ヴァイオリン奏者(生年1630年or1631年)
1663年6月24日 03:00|ブラジル/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「ホセ・ド・ス伯爵ヴァスコ・デ・マスカレナス」副王(2回目~16670613)
1663年6月28日-09:00|日本| ||寛文3年5月23日|武家諸法度を改定/殉死を禁止
1663年7月1日-01:00|オランダ/中国/台湾| ||清・康熙2年5月26日|鄭經軍が金門島で清、オランダ連合軍に大敗
1663年7月5日-09:00|日本| ||寛文3年6月|花火の製造、販売禁止
1663年7月16日-01:00|ドイツ| ||<死去>ヘッセン=カッセル方伯「グイルヘルム6世(正義伯)」
1663年7月16日-01:00|ドイツ| ||<就任>ヘッセン=カッセル方伯「グイルヘルム7世」グイルヘルム6世の上の息子(~16701121死去)
1663年7月16日-01:00|ドイツ| ||<就任>ヘッセン=フィリップスタール方伯「フィリップ」ヘッセン=カッセル方伯グイルヘルム6世の三男(~17210618死去)
1663年7月16日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>プライア・ド・ナトリア長官「Francisco de Ornelas da Camara」(~16640428死去)
1663年7月27日 00:00|イギリス| ||イギリス議会在第二次航海条例を制定
1663年7月28日 03:00|アルゼンチン/スペイン| ||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ホセ・マルティネス・デ・サラザ」(~16740326)
1663年7月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文3年6月27日|松山藩領久万町出火、136軒焼失
1663年8月 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Francis Willoughby」(2期目~16660728)
1663年8月3日-09:00|日本|茨城県水戸市|寛文3年7月|笠原水道完成
1663年8月13日-09:00|日本|愛知県西尾市|寛文3年7月11日|<移封>下野足利藩2万石「土井利長」⇒三河西尾藩23000石(⇒延宝9(1681)年4月13日、隠居)
1663年8月13日-09:00|日本|茨城県筑西市|寛文3年7月11日|<移封>三河西尾藩2万石「増山正弥」⇒常陸下館藩2万石(⇒元禄15(1702)年9月1日、伊勢長島藩2万石に移封)
1663年8月16日-09:00|日本|北海道|寛文3年7月14日|<有珠山噴火>未明山頂からより噴火、膨大な量の焼石や火山灰を噴出。死者5人
1663年8月27日-09:00|日本|福岡県直方市|寛文3年7月25日|<死去>筑前東蓮寺藩4万石「黒田之勝」⇒養子「黒田長寛」が継ぐ(⇒延宝5(1677)年2月、宗藩嫡子に選ばれ綱政と改名し宗藩に吸収)
1663年8月31日-09:00|日本|愛知県豊橋市|寛文3年7月29日|<死去>三河吉田藩45000石「小笠原忠知」65歳⇒長男「小笠原長矩」が継ぐ(弟「長定」に3000石、「長秋」に2000石分与し4万石⇒延宝6(1678)年2月8日、死去)
1663年9月2日-09:00|日本|長野県伊那市|寛文3年8月1日|<死去>信濃高遠藩32000石「鳥居忠春」⇒長男「鳥居忠則

1680迄 (2638件)

」が嗣ぐ(⇒元禄2年7月23日 (16890906)、改易)
1663年9月8日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「デ・イエゴ・デ・サルセド」(~16680928)
1663年9月14日-09:00|日本| |||寛文3年8月13日|土佐国に専売反対一揆が起こる
1663年9月16日 00:00|イギリス| |||<死去>初代カーティガン伯「トマス・ブルデネル」
1663年9月16日 00:00|イギリス| |||<就任>2代カーティガン伯「ロバート・ブルデネル」先代の息子(~17030716死去)
1663年9月16日-09:00|日本| |||寛文3年8月15日|久世広之:老中就任(⇒延宝7年6月25日)
1663年9月29日-09:00|日本|山口県岩国市|寛文3年8月28日|<交替>周防岩国藩6万石「吉川広正」隠居⇒長男「吉川広嘉」が継ぐ(⇒延宝7(1679)年8月16日、死去)
1663年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マルクアントニオ・ゴジ」
1663年10月20日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「ラファエル・コナー」
1663年10月21日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「オットア・ノ・バンデ・ネリ」(~23日)
1663年10月23日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ニコラス・コナー」(~16800429没)
1663年10月31日-08:00|中国| |||清・康熙2年10月|清軍が廈門・金門を占領
1663年11月2日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督代理「ニコラス・ホ・ンセ・デ・レオン2世」(~16641230)
1663年11月8日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王国総督「ランツァウ伯爵クリスティアン・ランツァウ」
1663年11月8日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国総督「ヘンリー・リーツ・ティル・ティゲ・ストル」(~16740710没)
1663年11月24日-01:00|ポーランド| |||<再任>レグニツァ公「ジョージ3世」(~1664年),「クリスチャン」(~16720228)
1663年11月24日-01:00|ポーランド| |||<死去>レグニツァ公「ルイ4世」
1663年12月18日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|寛文3年11月19日|尾張藩徳川光友が、領内のキリスト教徒207人を処刑
1663年12月21日 00:00|イギリス| |||<就任>2代エルズン伯「ロバート・ブルス」先代の長男(⇒16640318兼初代アイルズ・ベリ伯~16851020死去)
1663年12月24日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦:1663/12/14|(英)ギニー金貨登場
1663年12月27日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ヤコブ・フシュート」(~16641119)
1663年12月28日-01:00|イタリア| |||<死去>フランチェスコ・マリア・ゲリマルティ、イタリアの数学者、物理学者(生年1618年)落体の自由落下の研究を行い落下距離が時間の2乗に比例することを見出した
1663年12月29日-08:00|中国| |||清・康熙2年12月|四川の十三家軍の抗清運動が鎮圧される
1663年12月31日-09:00|日本|宮城県宮崎市|寛文3年12月2日|<死去>日向国佐土原藩3万石「島津久雄」⇒長男「島津忠高」が継ぐ(⇒延宝4(1676)年8月11日、26歳で死去)
1664年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督代理「Maximiliaan de Jong」(1期目~同年)⇒総督「Johan van Dam」(~1665年)
1664年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「ルキヤン・ダス・ハリチャンド・マルドラージ」(~1695年)
1664年-05:30|インド| |||ナガ王国をムガル帝国が占領(~1673年)
1664年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ヤコブ・ス・ファン・ニューラント」(~1665年5月没)
1664年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「バグラト5世」(~1668年)
1664年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダード・ワリス「イブラヒム・パシャ」⇒「カラ・ムスタファ・パシャ」(2回目~1665年)
1664年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「シラター・オメル・パシャ」(~1667年)
1664年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>カンデリア王国総督「アントニオ・ブリアリ」(~1666年)
1664年-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン王領フィンランド総督「ヘルマン・クラソン・フリヘル・フレミング・ティル・リーベリッツ」(~1669年)
1664年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク知事「Antonio de Melo e Castro」(~1667年)
1664年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・デ・クア、モノモタパ総司令官「アントニオ・デ・メロ・イ・カストロ」(~1667年)
1664年-01:00|スペイン| |||<死去>9代メナシトニア公「ガスパール・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・サントバル」
1664年-01:00|スペイン| |||<就任>10代メナシトニア公「ガスパール・ファン・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・グスマン」(~1667年死去)
1664年-01:00|オランダ/ベルギー/スペイン| |||<就任>スペイン領ネーデルラント・ベルギー総督「ロドリゴ・城侯爵フランシスコ・デ・モウラ・コレア」(~1668年9月)
1664年-01:00|イタリア| |||<即位>ピオバンノ公「Giovan Battista」(~16990824死去)
1664年-01:00|フランス| |||東洋での貿易のためにフランス東インド会社が創立
1664年-01:00|フランス| |||インド洋上ブルボン島(レユニオン)がフランス領となった
1664年-01:00|オランダ/ブラジル| |||オランダ、最終的にペルナンボを撤収
1664年-01:00|イタリア| |||モナコ公国成立
1664年 00:00|イギリス| |||<死去>7代バカン伯「ジェームズ・アースキン」
1664年 00:00|イギリス| |||<就任>8代バカン伯「ウィリアム・アースキン」(~1695年死去)
1664年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「ジョアン・デ・カルヴァリョ・モウチニョ」(~1667年)
1664年 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島領土執行使(トスハウ)「Severin Pedersen Skougaard」(~1674年)
1664年 00:00|イギリス| |||<即位>ケンブリッジ公「ジェームズ・ステュアート」ジェームズ2世の次男(~16670620死去)
1664年 00:00|シエラレオネ/オランダ/イギリス| |||タツ島にあるイギリスの城砦がオランダのド・リュイテル提督に攻撃される
1664年 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>アンティグア総督「ロバート・カーテン」(~16661104没)
1664年 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア総督「ロバート・フォーク」(~1667年10月)

1680迄 (2638件)

1664年 04:00|ドミニカ国/イギリス| ||<就任>イギリス・ドミニカ総督「トマス・インディア・ワナー」ウィルビー男爵によって任命(〜1666年)

1664年 04:00|ケレタ/フランス| ||<就任>ケレタ 総督「シュール・ド・ヴァンサン」(〜1670年)

1664年 04:00|セントルシア/イギリス| ||イギリスがセントルシア島を占領(〜1667年10月)以後、フランスと争奪戦をくりかえす

1664年 04:00|グアドループ/フランス| ||グアドループはコンパニー・デ・インディーズ・オクシデンタルによって管理(〜1674. 12)

1664年 05:00|ハイチ/フランス| ||スペイン領ヒスパニョーラ島の西半分にサン・ド・マング(現・ハイチ)創設

1664年 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ総督代行「ファン・デ・オブレゴン・イ・エスピノサ」(〜16650629)

1664年 06:00|アメリカ/スペイン| ||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督代理「Tome Dominguez de Mendoza」(〜同年)⇒総督「Juan Duran de Miranda」(〜1665年)

1664年 06:00|ニカラガ/ | ||英国人海賊ジャックマンとモリス、カンパチュ湾を襲撃。ピリヤ・デ・モサに上陸した後、トルヒーヨを攻撃

1664年 06:00|ホンジュラス/ジャマイカ| ||ジャマイカの私掠船隊、ホンジュラスのカンパチュを襲撃し略奪

1664年1月-05:30|インド| ||インド、シヴァージーがスーラト掠奪

1664年1月 04:00|刊/スペイン| ||<就任>刊総督「フランシスコ・デ・メネス・ブリ」(〜16671225)

1664年1月4日-09:00|日本|京都府|寛文3年12月6日|京都・山城で地震/二条城・伏見諸邸破損、洛中築垣所々崩れる。吉田神社の石塔倒れる。下鴨社の築地・石塔倒れる。誓願寺本堂少損、伏見稲荷の石塔すべて倒れ、蔵損、築地5-6間(9-10m)崩れる。丹波亀山城の石垣20ヵ所崩れた

1664年1月5日-09:00|日本|京都府京都市上京区|寛文3年12月7日|北野真盛町風呂で失火

1664年1月18日-01:00|オランダ| ||<就任>ネーデルラント連邦共和国フーニンゲン州・フリースラント州総督デ・イツ侯ヘントリック・カミール2世[デ・イツ侯ウィレム・フレデリックの子](〜16960325死去39歳)

1664年1月23日 00:00|セカル/イギリス| ||<就任>イギリス領ゴレ島総督「ロバート・ホームズ」卿イングラントが占領(〜同月)⇒「モガン・ファシー」(〜10月)

1664年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙3年|朝鮮の咸鏡道で綿花栽培が始まる

1664年1月28日-09:00|日本|東京都豊島区|寛文4年|加賀藩主・前田利常の息女で安芸藩主・浅野吉長夫人の寄進によって雑司が谷鬼子母神堂創建

1664年3月18日 00:00|イギリス| ||<就任>初代アイルズ・ベリ伯「ロバート・ブルス」2代エルギン伯(〜16851020死去)

1664年3月20日 00:00|イギリス| ||<就任>初代パーリントン伯「リチャード・ホイル」第2代ヨーク伯(〜16980115死去)

1664年3月27日-08:00|中国| ||清・康熙3年3月|清軍が廈門(アモイ)を攻略/鄭経は福建沿海の島嶼を放棄し澎湖・台湾に全面撤退

1664年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・ロリ」[ウ・インツォ・ロレンツォーニ]

1664年4月15日-01:00|イタリア| ||<死去>ロレンツォ・リッピ、イタリアの画家、詩人(生年1606年)

1664年4月24日-01:00|ポーランド| ||<死去>オレシツァ公「ジルフィウス1世ニムロト」

1664年4月24日-01:00|ポーランド| ||<就任>オレシツァ公「カール・フェルディナント」(〜1668年)

1664年4月28日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<死去>ブライト・ナリ長官「Francisco de Ornelas da Camara」

1664年4月30日-09:00|日本|秋田県秋田市|寛文4年4月5日|<石高決定>出羽久保田藩20万5800石「佐竹義隆」

1664年4月30日-09:00|日本|香川県丸亀市|寛文4年4月5日|<加増>讃岐丸亀藩57000石「京極高豊」+曾祖母常高院の所領であった近江蒲生郡内1400余石⇒58512石(⇒延宝5(1677)年5月21日、分家3000石還付され61512石

1664年4月30日-09:00|日本|長崎県大村市|寛文4年4月5日|<高直し>肥前大村藩21427石「大村純長」⇒27973石(⇒宝永3年8月21日(17060927)死去)

1664年5月 04:00|マルティニーク/フランス| ||<就任>フランス領アンティル総督「Alexandre de Prouville」(〜1665. 2)

1664年5月2日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サントフィアコ 総督代行「トマス・リンチ」(〜21日)

1664年5月3日 00:00|カーナ/オランダ/イギリス| ||イギリスがカーナからケープ・コースト城を奪取

1664年5月4日 00:00|モロッコ/イギリス| ||<就任>タンジール長官代行「トマス・ブリッジ」(〜同年)⇒「ジョン・フィッツジェラルド」(〜1665年4月)

1664年5月6日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿代行「オズリー伯爵トマス・バトラ」(〜16650903)

1664年5月9日 00:00|カーナ/イギリス/スウェーデン| ||スウェーデン・ゴースト=コーストはイングランドに押収される

1664年5月12日 05:00|ペルー| ||ペルーで地震(M7. 3)死者400人

1664年5月15日 03:00|仏領ギアナ/フランス| ||<就任>ギアナ知事「Joseph-Antoine Lefebvre」(1期目〜1665. 6)

1664年5月15日 03:00|仏領ギアナ/フランス| ||ギアナがフランスによって再占領(〜1674年)

1664年5月15日-09:00|日本|長崎県雲仙市|寛文4年4月20日|雲仙岳が大噴火/前山が崩壊、津波発生/溺死者100余人

1664年5月21日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サントフィアコ 総督代行「エドワード・モガン」(〜6. 4)

1664年5月31日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島知事「Isaac Barrow」(〜1673年)

1664年6月-01:00|ノルウェー/デンマーク| ||<就任>ノルウェー総督「ウルリク・フレデリック・ギルデンレーグ・グレーヴェ・ティル・ラウグイ」(〜16990925)

1664年6月2日-01:00|フランス| ||<死去>ギーズ公「アンリ2世」

1664年6月2日-01:00|フランス| ||<就任>ギーズ公「ルイ・ジヨゼフ」(〜16710730死去)

1664年6月3日-09:00|日本|愛知県田原市|寛文4年5月9日|<移封>三河挙母藩12000石「三宅康勝」⇒三河田原藩12000石(⇒貞享4(1687)年8月9日、60歳で死去)

1664年6月3日-09:00|日本|熊本県天草郡苓北町|寛文4年5月9日|<加増移封>三河田原藩1万石「戸田忠昌」⇒肥後富岡藩2万石(⇒寛文11(1671)年4月25日、相模・下総・武蔵・常陸国内2万石へ移封)

1664年6月4日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サントフィアコ 総督「サー・トマス・モティフォート」(〜16710701)

1664年6月8日-09:00|日本|福島県石川郡浅川町|寛文4年5月14日|<死去>陸奥浅川藩1万石「本多忠以」⇒弟「本多

1680迄 (2638件)

忠晴」が嗣ぐ(⇒天和1(1681)年9月15日、三河伊保藩1万石へ移封)
 1664年6月17日-09:00|日本|長崎県平戸市|寛文4年5月23日|<分封>肥前平戸藩63196石「松浦鎮信」従弟「松浦信貞」に1500石⇒61700石(⇒元禄2(1689)年7月、隠居)
 1664年6月23日-01:00|アントゥー | ||<就任>アントゥー公国共同大公「ウルヘル司教メルシオール・パ・ラウ・イ・ボ・スカ」(~16700429)
 1664年6月23日 04:00|グアドループ/フランス | ||<就任>グアドループ 暫定知事「Ducoudray」(~11.5)
 1664年6月26日-09:00|日本|岡山県高梁市|寛文4年閏5月3日|<死去>備前松山藩5万石「水谷勝隆」⇒7月18日、長男「水谷勝宗」が継ぐ(弟「勝能」に2千石分与し48000石⇒元禄2(1689)年閏正月14日、隠居)
 1664年6月29日 07:00|メキシコ/スペイン | ||<就任>ヌエバ・イスパニア暫定副王「フエラ・デ・ロス・アンヘles司教ディエゴ・オソリオ・デ・エスコバル・イ・リヤス」(~10.15)
 1664年6月30日-09:00|日本|熊本県人吉市|寛文4年閏5月7日|<交替>肥後人吉藩22165石「相良頼寛」隠居⇒長男「相良頼喬」が継ぐ(⇒元禄16(1703)年1月24日、死去)
 1664年6月30日-09:00|日本|福岡県柳川市|寛文4年閏5月7日|<交替>筑後柳河藩109200石「立花忠茂」隠居⇒四男「立花鑑虎」が継ぐ(⇒元禄9(1696)年7月4日、隠居)
 1664年6月30日-09:00|日本|山形県米沢市|寛文4年閏5月7日|<死去>出羽米沢藩30万石「上杉綱勝」急死⇒6月5日、養子「上杉綱憲」が継ぐ(末期養子のため15万石に減封⇒元禄16(1703)年8月21日、病のため隠居)
 1664年7月16日-01:00|ドイツ | ||<死去>アンドレアス・グリュフィウス、ドイツの詩人、劇作家(生年1616年)
 1664年7月23日 06:00|アメリカ | ||マチュセツ植民地が選挙権に財産資格を付与
 1664年7月30日 05:00|キューバ/スペイン | ||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「フランシスコ・ダビラ・オホン・イ・ガストン」(~16700506)
 1664年8月1日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ | ||<就任>ボスニア総督「アルノ・ムスタファ・パシャ」(~1665年)
 1664年8月1日-01:00|オーストリア/ハンガリー/トルコ | ||オスマン帝国軍が、セント・ゴットハルトでオーストリア軍に敗北
 1664年8月4日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛文4年6月13日|<加増>常陸宍戸藩1万石「土屋数直」+5000石⇒15000石(⇒寛文6(1666)年7月28日、2万石加増され35000石)
 1664年8月10日-01:00|オーストリア/トルコ | ||オーストリアとオスマン朝がウ・アシュガールとの和
 1664年8月23日 00:00|イギリス | ||<就任>ケンブリッジ 公「ジェームズ・ステュアート」(~16670620死去)
 1664年8月27日-01:00|ドイツ | ||<死去>フランシスコ・デ・スルバラン、スペインの画家(生年1598年)
 1664年8月27日-01:00|フランス | ||フランスが西インド 会社を設立
 1664年8月27日-01:00|フランス/インド | ||フランスが東インド 会社を再組織
 1664年9月6日 06:00|アメリカ/オランダ/イギリス | ||オランダ 領ニューネデルラントをイギリスが占領
 1664年9月8日 06:00|アメリカ/イギリス | ||<就任>イギリス領ニューアルビオン植民地総督「リチャード・ニコルス」(~1668年夏)
 1664年9月8日-01:00|オランダ/イギリス/アメリカ | ||ユリウス暦:1664/8/29|イギリスが、オランダ からニューアムステルダム港を奪取
 1664年9月22日-09:00|日本 | ||寛文4年8月3日|幕府が絹・紬反物の長さを定めた法令を出し、寸尺不足の絹・紬の販売を禁じる
 1664年9月22日-09:00|日本|大分県佐伯市|寛文4年8月3日|<死去>豊後佐伯藩2万石「毛利高直」⇒長男「毛利高重」が継ぐ(⇒天和2(1682)年4月7日、21歳で死去)
 1664年10月1日-01:00|サンマリノ | ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッチョーニ」「ジョヴァンニ・セラフィーニ」
 1664年10月2日 00:00|セネガル/イギリス | ||<就任>イギリス領ゴレ島総督「ジョージ・アバークロンビー卿」(~11日)
 1664年10月4日 06:00|アメリカ | ||ニューアムステルダム、ニューヨークと改称
 1664年10月7日-09:00|日本|群馬県沼田市|寛文4年8月3日|沼田藩主真田信利、柳町三光院の観音堂を建立し、石灯笼二基を寄進
 1664年10月10日-01:00|オランダ/イギリス/アメリカ | ||英軍、デラウェアをオランダ より奪取
 1664年10月11日 00:00|セネガル/オランダ | ||<就任>オランダ 領ゴレ島総督「ヤン・セラリウス」オランダ 統治が復活⇒「ホッサク」(~16771101)
 1664年10月15日 07:00|メキシコ/スペイン | ||<就任>ヌエバ・イスパニア副王「マヌエル侯爵アントニオ・セバスティアン・アルバレス・デ・トレド・モリーナ・イ・サラザール」(~16731120)
 1664年10月20日-02:00|シリア・アラブ/トルコ | ||<就任>アレクサンドリア(総督)「Sari Huseyin Pasha」(~1665年)
 1664年10月20日-01:00|ハンガリー/トルコ | ||<就任>ブダペストのベイルベイ「ゲルジ・ア・マフメト・パシャ」(2回目~1666年3月)
 1664年10月30日-09:00|日本|岩手県盛岡市|寛文4年9月12日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部重直」⇒12月6日、弟「南部重信」が継ぐ(弟「中里直好」に八戸藩2万石分与し8万石⇒天和3(1683)年5月7日、10万石に高直し)
 1664年10月30日-09:00|日本|滋賀県大津市|寛文4年9月12日|<交替>近江膳所藩7万石「本多俊次」隠居⇒次男「本多康将」が継ぐ(⇒延宝7(1679)年6月18日、隠居)
 1664年11月5日 04:00|グアドループ/フランス | ||<就任>グアドループ 知事「Claude Francois du Lyon」(~1669年)
 1664年11月14日-09:00|日本|京都府京都市|寛文4年9月27日|<就任>摂政「鷹司房輔」
 1664年11月17日 00:00|ガンビア/ラトビア/イギリス | ||ガンビアが正式にケールランド からイングランド に割譲される
 1664年11月18日-01:00|クロアチア | ||<就任>クロアチア・ダルマチアのバン代行「ペトル・シュビッチ・グロフ・ズリンスキ」(⇒16681106、バン~16700417)
 1664年11月19日-05:30|スリランカ/オランダ | ||<就任>オランダ 領セイロン総督代理「アドリアン・ロートハルト」(~1665.4)
 1664年11月20日-09:00|日本 | ||寛文4年10月3日|幕府が賭博に関する法度を出す
 1664年11月23日 04:00|プエルトリコ/スペイン | ||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Geronimo de Velasco」(~1670年)
 1664年12月13日-09:00|日本|群馬県安中市|寛文4年10月26日|<交替>上野安中藩2万石「水野元綱」隠居⇒次男「水野元知」が嗣ぐ(⇒寛文7(1667)年5月23日、狂気の廉で所領没収)
 1664年12月18日-09:00|日本 | ||寛文4年11月|幕府が諸藩に宗門改制度化され転宗者の登録制を実施

1680迄 (2638件)

1664年12月18日-09:00|日本|東京都台東区|寛文4年11月1日|幕府が忍岡に国史館を置き、林俊斎に本朝通鑑を続修させる

1664年12月20日 04:30|ペーネ・エラ・スペイン| |||<就任>スペイン領ペーネ・エラ総督「Felix Garci-Gonzalez de Leon」(~16691009)

1664年12月25日 05:00|コロンビア・スペイン| |||<就任>スペイン領コロンビア大統領・総督・総司令官代行「フランシスコ・デ・レイバ」(~16660612)

1664年12月30日 06:00|アメリカ・スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「フランシスコ・デ・ラ・ケラ・イ・デ・ラ・ベガ」(~16710706)

1665年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督代理「Maximiliaan de Jong」(2期目~1666年)

1665年-05:30|インド| |||<建国>ハンガ・ナハツレ国

1665年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「アンソニー・パウル・ジュン」(~1676年)

1665年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「ウズン・イブラヒム・パシャ」(~1667年)

1665年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスラ・ワリス「フセイン・パシャ・オグル・エフシャフ・パシャ」(~1666年)

1665年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティニア公「フランチェスコ・バットスタ」(~1667年)

1665年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Salih Pasha1世」(~1666年)

1665年-01:00|アルジェリア/トルコ| |||<就任>アルジェのアガ・シュアリ・アガ」(~1671年)

1665年-01:00|フランス| |||<就任>アルトワ伯「シャルル3世」(~17001101死去)

1665年-01:00|ドイツ| |||<就任>カレンベルク侯「ヨハン・フリートリヒ」ゲオルク・ヴィルヘルムの弟(~16791218死去)

1665年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Pedro de Acuna」(~1670年)

1665年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ムハメド・パシャ」(~11.9)

1665年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Ernst Adalbert von Harrach」(~1667年)

1665年-01:00|チャット| |||<即位>パギルミ王国スルタン「Abdul Rahman1世, Mbangi」(~1674年)

1665年-01:00|オランダ/スリランカ| |||オランダが、キャンディ王国からトリノコリーを奪取

1665年-01:00|フランス| |||カッシーニが木星の大赤斑を発見

1665年-01:00|フランス| |||フランス、黒人法を制定。自由黒人に同等の権利を認める/奴隷にも人道的対処を定める

1665年 00:00|イギリス| |||<死去>ウィグ・タウン伯「ジョン・フレミング」

1665年 00:00|イギリス| |||<就任>ウィグ・タウン伯「ジョン・フレミング」(~1668年死去)

1665年 00:00|セザール/フランス| |||<就任>フランス西インド会社セザール総督「ジュール・ジャケ」(~1668年)

1665年 00:00|イギリス| |||イギリスの科学者ロバート・フックが顕微鏡観察によって描いた図説「ミクログラフィア」を発表

1665年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ブライト・ナリア長官「Bras de Ornelas」(~1712年死去)

1665年 04:00|BES諸島| |||<就任>セント・ユースティウス司令官「Pieter Adriaensen」(1期目)

1665年 04:00|アンティグア・ババーダ/イギリス| |||<就任>ババーダ総督「ジョン・コリンズ」(~1666年)

1665年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||ジョン・ウェントワースの下でのトルトゥー島のイギリスによる占領

1665年 04:00|ガイアナ/イギリス| |||デメララ=エセボを英国が占領(~1666年)

1665年 05:00|エクアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領キタ暫定総督・総司令官・大審問院長「ロペ・アントニオ・デ・ムニガエ」(~1670年没)

1665年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「ファン・ペレス・デ・グスマン・イ・ゴンサガ」(1回目~1667年)

1665年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューアルビオン植民地総督「フィリップ・カーレット」(~1673.7)

1665年 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「ファン・フェルナンド・デ・サリス・イ・ラ・セルタ」(~1669年)

1665年 06:00|カナダ/アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ダニエル・ト・レミート・クルゼル」(~1672年)

1665年 06:00|ニカラガ| |||海賊ジョン・デ・ベイス、ケラダ、レオン、エルアラホを襲撃

1665年1月-01:00|フランス| |||パリで「学徒新聞」が刊行

1665年1月10日-09:00|日本|高知県|寛文4年11月24日|<死去>山内忠義、土佐藩第2代藩主(生年1592年)

1665年1月12日-01:00|フランス| |||<死去>仏の数学者ピエール・ド・フェルマー/「フェルマーの定理」(生年1607年)

1665年1月12日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島知事「Sir Thomas Morgan」(~16790413死去)

1665年1月21日-09:00|日本|青森県八戸市|寛文4年12月6日|<立藩>陸奥八戸藩2万石「南部直房」盛岡藩から分与(⇒寛文8年8月24日(16680930)死去)

1665年1月23日-09:00|日本|栃木県大田原市|寛文4年12月8日|<再封>下野那須(福原城)12000石「那須資祇(資弥)」(青木利長の次男)加増があり、再び大名格になった(⇒延宝9(1681)年2月25日、8千石加増され烏山城を居城とし下野烏山藩2万石)

1665年1月29日 00:00|カナダ/イギリス/オランダ| |||オランダがイギリスからコルマントインを奪取(フォート・アムステルダムと改名)

1665年1月31日 00:00|イギリス| |||<死去>デズモンド伯「ジョージ・フィールド・イング」

1665年1月31日 00:00|イギリス| |||<就任>デズモンド伯「ウィリアム・フィールド・イング」(~16850823死去)

1665年2月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督代理「sieur de Chambray」(~1666.10)

1665年2月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Robert le Frichot des Friches」(~1667.12)

1665年2月11日 04:00|BES諸島/イギリス| |||イギリスはローレンス・プリンス大尉の下でジャマカからボネールを奪う

1665年2月12日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ラドゥ・レオン」(~1669年3月)

1665年2月13日-09:00|日本|東京都中央区|寛文4年12月29日|<死去>森田太郎兵衛(森田座初代座主)

1665年2月15日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|寛文5年|<交替>肥前蓮池藩52625石「鍋島直澄」隠居⇒次男「鍋島直之」が継ぐ(⇒宝永5(1708)年1月9日、隠居)

1665年2月15日-09:00|日本|大谷大学|寛文5年|京都東六条に東本願寺の学寮開設

1680迄 (2638件)

1665年2月16日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|寛文5年1月2日|大阪城天守閣が落雷のために焼失(→266年後の1931年に再建)

1665年2月18日-05:30|インド/ポルトガル/イギリス| |||ボンベイはポルトガルからイギリスに割譲

1665年3月4日-01:00|オランダ/イギリス| ||ユリウス暦2月22日|第2次英蘭戦争が起こる/オランダがイギリスに宣戦布告

1665年3月5日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|寛文5年1月19日|<死去>陸奥国棚倉藩5万石「内藤信照」⇒長男「内藤信良」が継ぐ(⇒寛文11(1671)年9月、弟「信全」に新田5000石を分与し4万5000石)

1665年3月6日 00:00|イギリス| |||イギリス王立協会が「哲学紀要」(学会会報)を創刊

1665年3月10日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Fernando de Villanueva」(~16681129)

1665年3月14日-01:00|オランダ/イギリス| ||ユリウス暦:1665/3/4|イギリスがオランダに宣戦布告

1665年3月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>リュネブル侯「クリスティアン・ルートヴィヒ」

1665年3月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>リュネブル侯「ゲオルク・ヴィルヘルム」フランクフルト・アム・マインの先代の統治者であるクリスティアン・ルートヴィヒの弟(~17050828死去、リュネブル侯領はフランクフルト・アム・マイン選帝侯領に統合)

1665年3月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督「ジョン・エンデコット」

1665年3月16日 00:00|イギリス| |||<昇格>初代ニューカッスル=オン=タイン侯「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」⇒初代ニューカッスル=アポン=タイン公(~16761225死去)

1665年4月-05:30|スリランカ/オランダ| |||<再任>オランダ領セイロン総督「リクフ・ファン・ゲーン」(3期目~1675年)

1665年4月 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ペラス男爵ジョン・ペラス」(~1666年)

1665年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「オットー・オ・ジヤンニ」(「フランチェスコ・アンジェリ」)

1665年4月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ケーテン侯「William Louis」

1665年4月13日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ケーテン侯「Lebrecht」(~16691107死去)、「Emmanuel」(~16701108死去)

共同統治

1665年4月18日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「チェザレ・トウラツ」(~16670418)

1665年4月28日-09:00|日本| ||寛文5年3月13日|幕府金銀を売買するを禁ず

1665年5月-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ゲオルク・フレデリック・レーテ」(1回目~1667年)

1665年5月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<再任>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督「リチャード・ベリンガム」(~16721207死去)

1665年5月5日-09:00|日本|福岡県朝倉市|寛文5年3月20日|<死去>筑前秋月藩5万石「黒田長興」⇒次男「黒田長重」が継ぐ(⇒宝永7(1710)年10月29日、52歳で死去)

1665年5月9日-09:00|日本|栃木県栃木市|寛文5年3月24日|<死去改易>下野皆川藩15000石「松平(能見)重利」無嗣

1665年5月14日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛文5年3月29日|<死去>播磨姫路藩15万石「榊原忠次」⇒5月11日、次男「榊原政房」が継ぐ(⇒寛文7年5月24日(16670715)死去)

1665年5月19日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Francisco Juan de Toledo」(~1666.2)

1665年5月31日-01:00|オランダ| |||<死去>ピーテル・ヤン・ファン・サンタム、オランダの画家(生年1597年)

1665年6月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事代理「Antoine」(~9.8)

1665年6月 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのタートル島総督「ラ・ブーエル卿ペルトラン・ド・ニトジェロン」(1回目~1668年6月)

1665年6月3日 00:00|イギリス| |||<死去>第3代ポートランド伯「チャールズ・ウェストン」

1665年6月3日 00:00|イギリス| |||<死去>第3代マルバラ伯「ジェームズ・リー」

1665年6月3日 00:00|イギリス| |||<就任>第4代ポートランド伯「トマス・ウェストン」(~1688.5死去伯爵位廃絶)

1665年6月3日 00:00|イギリス| |||<就任>第4代マルバラ伯「ウィリアム・リー」(~1679年)

1665年6月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>東フリースラント伯「George Christian」

1665年6月25日-01:00|イタリア| |||<死去>チロル伯「Sigismund Francis」

1665年6月25日-01:00|イタリア| |||<就任>チロル伯「Leopold1世」(~17050505死去)

1665年6月29日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「ファン・ロペス・デ・ラ・フォル・イ・レイノ」(~16740427)

1665年7月-05:30|インド| |||<就任>カール国ラジャ「ファティヤ」(~1716年没)

1665年7月13日-08:00|中国| ||清・康熙4年6月|雲南でイ族などを中心とする抗清反乱がおこる

1665年7月13日-01:00|オランダ/イギリス| ||ユリウス暦:1665/7/3|北海のロ=エスト=フト沖にてヨーク公率いるイギリス艦隊130隻とオランダ率いるオランダ艦隊120隻が衝突、イギリスが勝利

1665年7月23日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント=ユースティウス島知事「Thomas Edward Morgan」(~同年死去)⇒「Theodore Cary」(~1666年)

1665年7月23日 04:00|BES諸島/イギリス| |||セント=ユースティウス島をイギリスが占領(~16661117)

1665年7月30日-09:00|日本|愛媛県今治市|寛文5年6月18日|<加増>伊予今治藩3万石「松平定房」+武蔵国東葛飾郡・下野国芳賀郡・常陸国真壁郡1万石⇒4万石(⇒延宝4(1676)年6月26日、隠居)

1665年8月 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>サハ島イギリス司令官「Thomas Edward Morgan」(~同年死去)

1665年8月 04:00|BES諸島/イギリス| |||サハ島はイギリスが占領(~1667.10)

1665年8月5日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Etienne Regnault」(~16710508)

1665年8月14日-01:00|イタリア| |||<死去>マントヴァ=モンフェラート公「カルロ2世・ゴンザーガ=ネヴェルス」

1665年8月14日-01:00|イタリア| |||<即位>マントヴァ=モンフェラート公「フェルディナント・カルロ・ゴンザーガ=ネヴェルス」カルロ2世の子(~17080705死去、ゴンザーガ家はマントヴァの支配権を失い、マントヴァ公国はミラノ公国に併合)

1665年8月15日-09:00|日本|北海道|寛文5年7月5日|<死去>蝦夷松前藩(無高)「松前高広」(23歳、生年1643年)⇒11月6日、長男「松前矩広」が継ぐ(⇒享保4(1719)年、正式に大名に昇格、松前藩1万石格成立)

1665年8月21日-09:00|日本| ||寛文5年7月11日|幕府、諸社禰宜・神主法度及び諸宗寺院法度を下す

1665年8月23日-09:00|日本| ||寛文5年7月13日|証人制度(諸大名が幕府に差し出していた人質)を廃止

1680迄 (2638件)

1665年8月24日-01:00|ベルギー| |||<死去>レクハム伯「フェルディナント1世」
1665年8月24日-01:00|ベルギー| |||<就任>レクハム伯「フェルディナント2世ゴッセル」(~17080201没)
1665年8月28日-09:00|日本|岐阜県高山市|寛文5年7月18日|<死去>飛騨高山藩38000石「金森頼直」病死⇒長男「金森頼業」が継ぐ(⇒寛文11(1671)年12月28日、24歳で死去)
1665年9月 00:00|イギリス| |||ロンドンでペストが大流行
1665年9月8日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Cyprien Lefebvre」(1期目~16670923)
1665年9月8日-09:00|日本|愛媛県西条市|寛文5年7月29日|<改易>伊予西条藩25000石「一柳直興」参勤交代遅参・藩治失政・不行跡などにより、金沢に幽閉
1665年9月17日-01:00|スペイン/フランス/イタリア/デンマーク/ベルギー/オランダ/ルクセンブルグ| |||<死去>スペイン国王・サルデーニャ国王・ナポリ王・シチリア王・ブルゴニョ伯「フェリペ4世」兼ルクセンブルク公・エノー伯「フィリップ4世」兼アラゴン国王・バルセロナ伯「フェリペ3世」兼ブラバント公「フィリップ5世」兼フランドル伯「フィリップ6世」兼ブルゴニョ公「フィリップ7世」兼アルトワ伯「フェリペ8世」兼ブルゴニョ伯「フィリップ8世」60歳
1665年9月17日-01:00|イタリア/スペイン/フランス/オランダ/ベルギー/デンマーク/ルクセンブルグ| |||<即位>ナポリ王・シチリア王・サルデーニャ国王・アラゴン国王・バルセロナ伯「カルロス2世」兼ブラバント公・エノー伯「シャルル3世」兼ルクセンブルク公・フランドル伯「シャルル4世」フィリップ8世の息子(~17001101死去38歳)兼ブルゴニョ公「シャルル3世」(~16780919フランス王国へ併合)
1665年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・トシーニ」 「スフォルツァ・ジョーニ」
1665年10月22日-01:00|フランス| |||<死去>エタン公「Cesar, duc de Vendome」
1665年10月22日-01:00|フランス| |||<即位>エタン公「Louis, duc de Vendome」(~16690806死去)
1665年10月29日-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ王国マニコンゴ「アントニオ1世ヌグイタ・ア・カンガ」アングラの戦いで戦死
1665年11月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ゲオルゲ・トウカ」(1回目~16660524)
1665年11月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコンゴ「アフォンソ2世」(1回目~12月)
1665年11月7日 00:00|イギリス| |||「オックスフォード・ガゼット」(現ロンドン・ガゼット、現存最古の新聞)
1665年11月7日-09:00|日本|東京都|寛文5年10月|幕府、火付盗賊改役を設ける
1665年11月9日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「スラヴ・メフメト・パシャ」(~1666年)
1665年11月10日-01:00|チェコ| |||<死去>ザムエル・カプリコルス、ボヘミア出身の作曲家(生年1628年)
1665年11月14日-01:00|デンマーク/ノルウェー| |||デンマーク=ノルウェー二重王国国王クリスチャン5世が国王法に調印
1665年11月19日-01:00|フランス| |||<死去>ニコラ・プッサン、フランスの画家(生年1594年)
1665年11月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ラウエンブルク公「ユリウス・ハインリヒ」
1665年11月20日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ラウエンブルク公「フランク・エルトマン」(~16660730死去)
1665年11月28日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデira総督「Francisco de Mascarenhas」(~16680410)
1665年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国マニコンゴ「アルヴァロ7世トゥ・ムザ」(~1666年6月没)
1665年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ王国国王「アフォンソ2世」(2回目~1669年没)
1665年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||コンゴ王国が内戦で混乱(~1709年2月)
1665年12月4日-01:00|フランス| |||ジャン・ラシーヌの悲劇「アレクサンドル大王」がパレ・ロワイヤル劇場で上演される
1665年12月7日-09:00|日本|香川県高松市|寛文5年11月|高松城下中ノ村に天満宮の造営成る
1665年12月7日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛文5年11月|日舜富士下条下之坊を中興
1665年12月10日-01:00|イタリア| |||<死去>マルティネ・メーラ、イタリアの作曲家、オルガニスト、ヴァイオリニスト(生年1594年or1595年)
1666年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Pieter de Marville」(~1667年)
1666年-05:00|パキスタン| |||<即位>カー・ハン国ワリー「Mir Ahmad1世Khan Qambrani3世」(~1695年)
1666年-04:00|ロシア| |||ロシア正教会から分離派が出現
1666年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダード「タマ・フセイン・パシャ」(~1667年)
1666年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Damad Huseyin Pasha」(~1667年)
1666年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>カンディヤ王国総督「アントニオ・バルバロ」(~1668年)
1666年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Cavuszade Mehmed Pasha」(~同年)⇒「Qara Mustafa Pasha」(~1667年)
1666年-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「アデイル・ギレイ」(~1671年)
1666年-01:00|チェンブリア| |||<死去>ムラト朝ベイ「ハムダ・パシャ」
1666年-01:00|ドイツ| |||<死去>リッペン=テートモルト伯「ヘルマン・アドルフ」
1666年-01:00|ドイツ| |||<就任>プーランシュヴァイク=ヴァルフェンビュッテル侯「ルドルフ・アウグスト」アウグスト2世の息子(~1704年死去)
1666年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「アリー・パシャ」(~1668年)
1666年-01:00|ドイツ| |||<就任>リッペン=テートモルト伯「ジューモン・ハインリヒ」(~16970502死去)
1666年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>キバング王国国王「セバステアン1世」(~1669年12月没)
1666年-01:00|チェンブリア| |||<即位>ムラト朝ベイ「ムラト2世」(~1675年死去)
1666年-01:00|フランス| |||フランスのハリーに王立アカデミーが創設
1666年 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ヘンリー・ノーウッド卿」(~1668年)
1666年 00:00|イギリス| |||イギリスで王立アフリカ企業会社が設立
1666年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>グランドサ島トリア長官「Fernando Coutinho5世」

1680迄 (2638件)

1666年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<死去>イギリス領アンギラ副総督「William Watts」
1666年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「アブラム・Howell」(~1689年)
1666年 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースティウス島知事「William Brewer」(~11月)
1666年 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>バブーダ 総督「フランチェスコ・ネイサン」(~1681年没)
1666年 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<設立>セント・トマス島のデンマーク植民地(~1668年)
1666年 04:00|ガイアナ/オランダ| |||ベルビツェにオランダ人が入植
1666年 04:00|ガイアナ/イギリス| |||ホムロンを英国が占領(~1667年)
1666年 05:00|パナマ| |||モリガン、ホルト・ベリヨを二週間にわたり占拠
1666年 06:00|ホンジュラス/メキシコ/ニカラガア| |||海賊モリガン、マンスフィールドら、メキシコ、ホンジュラスを襲撃/その後ニカラガアのサンファン川を遡上しグラナダを攻撃
1666年1月 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||(~9月)1664年11月17日の条約の下でトバゴを名目上ケルランドの名でイギリスが占領しバルバドスから管理
1666年1月2日 00:00|イギリス| |||<死去>2代クレア伯「ジョン・ホルズ」
1666年1月2日 00:00|イギリス| |||<就任>3代クレア伯「ギルバート・ホルズ」2代伯の息子(~16890116死去)
1666年1月4日 04:00|サン・マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルタン司令官「sieur du Guery」
1666年1月4日 04:00|サン・バルテルミー/フランス/グアドループ| |||サン・バルテルミー島はグアドループに從属(~17850306)
1666年1月4日 04:00|サン・バルテルミー/サン・マルタン/米領ヴァージン諸島/フランス/マルタ| |||マルタ騎士団は、コンパニエ・フランセーズ・デ・インデス・オクシデンタルにサン・バルテルミー島、サン・マルタン、サンクロアの権利を売却
1666年1月4日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/セント・マルテン/サン・マルタン/サン・バルテルミー/マルタ| |||マルタ騎士団はサン・クリストフ(およびサン・マルタン、サン・クロア、サン・バルテルミー)の管理権をコンパニエ・フランセーズ・デ・インデス・オクシデンタルに売却(~1674年)
1666年1月11日-09:00|日本|兵庫県神崎郡神河町|寛文5年12月6日|<死去改易>播磨福本藩1万石「池田政直」無嗣/寛文6年弟政武7千石、政濟3千石分知
1666年1月17日-09:00|日本|京都府京都市東山区|寛文5年12月12日|幕府萩原員從の請いにより豊国廟を再興
1666年1月19日-09:00|日本|京都府京丹後市|寛文5年12月14日|<死去>丹後峰山藩13000石「京極高通」⇒翌年6月14日、長男「京極高供」が継ぐ(弟「高昌」に1千石、弟「高成」に500石分知し11600石⇒延宝2(1674)年2月28日、死去)
1666年1月20日-01:00|フランス| |||<死去>アン・ド・トリッシュ、フランス国王ルイ13世の王妃(生年1601年)
1666年1月22日-05:30|イット| |||<死去>ムガル帝国5代皇帝「シャージャハーン」[15920105生~](享年74)
1666年1月26日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||オランダと同盟を結んでいたフランスが、イングランドに対する宣戦布告
1666年1月27日-09:00|日本| |||寛文5年12月22日|幕府、萩原員從の要請により豊国廟を再興
1666年1月27日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文5年12月22日|<就任>老中「板倉重矩」(~寛文8年5月16日)
1666年1月28日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文5年12月23日|<就任>老中「土屋数直」(~延宝7年4月2日)
1666年2月1日-09:00|日本|新潟県|寛文5年12月27日|<寛文5年越後西部地震>申の下刻(17時ごろ)、越後国に大地震、積雪が4.5mほどあり、高田城下の民家から城郭までもが倒壊し、1400~500人余りの死亡者が出た/高田城本丸では角やぐら2棟、土居(土塁)が約90mほど崩壊、二の丸では城代屋敷が倒壊、三の丸では建物のしとみ戸や土居約70m余、大手一の門、三の丸屋敷が倒壊/家屋は侍屋敷700軒余が倒壊、ほかに城下の民家の倒壊が多数/夜に入り火災が起き、1400~500人が死亡、その内家老2人、家中の侍155人が死亡
1666年2月3日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Gabriel Lasso de la Vega y Licques de Recourt」(~1670.12)
1666年2月4日-09:00|日本| |||寛文6年|<拝領>摂津・河内国内1万5千石「米津田盛」大坂定番として
1666年2月4日-09:00|日本|愛知県岡崎市|寛文6年|<加増>三河中島藩2万石「板倉重矩」⇒4万石(⇒寛文11(1671)年2月、1万石を加増され5万石)
1666年2月4日-08:00|台湾| |||清・康熙5年1月|承天府孔子廟完成
1666年2月12日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェストモラント伯「マイルドメイ・フェイン」
1666年2月12日 00:00|イギリス| |||<就任>ウェストモラント伯「チャールズ・フェイン」先代の子(~16910918死去)
1666年2月21日-01:00|フランス| |||<死去>コンティ公「アルマント・ド・ブルボン」(生年1629年)軍人
1666年3月7日-09:00|日本| |||寛文6年2月2日|幕府が山川・原野に関する条令を布令
1666年3月8日-09:00|日本|島根県松江市|寛文6年2月3日|<死去>出雲松江藩18万6千石「松平直政」病死(生年1601年)⇒4月10日、長男「松平綱隆」が継ぐ(⇒延宝3(1675)年閏4月1日、急死)
1666年3月16日 05:00|ペルー/スペイン| |||<死去>ペルー副王「サントステバン伯デ・イコ・デ・ベナビデス・イ・デ・ラ・クエバ」
1666年3月16日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー暫定副王「ペルナルト・デ・イトリアサ」(1回目~16671121)
1666年3月21日-09:00|日本|大阪府|寛文6年2月16日|<立藩>河内国内15000石「米津田盛」大坂定番に任命され加増(⇒貞享元年1月25日(16840311)死去)
1666年3月30日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・トマス島総督「Erik Nielsen Schmidt」(~6.12)
1666年3月30日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<設立>セント・トマス島のデンマーク人入植地(~1668年)
1666年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベルツィ」
1666年4月5日-09:00|日本| |||寛文6年3月|浅井了意の「御伽婢子」刊行
1666年4月7日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのペイルバエ「セラ・ガシム・パシャ」(~16670522)
1666年4月7日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>グレイシャ島トリア長官「Luis Mendes de Elvas」(~1674年)
1666年4月13日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|寛文6年3月9日|<死去>但馬出石藩5万石「小出吉英」⇒5月14日、次男「小出吉重」が継ぐ(弟「英本」「英信」・甥「英勝」に計5千石分知し45000石⇒延宝元(1673)年12月12日、隠居)
1666年4月22日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/セント・マルテン/サン・マルタン/サン・バルテルミー/フランス| |||フランスがセントクリストファー島全体を占領(~16710705)

1680迄 (2638件)

1666年5月3日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文6年3月29日|<解任>老中「阿部忠秋」
1666年5月3日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文6年3月29日|<就任>老中「酒井忠清」⇒大老(延宝8年12月9日)
1666年5月13日-09:00|日本|島根県安来市|寛文6年4月10日|<立藩>出雲広瀬3万石「松平近栄」出雲松江藩から分立(⇒天和2(1682)年2月10日、15000石へ減封)
1666年5月13日-09:00|日本|島根県安来市|寛文6年4月10日|<立藩>出雲母里1万石「松平隆政」出雲松江藩から分立(⇒延宝元(1673)年2月4日、26歳で死去)
1666年5月24日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「イリア・アレクサンドル」(~16681108)
1666年5月26日 05:00|コロンビア/スペイン/イギリス| |||イギリス海賊マンスフェルトとモルガン、モディフォード 総督の命を受け、サンタ・カタリ島(現コロンビア領ロビテンシア島)を占拠(8月、スペインに奪回される)
1666年6月-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ 王国マニコ「アルヴァロ7世トウシ・ムサ」
1666年6月-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコ「アルバロ8世ムンバ・ア・ムハ・ンツ」(~1669年1月没)
1666年6月1日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||ユリウス暦:1666/5/22|北フランスのダンケルク沖の4日間の海戦で、オランダ 海軍提督シエル・デ・ロイテルの艦隊とイギリス艦隊が対決し、オランダ が優勢となる
1666年6月4日-01:00|フランス| |||モリエールの喜劇「人間嫌い」がパレ・ロイヤル劇場で上演される
1666年6月5日-09:00|日本|京都府宮津市|寛文6年5月3日|<改易>丹後宮津藩7万8200石「京極高国」親子不和・悪政を理由に/陸奥盛岡に幽閉
1666年6月6日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「ムレイ・アル＝ラシド」ムレイ・シャリフの息子(~16720409死去41歳)
1666年6月7日-09:00|日本|山口県岩国市|寛文6年5月5日|<死去>吉川広正、前岩国藩藩主(生年1601年)
1666年6月12日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバグラナ大統領・総督・総司令官「ディエゴ・デル・コロ・イ・カスカル」(~16670810)
1666年6月16日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マース島総督代理「Jesper Hoyer」(~1667年死去)
1666年6月29日-09:00|日本|徳島県徳島市|寛文6年5月27日|<死去>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀光隆」⇒長男「蜂須賀綱通」が継ぐ(⇒延宝6年7月30日(16780915)死去)
1666年7月1日-09:00|日本|大分県竹田市|寛文6年5月29日|<交替>豊後岡藩70440石「中川久清」隠居⇒長男「中川久恒」が継ぐ(⇒元禄8年6月15日(16950725)死去)
1666年7月1日-09:00|日本|大分県中津市|寛文6年5月29日|<死去>豊前中津藩8万石「小笠原長次」⇒次男「小笠原長勝」が継ぐ(⇒天和2年12月2日(16821230)死去)
1666年7月2日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|寛文6年6月1日|但馬蛇山噴火。5、6間裂け、民家倒壊し死者多数
1666年7月6日-03:00|サジ・アラビア| |||<死去>メッカ・シャリフ「サード・ベン・モゼン」
1666年7月6日-03:00|サジ・アラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「サード・ベン・ザ・イト」(1度目~1672年)
1666年7月20日-09:00|日本|和歌山県有田市|寛文6年6月19日|<死去>有田の陶工・酒井田柿右衛門/赤絵磁器の創始者
1666年7月25日-01:00|オランダ/イギリス| |||(~26日)イングラント 艦隊は、ノースフォラント 沖でオランダ 艦隊に勝利
1666年7月25日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代リンジー伯「モンタギュー・パーティ」
1666年7月25日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代リンジー伯「ロバート・パーティ」(~17010508死去)
1666年7月28日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「Henry Willoughby」(~16670603)
1666年7月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ラウエンブルク公「フランツ・エルトマン」
1666年7月30日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公「ユリウス・フランツ」(~16890930死去)
1666年7月30日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|寛文6年6月29日|鳥取日香寺建立、願主池田光仲
1666年8月1日-09:00|日本|熊本県熊本市|寛文6年7月|<立藩>熊本新田藩3万5000石「細川利重」熊本藩から内分(⇒貞享4(1687)年8月15日、死去)
1666年8月1日-09:00|日本|群馬県沼田市|寛文6年7月|舒林寺、真田信利により現在地(材木町)に移され、跡地に天桂寺が建立される
1666年8月3日-09:00|日本| |||寛文6年7月3日|<寛文6年7月台風>(5日)四国では4日、予州(伊予国)加藤出羽守居城大洲、暴風雨に付き大水出で、高潮押込み、城廻の石垣百間(182m)ほど突崩、家中(家来)の家々ならびに民屋(町民の家)大半破損/土佐でも3日~5日、暴風雨に付き損田5千石余、家数830軒流亡、船数73艘破損、溺死52人、川を除く堤大破502か所/山内修理亮居所(土佐中村)は四万十川の氾らんで、3mもの高さの水が押し寄せて、侍屋敷も民家も水の中、田畑も流されその損失は計り知れない/北九州では3日より4日まで、豊後の府内松平将監領分、大雨疾風に付いて、家数530軒余吹倒す/全体で幕府へ報告された被害だけでも、少なくとも2000軒に及ぶ住家が暴風雨で倒壊し、洪水により流失したり水没した
1666年8月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>シュヴァルツブルク＝ゾンダー＝スハウゼン侯「アントン・ギェンター1世」
1666年8月19日-01:00|ドイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク＝ゾンダー＝スハウゼン侯「クリスティアン・グィルヘルム」(~17210510死去)
1666年8月20日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「トリスタン・ダ・クーニャ」(~1667年1月)
1666年8月26日-01:00|オランダ| |||<死去>フランス・ハルス、オランダ の画家(生年1580年代)
1666年8月28日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛文6年7月28日|<加増>常陸陸戸藩15000石「土屋数直」+2万石⇒35000石(⇒寛文9(1669)年6月25日、1万石加増され常陸土浦藩45000石)
1666年9月 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| |||(~1667. 3)フランスがトバゴを占領、グレナダに従属させる(1667. 3~16670417廃棄)
1666年9月2日-09:00|日本|島根県|寛文6年8月4日|<寛文6年出雲富田水没>夕方から大雨が富田の町周辺に降り富田川が氾濫して富田八幡宮付近の東側堤防を決壊させ大洪水となって町を襲い一瞬のうちに水没させた/この洪水で旧城下町が全滅

1680迄 (2638件)

1666年9月12日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦9月2日| (~15日)ロンドンで大火/89の教会、1万3200の民家(市街地の85%)が灰になる、死者は4名にとどまる/世界5大大火の一つ

1666年9月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク＝ウォルフエンビュッテル侯「アウグスト2世」

1666年9月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク＝ウォルフエンビュッテル侯「ルトルフ・アウグスト」アウグスト2世の息子 (~1704 0126死去)

1666年9月23日-01:00|フランス| |||<死去>フランソワ・マンサール、フランスの建築家(生年1598年)

1666年9月25日-03:30|イラン| |||<死去>サファヴィー朝シャー「アッバース2世」

1666年9月27日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「コルネリス・ファン・ケルヘルク」(~16680618)

1666年10月 00:00|イギリス| ||秋|イギリスの数学者ニュートンが万有引力の法則を発見

1666年10月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Antoine Lefebvre la Barre」(~1669. 2)

1666年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アレサント・ロ・ベッルツィ」「ボネ・イ・ゾリ」

1666年10月6日-09:00|日本| ||寛文6年9月8日|幕府が初めて鉄砲組と力を設置

1666年10月17日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「サン・ビセンテ伯ジョアン・ヌネス・ダ・カストロ」(~166811 06没)

1666年10月29日 00:00|イギリス| |||<死去>ジェームズ・シャーリー、イギリスの劇作家(生年1596年)

1666年11月1日-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「サフィー2世スライマン」(~16940729死去)

1666年11月4日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<死去>アンティグア総督「ロバート・カーテン」

1666年11月4日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>アンティグア総督代行「チャールズ・ゲスト」(~9日)

1666年11月9日 04:00|アンティグア・バブーバ/フランス| |||<就任>フランス領アンティグア総督「クロトレ卿ロベール・ル・フリショ・デ・フリッシュ」フランスがアンティグアを占領(1回目~12日)

1666年11月12日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>アンティグア総督「ダニエル・フィッチ」(~30日)

1666年11月17日 04:00|BES諸島/フランス| |||<就任>セント・ユースタティウス島司令官「Rose」フランス司令官(~1668年)

1666年11月17日 04:00|BES諸島/フランス| |||セント・ユースタティウス島をフランスが占領(~1668年中ごろ)

1666年11月26日-09:00|日本| ||寛文6年11月|諸国の農村に法度を公布

1666年11月30日 04:00|アンティグア・バブーバ/フランス| |||<就任>フランス領アンティグア総督「クロトレ卿ロベール・ル・フリショ・デ・フリッシュ」フランスがアンティグアを占領(2回目~1667年5月)

1666年12月 00:00|イギリス| |||<死去>3代ヒュム伯「ジェームズ・ヒュム」

1666年12月 00:00|イギリス| |||<就任>4代ヒュム伯「アレクサンダー・ヒュム」(~1674年死去)

1666年12月6日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛文6年11月11日|重須本門寺客殿より出火塔中9坊焼失

1666年12月20日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦9月2日|(英)金銀複本位制スタート*鑄造手数料撤廃

1666年12月22日-01:00|イタリア| |||<死去>ゲルチーノ、イタリアの画家(生年1591年)

1667年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督代理「Anthonio Hurdt」(1期目~1669年)

1667年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Maximilian de Jong」(~1669年)

1667年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・スルタン「ラトゥ・サド」1世ヒンティ・ラジャ・ロヨル」(~1671年)

1667年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ヤン・ファン・ジャール」(~1668年)

1667年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット・ワリス「カラムスタファ・ハシャ」(3回目~1671年)

1667年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスラ・ワリス「ヤー・ハシャ」(~1669年)

1667年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンテリア公「ヤコボ・コンタリニ」(~1669年)

1667年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「シスマン・イブラヒム・ハシャ」(~1668年11月、在職中に死去)

1667年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Mehmed Pasha Chewish Oglu」(~1669年)

1667年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク知事「Inacio Sarmento de Carvalho」(~1670年)

1667年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファアラ、リス・テ・クアマ、モモタハ総司令官「イグナシオ・サルメント・デ・カルヴァーリョ」(~1670年)

1667年-01:00|スペイン| |||<死去>10代メーイナ・シトニア公「ガスパール・ファン・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・グスマン」

1667年-01:00|スペイン| |||<就任>11代メーイナ・シトニア公「ファン・クラロス・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・フェルナンド・ス・デ・コルトバ」(~1713年死去) 先代の弟

1667年-01:00|スペイン| |||<就任>第7代アルバ公「アントニオ・アルバ・レス・デ・トレド・イ・エンリケ・デ・リベラ」(~1690年) 先代の子

1667年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「マヌエル・デ・アルメイダ」(~1670年)

1667年 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<死去>セント・トマス島総督代理「Jesper Hoyer」

1667年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「N. Williams」

1667年 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・トマス島総督代理「Kjeld Jensen Slagelse」(~1668年)

1667年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク暫定知事「Francois Roole」(~1672. 2死去)

1667年 04:30|ベネズエラ| |||トルチュー島のフランス海賊フランソワ・ロノア、ベネズエラのマカイクおよびビブラタルを襲撃

1667年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「アグスティン・デ・ブラモンテ・イ・サパタ」(~1669年)

1667年 05:00|キューバ| |||フランスの船長、レディオス、プエルトリコ、パタノの町を襲撃

1667年1月2日 11:00|日本|大阪府大阪市|寛文6年12月8日|<大坂寛文6年の大火「雑喉(雑魚)場焼」>(~9日)前日、雑喉場(魚市場)から出火しいったん収まったが、この日戌の刻(20時ごろ)、新町遊郭から再び出火/炎は翌日の巳の刻(午前10時ごろ)まで荒れ狂い、大坂全市域のほぼ四分の一に延焼、灰と化した/142町8527軒焼失

1667年1月3日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>カリビ-諸島総司令官・総督「パーラムのウィルビー-男爵ウィリアム・

1680迄 (2638件)

ウィルヘルム (～1668年)

- 1667年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ノーセク伯「ジョン・カーネギー」
1667年1月8日 00:00|イギリス| |||<就任>第2代ノーセク伯「デヴィッド・カーネギー」(～1679)1212死去)
1667年1月10日-01:00|オランダ/インドネシア| |||オランダがボンガヤ条約でマツカルを保護領化
1667年1月18日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「セバスチャン・アルバレス・アルフォンソ・ロサ・デ・カルダス」(～1670)1029)
1667年1月24日-08:00|中国| |||清・康熙6年|<即位>ヤルカント・ハン「ヨルバルス」アブドゥッラーの子(～1668年、殺害される)
1667年1月30日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「フランシスコ・ソト・ラレス・ソウト・マイオール」(2. 3)
1667年1月30日-01:00|ポーランド/ロシア/ウクライナ/リトアニア| |||ロシア暦1月20日|ロシアとポーランドの間にアントルツォ条約が結ばれ、戦争が終結|ポーランド・リトアニア共和国がロシアにスモレンスク、ウクライナなどを割譲
1667年2月3日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「商工会議所上院:アントニオ・デ・アラウジョ・デ・アゼベド」(議長)/パウロ・レベロ・ダ・クニャ/ロベヒエラ・デ・リマ・パウロ・バレンテ/デ・イゴ・ウ・アスカメロ」(～1668年)
1667年2月9日-02:00|ウクライナ/ロシア/ポーランド| |||アントルツォ条約では、ヘーチマン国家はポーランドとロシアの間で暫定的に分割|ロシアは左岸ウクライナ(キエフとザポロージャのシークを含む)を取得し、ポーランドは右岸を保持
1667年2月10日 04:00|モンセイト/フランス| |||<就任>フランス占領下モンセイト総督「Joseph Antoine Lefebvre de La Barre」(～19日)
1667年2月10日 04:00|モンセイト/フランス| |||モンセイトをフランスが占領(～1668年)
1667年2月19日 04:00|モンセイト/フランス| |||<就任>フランス占領下モンセイト暫定総督「sieur de Praille」(～同年)⇒総督「Anthony Brisket」2世|フランスにより任命(2期目～1668年)
1667年2月25日 11:00|日本|愛媛県大洲市|寛文7年2月3日|吉田藩陣屋町のうち魚棚より出火し、町人町を全焼
1667年2月27日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム司令官(オランダ西インド会社)「モリス・デ・ラマ」(～10. 18)
1667年2月27日 03:00|スリナム/オランダ| |||オランダがアプ・ラハム・クライセン提督の下でスリナムの征服を開始
1667年3月6日 03:00|スリナム/オランダ| |||<制定>スリナム植民地(コロニー・スリナム)
1667年3月20日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛文7年2月26日|重須本門寺客殿より出火|塔中2坊焼失
1667年3月22日-09:00|日本|東京都|寛文7年2月28日|興業税のもつれから、金剛太夫の勧進能にえた頭・弾左衛門らが乱入
1667年3月23日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ナタ・ステイ伯爵フェレンツ・ナタ・ステイ」(～1670)0903)
1667年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロドゥ・イコ・ベルツィ」/「イノセント・ボネリ」
1667年4月2日-09:00|日本|京都府亀岡市|寛文7年閏2月9日|<交替>丹波亀山藩38000石「松平(藤井)忠晴」隠居⇒次男「松平忠昭」が継ぐ(⇒天和3年閏5月4日(1683)0628)死去)
1667年4月3日 00:00|イギリス| |||<死去>ウスター侯「エドワード・サマセット」
1667年4月3日 00:00|イギリス| |||<就任>ウスター侯「ヘンリー・サマセット」先代の子(⇒1682)1202兼ポーフート公(～1700)121死去)
1667年4月6日-01:00|クアアア| |||クアア南部、トゥングラ・ニク地震、死者5000人以上
1667年4月9日-01:00|フランス| |||世界初の美術展、パリのパレロワイヤルで開かれる
1667年4月11日-09:00|日本| |||寛文7年閏2月18日|幕府再度、難破船に対する浦方条目(浦高札)を諸国の浦(浜辺の集落)に公布|第1条が難破船の救助、第2条が破損船及び船員や荷物の引き揚げとそれらの働きに対する報酬料、第3条は沖合での遭難の場合の処置などで、救出側の対応を定めたもの/船主側に対しては、第4条で天気の回復を待つ日と和り待ちを理由にした長期滞船の禁止、第5条は城米(幕府直轄領の年貢米)輸送中に、好天にも関わらず破船(遭難)した場合、船主、船頭の過失とすること、第6条は漂着船、漂着荷物は半年を限り保管すると保障し、同時に救出側にも保管を指示、最後の第7条は両者に対する博奕の禁止
1667年4月12日-09:00|日本| |||寛文7年閏2月19日|幕府が5畿内、近江、播磨の諸国に本田畑の煙草栽培を禁じる
1667年4月17日 04:00|トリニダード・トバゴ/オランダ| ||| (～1672)1218)オランダ西インド会社の管理の元、オランダ植民地トバゴ再建、オランダ領ギアナに従属
1667年5月 04:00|アンティグア・ババーダ/イギリス| |||<就任>アンティグア総督「ハーハムのウィルヘルム・男爵ウィリアム・ウィルヘルム」(～1670年)
1667年5月3日 00:00|カリヤ諸島| |||<就任>フェルベントウ島主「Fernando Mathias Arias de Saavedra」(～1704)1114死去)
1667年5月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヨハン・ヤーコフ・フローベルガー、ドイツの作曲家(生年1616年)
1667年5月10日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国「ジョゼ・チザーレ・ジェンタイル」(～1669)0510)
1667年5月16日 00:00|イギリス| |||<死去>イングランド王国主高財務官・4代サンプトン伯・2代チェスター伯「トマス・リスリー」
1667年5月16日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国主高財務官代理「ロバート・ロンク卿」(～24日)
1667年5月19日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのバイエル・メフメット・パシャ」(～10. 22)
1667年5月21日 00:00|イギリス| |||<死去>リンカン伯「ジョフィラス・クリントン」
1667年5月21日 00:00|イギリス| |||<就任>リンカン伯「エドワード・クリントン」(～1692)1115死去)
1667年5月21日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「マヌエル・ダ・コスタ・ペソア」(1回目～1670年)
1667年5月22日-01:00|バチカン| |||<死去>第237代ローマ教皇「アレクサンデル7世」71歳(誕生1596)0213)アグニエーの法王領を失った
1667年5月23日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>サンタマリア島ナタリ長官「Luis de Vasconcelos e Sousa」(～1720)0815死去)
1667年5月24日-01:00|ベルギー/フランス/スペイン| |||フランス国王ルイ14世が大軍を動員してスペイン領ネーデルラントに侵攻し、フランドル戦争が勃発
1667年5月24日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国国庫財務実行主席弁務官「アルマール公ジョージ・モンク」(～1670)

1680迄 (2638件)

103死去)Mil

1667年6月-01:00|パチン| |||<就任>パチン枢機卿國務長官「テ・シオ・アツォリノ」(~1669年)

1667年6月 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官代理「Lorenzo Santos de San Pedro」(~1668. 12)

1667年6月2日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総督「ホイ・レヒト・ファン・ガークルトンク」(~1668. 12. 12)

1667年6月3日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「William Willoughby」(1期目~1668. 11)

1667年6月10日-01:00|オランダ/イギリス| |||オランダ艦隊はジャム基地を守る鉄鎖を突破して警備艦3隻を撃破すると、保管中の大型艦5隻を撃沈し、イングランド海軍の旗艦ロイヤル・チャールズを含む2隻を拿捕して撤退

1667年6月13日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「アレクサンドル・デ・ヌーザ・フレイレ」(~1671. 05. 08)

1667年6月15日-01:00|フランス| |||フランスで、世界初の輸血手術が行われる/子ヒツジの血を人間に輸血するというものだったが、何故か成功

1667年6月18日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「洪命夏」(~1668. 02. 09)

1667年6月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>オルデンブルク伯「アントン・ギューター」

1667年6月19日-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「フレデリク1世」デンマーク王フレデリク3世(~1670. 02. 09死去)

1667年6月20日-01:00|パチン| |||<就任>第238代ローマ教皇「クレメンス9世」(~1669. 12. 09死去)

1667年6月20日 00:00|イギリス| |||<死去>ケンブリッジ公「ジェームズ・ステュアート」

1667年6月23日-09:00|日本| ||寛文7年5月2日|江戸市中に墮胎業禁令が発令される

1667年7月4日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ツェルブスト侯「Johann6世」

1667年7月4日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト・ツェルブスト侯「Karl William」(~1718. 11. 03死去)

1667年7月6日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文7年5月15日|松山藩主松平定長の保護により、湯月八幡宮(伊佐爾波神社)社殿落成

1667年7月7日-01:00|フランス| |||<死去>ニコラ・サンソン、地図製作者(生年1600年)フランスの地図製作の父

1667年7月13日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|寛文7年5月22日|<交替>紀伊和歌山藩55万5千石「徳川頼宣」隠居⇒嫡男「徳川光貞」が継ぐ(⇒元禄11(1698)年4月22日、隠居)

1667年7月15日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛文7年5月24日|<死去>播磨姫路藩15万石「榊原政房」⇒嫡男「榊原政倫」が継ぐ(⇒6月19日、越後村上藩15万石に転封)

1667年7月16日-09:00|日本|静岡県湖西市|寛文7年5月25日|幕府が遠江国今切、荒井両閥の規則を制定

1667年7月19日-09:00|日本|群馬県安中市|寛文7年5月28日|<改易>上野安中藩2万石「水野元知」発狂、信濃松本に幽閉

1667年7月28日 00:00|イギリス| |||<死去>エイザム・カリー、イングランドの詩人(生年1618年)

1667年7月28日-09:00|日本|群馬県安中市|寛文7年6月8日|<立藩>上野安中藩2万石「堀田正俊」(⇒延宝7(1679)年7月10日、2万石の加増を受け4万石)

1667年7月29日-09:00|日本|京都府南丹市|寛文7年6月9日|<交替>丹波園部藩29800石「小出吉親」隠居⇒長男「小出英知」が継ぐ(「吉親」隠居領5千石とし25000石⇒延宝元(1673)年10月27日、隠居)

1667年7月29日-09:00|日本|高知県四万十市|寛文7年6月9日|<死去>土佐中村藩3万石「山内忠直」⇒長男「山内豊定」が継ぐ(⇒延宝5(1677)年10月13日、死去)

1667年8月1日-09:00|日本|滋賀県高島市|寛文7年6月12日|<死去>近江大溝藩2万石「分部嘉高」⇒養子「分部信政」が継ぐ(⇒正徳4(1714)年6月23日、隠居)

1667年8月3日-01:00|イタリア| |||<死去>フランチェスコ・ボッロミニ、イタリアの建築家(生年1599年)

1667年8月8日-09:00|日本|新潟県村上市|寛文7年6月19日|<移封>播磨姫路藩15万石「榊原政倫」⇒越後村上藩15万石(⇒天和3年2月27日(1683. 03. 25)死去)

1667年8月8日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛文7年6月19日|<移封>越後村上藩15万石「松平直矩」⇒播磨姫路藩15万石(⇒天和2(1682)年2月7日、豊後国日田藩7万石へ減移封)

1667年8月10日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌバゲラダ大統領・総督・総司令官「カボ・侯爵・ラウ・イ・デ・サンクルス・デ・ビナス卿・デ・イゴ・デ・ビジャルバ・イトレド」(~1671. 06. 02)

1667年8月18日-01:00|オランダ/スペイン/フランス| |||フランス王ルイ14世、スペイン領南ネーデルラントの領有権(継承権)を主張し、スペインとの間で「南ネーデルラント継承戦争」(「フランドル戦争」)が始まる(~1668年)/この日フランドル地方の中心都市リールなどを占領

1667年8月20日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦8月10日|ロンドンで、詩人ジョン・ミルトンが長編叙事詩『失樂園』を刊行

1667年8月24日-01:00|オランダ/イギリス/アメリカ/スリナム| ||ユリウス暦:1667/8/14|<批准>ブレダ条約(7. 31. 締結)第2次英蘭戦争が終わる/ニューヨークの英国帰属が決定、総督領として英国に直属/イギリスはスリナムに持つ利権をオランダに委譲

1667年9月2日-09:00|日本/中国|長崎県長崎市|寛文7年7月14日|<死去>唐僧で崎陽漢画の祖、逸然性融(68)

1667年9月3日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ギルフォート女伯「エリザベス・ホイル」

1667年9月17日-09:00|日本|東京都|寛文7年7月29日|江戸府内の門松を禁ず

1667年9月23日 03:00|仏領ギアナ/イギリス| |||<就任>ギアナのイギリス司令官「Sir John Harman」(~10. 8)

1667年9月23日 03:00|仏領ギアナ/イギリス| |||ギアナをイギリスが占領(~10. 8)

1667年9月23日 06:00|アメリカ| |||ヴァージニアで改宗に関係なく終身奴隷制を確立

1667年10月 04:00|セントルシア/フランス| |||セントルシアをフランスのコンパニー・デ・インディーズ・オクシデンタルが統治(~1674年)

1667年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パオロ・アントニオ・オフリ」(「ド・ミティウス・ベニ」

1667年10月3日-01:00|スペイン| |||<死去>アロンソ・カーノ、スペインの画家(生年1601年)

1667年10月7日 00:00|イギリス| |||<就任>ケンブリッジ公「エドワード・ステュアート」ジェームズ2世の四男(~1671. 06. 08死去)

1680迄 (2638件)

1667年10月8日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「pere Jean Morellet」(~12月)
1667年10月15日-09:00|日本|兵庫県姫路市|寛文7年8月28日|<交替>播磨林田藩1万石「建部政長」隠居⇒三男「建部政明」が継ぐ(⇒寛文9(1669)年12月23日、32歳で死去)
1667年10月18日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ファシリテス・セニヨス」
1667年10月18日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ヨハネス1世ファシリテス」(~16820719没)
1667年10月18日 03:00|スリナム/イギリス| |||<就任>オランダ領スリナム(イングランド)総督「ジョン・ハーマン」(~11.3)
1667年10月18日 03:00|スリナム/イギリス| |||イングランドがスリナムを再占領(~16680428)
1667年10月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランデンブルク=アンスタットの辺境伯「アルブレヒト」
1667年10月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランデンブルク=アンスタットの辺境伯「ヨハン・フリードリヒ」(~16860322死去)
1667年10月27日-01:00|オランダ| |||<死去>ハブリエル・メツ、オランダの画家(生年1630年)
1667年10月28日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのペレグイ「マフムト・ハッシャ」(~16701030)
1667年11月3日 03:00|スリナム/イギリス| |||<就任>オランダ領スリナム(イングランド)総督「サミュエル・ハリー」(~16680201)
1667年11月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>フランク・トゥンガー、ドイツの作曲家、オルガニスト(生年1614年)
1667年11月7日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリダ総督「Juan de Penalosa y Estrada」(~1669年)
1667年11月7日-01:00|フランス| |||ジャン・ラシヌの悲劇「アント・ロマック」がブルジョア座で上演される
1667年11月18日-01:00|オランダ/インドネシア| |||オランダが、スラウェシ島(インドネシア)のゴワ王国を制圧
1667年11月21日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「レオス・ペドロ・フェルナンデス・デ・カストロ・アントニオ・デ・イ・ポルトガル」(~16721206没)
1667年12月3日-09:00|日本|福岡県北九州市|寛文7年10月18日|<死去>豊前小倉藩15万石「小笠原忠真」⇒三男「小笠原忠雄」が継ぐ(⇒寛文11(1671)年、弟「真方」に小倉新田藩1万石を分与立藩⇒享保10(1725)年6月28日、死去)
1667年12月17日-04:00|アゼルバイジャン| |||アゼルバイジャンのシェマッカで地震(M7.7)死者8万人
1667年12月25日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督「ナポレオン・デ・イコ・タビラ・コエジョ・イ・パチコ」(~1670年2月)
1668年-07:00|タイ| |||<即位>ソクラー・スルタン「ムスタファー・フセイン」(~1680年)
1668年-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 弁務官「フランソワ・カロン」(~16730405、死去)
1668年-05:30|インド/フランス| |||フランス東インド会社がインドのムラートに商館を開設
1668年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ニコラ・ド・モラン」(~1669年)
1668年-04:00|ジョージア| |||<復位>イメレティ王「ヴァフタンク・チュチュナウイリ」(~1669年)
1668年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Ibrahim Pasha」(~1669年)
1668年-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツカ公「ジグムント2世フリードリヒ」(~16970603死去)
1668年-01:00|フランス| |||<就任>サン＝ポル伯「シャルル・パリー・ロングヴィル公」(~1672年)
1668年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「イbrahim・ハッシャ」(~1669年)
1668年-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「評議会:トマス・ボルヘス・マドレイラ/ルイス・ダ・シルバ・デ・モッタ/ジョアン・デ・アラウホ/ジョアン・カルドソ/ガスパール・サルテ・デ・アントニオ・オロドリゲス・デ・アントニオ・ラテ」(~1669年)
1668年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教「Sigismund Alfons von Thun」(~1677年)
1668年-01:00|フランス| |||<即位>ロングヴィル公「Charles Paris」(~16720612死去)
1668年-01:00|オランダ/スリランカ| |||オランダが、キャンディ王国からパティコラを奪取
1668年-01:00|スウェーデン| |||ストックホルムに国立銀行が設置
1668年 00:00|イギリス| |||<死去>ウィグ・タウン伯「ジョン・フリンク」
1668年 00:00|イギリス| |||<就任>ウィグ・タウン伯「ウィリアム・フリンク」(~1681年死去)
1668年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>ラ・コメロ伯「Juan Bautista de Herrera」(~1718年死去)、「Mariana de Ponte」(~1718年)
1668年 00:00|イギリス/トルコ| |||イギリス人ポール・リューが「オスマン帝国の現況」を刊
1668年 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Joseph-Antoine Lefebvre」(2期目~1670年)
1668年 04:00|アンティグア・バブーダー/イギリス| |||<就任>アンティグア総督代行「ヘンリー・ウィルバー」(~1669年12月没)、副総督「サミュエル・ウィンスロップ」(~1671年)
1668年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官「Pieter Adriaensen」(2期目~1671年)
1668年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「ファン・マルクス・カブレラ」(~1672年)
1668年 06:00|ニカラグア| |||イギリス、フランス、オランダの海賊があいついでニカラグアを襲撃。農産物の集散地グアラダは壊滅的な打撃を受ける
1668年 06:00|カタール| |||カタル司教がケック・セナリを創設
1668年1月-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>カンティニア王国総督「ペルナルト・ナニ」(~6.22)
1668年1月1日-01:00|スペイン| |||ペレヒル島はスペインの所有物
1668年1月4日-04:00|アゼルバイジャン| |||アゼルバイジャン・シェマッカ地震(M7.0)死者8万人
1668年1月23日-01:00|オランダ/イギリス| |||イギリスとオランダが、フランスに対抗してハーグ同盟を結ぶ
1668年2月 00:00|ポルトガル/スペイン| |||ポルトガルとスペインがリスボン条約を締結し、セウタを割譲
1668年2月 05:00|キューバ| |||モルガン、フェルト・プリンス(現カマグエイ)の町を攻撃。住民を教会に閉じ込め、財産を掠奪したうえ町を焼き払う
1668年2月1日 03:00|スリナム/イギリス| |||<就任>オランダ領スリナム(イングランド)総督「ジェームス・バニスター」(~4.28)
1668年2月12日-09:00|日本| ||寛文8年|この年「一休咄」刊行
1668年2月12日-09:00|日本|静岡県磐田市|寛文8年|<加増>遠江掛塚藩1万石「加々爪直澄」+3000石⇒13000石(⇒延宝7(1679)年6月18日、隠居)

1680迄 (2638件)

1668年2月12日-08:00|中国| ||清・康熙7年|<死去>ヤルカント・ハン「ヨルバル」殺害される
1668年2月12日-08:00|中国| ||清・康熙7年|<即位>ヤルカント・ハン国ハ「Abd al Latif Sultan」(~同年)⇒「Ismail」(~1678年)
1668年2月12日-08:00|中国| ||清・康熙7年|<即位>ヤルカント・ハン「アブドゥッラティフ」ヨルバルの子(~1670年)
1668年2月13日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「鄭太和」(~16701228)
1668年3月1日-09:00|日本| ||寛文8年1月19日|幕府新寺の建立を禁ず
1668年3月7日-01:00|イタリア/トルコ| ||ベネチア海軍司令長官フランチェスコ・モロシニ、サンタ・ペラジァ付近で勝利
1668年3月12日-08:00|中国| ||清・康熙7年1月30日|<死去>(チベット)ゲシ・ハン王「ダヤン・ハン」
1668年3月12日-08:00|中国| ||清・康熙7年1月30日|<即位>(チベット)ゲシ・ハン王「ダリ・クン・タイジ・ダシ・バトゥール」(~1671年)
1668年3月13日-09:00|日本|福島県いわき市|寛文8年2月1日|<移転>陸奥高月藩2万石「内藤政親」⇒陸奥泉藩2万石(⇒元禄9(1696)年11月6日、病死)
1668年3月13日 05:00|日本|東京都|寛文8年2月1日|<江戸寛文8年2月の連続火災>未の刻(14時ごろ)、若狭小浜の藩主酒井忠直下屋敷内の家来阿部伝太夫宅(長屋)から出火し、市ヶ谷から麴町、芝、海岸方面へ延焼/同じ頃、本郷吉祥寺前から出火し神田、日本橋方面へと延焼/同じ頃、四谷麴町門外の町家が火元の火事で、1日で合計武家屋敷2407軒、寺院136か所、町屋132町半、農家170軒を焼失
1668年3月16日 00:00|イギリス| ||<死去>シュルズベリー伯・ウォーターウード 伯「フランス・タルボット」
1668年3月16日 00:00|イギリス| ||<就任>シュルズベリー伯・ウォーターウード 伯「チャールズ・タルボット」先代の息子(⇒16940430シュルズベリー公~17180201死去)
1668年3月16日-09:00|日本|東京都|寛文8年2月4日|<江戸寛文8年2月の連続火災>再び3件の火事が発生/辰の後刻(午前9時ごろ)四谷伊賀町の久保五郎兵衛宅より出火、青山宿から赤坂あたり、芝、三田筋まで延焼/ついで生台の山内右近大夫宅より出火、土器町から芝まで延焼/未の後刻(15時ごろ)上野の東叡山車坂下の長慶寺(一説には、下谷の御切手番・柳下大兵衛宅)から出火し、寺町から浅草、鳥越町へ延焼、そこからさらに本所横掘り一の橋に飛び火し深川あたりまで焼く/また一つは四谷伊賀町から出火し赤坂、麻生、芝まで延焼、合計800余町を延焼
1668年3月18日-09:00|日本|東京都|寛文8年2月6日|<江戸寛文8年2月の連続火災>小日向の新築地小十人組奥津兵左衛門組の与力青木市左衛門方から出火し、小石川、牛込、飯田町から代官町を焼き払い江戸城本丸大奥まで延焼し侍屋敷303軒余を焼失
1668年3月31日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|寛文8年2月19日|<死去>下野宇都宮藩11万石「奥平忠昌」61歳⇒長男「奥平昌能」が嗣ぐ(⇒8月、出羽山形藩2万石へ減移封)
1668年4月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「カホ・ロリ」「ジャンバ ッティスタ・ザンビニ」
1668年4月7日 00:00|イギリス| ||<死去>ウィリアム・ダウガント、イギリスの詩人・劇作家(生年1606年)
1668年4月8日-09:00|日本|長崎県島原市|寛文8年2月27日|<改易>肥前島原藩37000石「高力高長」勤務懈怠・領内混乱、陸奥仙台に幽閉
1668年4月19日-09:00|日本| ||寛文8年3月8日|幕府外国輸出入品を制限
1668年4月25日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿代行「オズリー伯爵トマス・バトラ」(~16690918)
1668年4月25日-09:00|日本| ||寛文8年3月14日|幕府が農民に倭約令を出す
1668年4月27日-09:00|日本|京都府京都市|寛文8年3月16日|<就任>関白「鷹司房輔」(~天和2年2月18日)
1668年4月28日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 司令官代行「アブラハム・クラインセン」(~16690216)
1668年4月28日 03:00|スリナム/オランダ| ||オランダのスリナム支配がクラインセン提督によって再び回復
1668年5月1日-09:00|日本| ||寛文8年3月20日|幕府が町人に倭約令を出す
1668年5月2日-01:00|フランス/スペイン| ||フランス国王ルイ14世とスペインおよびハプスブルグ 同盟の間にアヘンの和約が結ばれてフランドル戦争が終結/フランスがスペイン・蘭・英・スウェーデンと和し、侵略した土地をほとんど返還/フランスがフランドルの一部の都市を獲得し、リールとフランドルの一部を併合
1668年5月11日-09:00|日本|福井県小浜市|寛文8年4月1日|遠敷郡上竹原村から出火、161軒焼失
1668年5月15日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス領バミューダ 総督「サミュエル・ワットリー」(~1669.5)
1668年5月21日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛文8年4月11日|重須行泉坊焼失
1668年5月31日-09:00|日本|北海道|寛文8年4月21日|シャクシャイン、金掘文四郎の小屋にオビシを討つ
1668年6月-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>カンデリア王国総督「ジローラモ・バットリア」(~16690131)
1668年6月 00:00|ガーナ/デンマーク| ||<就任>デンマーク領ゴールド・コースト総督「バルトロメウス・フォン・グロントタイン」(16700120まで代行~16740123)
1668年6月 05:00|ハイチ/フランス| ||<就任>フランスのサント島総督代行「ブアンセ卿ジャック・セグー・ド・ブアンセ」(1回目~1669年6月)
1668年6月9日-09:00|日本|栃木県足利市|寛文8年4月30日|足利学校再建される
1668年6月12日-09:00|日本|京都府舞鶴市|寛文8年5月3日|<移封>河内・摂津国内27000石「牧野親成」⇒丹後田辺藩35000石(⇒延宝元(1673)年9月29日、隠居)
1668年6月12日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|寛文8年5月3日|<移封>丹後田辺藩33000石「京極高盛」⇒但馬豊岡藩33000石(⇒延宝2(1674)年3月18日、隠居)
1668年6月15日-01:00|スペイン/グアム| ||グアム島にスペインの宣教師団が上陸/以後カトリックの教えは周辺の村々や近隣の島々へ広がるがチャモロ人の価値観や習慣の違いから反発、スペインとチャモロ人との間でスペイン・チャモロ戦争が勃発
1668年6月15日 03:00|ブラジル| ||モルガン、9隻の船と460人の兵をひきい、ノンブレ・デ・イオシにかわるペルー貿易の拠点ホ

1680迄 (2638件)

°ルト・ペ°リヨを二週間にわたり占拠

1668年6月16日-10:00|グ°アム/北マリアナ諸島/ス°イン| |||<就任>マリアナ諸島軍司令官「Juan de Santa Cruz」(~16720502)

1668年6月16日-10:00|グ°アム/北マリアナ諸島/ス°イン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Padre Diego Luis de San Vitores」(~16720402死去)

1668年6月16日-10:00|グ°アム/北マリアナ諸島/ス°イン| |||<設立>ス°インのイラステ°ラマリアナ植民地 (1817年までニュー°スペインに
従属)

1668年6月18日-02:00|南アフリカ/オランダ°| |||<就任>オランダ°領ケ°フ°植民地司令官 (オランダ°東インド°会社)「ヤコフ°ファン°ホル°ル°
ホルスト」(~16700325)

1668年6月25日-09:00|日本|京都府京都市|寛文8年5月16日|<就任>京都所司代「板倉重矩」(⇒1670(寛文10年11月
3日))

1668年6月25日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文8年5月16日|<解任>老中「板倉重矩」

1668年7月21日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|寛文8年6月13日|<分与立藩>安房勝山藩1万石「酒井忠国」(⇒天
和2(1682)年11月、5000石加増され15000石)

1668年7月21日-09:00|日本|福井県小浜市|寛文8年6月13日|<分与>若狭小浜藩123500石「酒井忠直」甥「忠国」に安
房勝山藩1万石を分与立藩し11万3500石(⇒天和2(1682)年7月10日、死去)

1668年7月25日-08:00|中国| |||山東、鈔城地震/M8.5、死者4万7,615人

1668年7月27日-09:00|日本|岡山県岡山市|寛文8年6月19日|備前矢田部に於て不受日閑等僧俗6人逮捕岡山に於
て処刑

1668年7月27日-09:00|日本|埼玉県東松山市|寛文8年6月19日|<死去>武蔵国野本藩13500石「渡辺吉綱」⇒三男「渡
辺方綱」が継ぐ(⇒延宝8(1680)年6月19日、死去)

1668年8月1日-09:00|日本|福岡県久留米市|寛文8年6月24日|<死去>筑後久留米藩21万石「有馬頼利」⇒8月21日、
弟「有馬頼元」が継ぐ(⇒弟「豊祐」に松崎藩1万石分封し20万石⇒元禄10(1697)年7月20日、旧松崎藩1万石返還さ
れ21万石)

1668年8月3日-09:00|日本|長野県松本市|寛文8年6月26日|<死去>信濃松本藩7万石「水野忠職」56歳⇒次男「水野
忠直」が継ぐ(⇒正徳3年5月28日(17130620)死去)

1668年8月5日-01:00|フランス| |||<即位>アンヅ°ユー°公「フィリップ°・シャル1世」フランス国王ルイ14世とマリー°テレーズ°・ド°トリッシュの次男
(~16710710死去2歳)

1668年8月17日-02:00|トルコ| |||トルコ北部で地震(M8.0)死者8000人

1668年8月20日-09:00|日本|京都府京都市|寛文8年7月13日|幕府が京都町奉行を創設し、京都の直接支配の体制
を整える

1668年8月21日-09:00|日本|長崎県長崎市|寛文8年7月14日|<死去>逸然/66歳(誕生:16010828)/長崎に渡来した
中国人僧/明宋南画を日本に伝えたので「唐絵」の開祖と称された

1668年9月-01:00|オランダ°/ベルギー°/ス°イン| |||<就任>ス°イン領ネ°デルラント°・ベルギー°総督「フェリア公爵ニコ°・メルコール°フェルナン
°ス°デ°ウ°アルス°イ°グ°スマン」(~1670年7月)

1668年9月 00:00|イ°リス| |||<死去>4代マ°伯「シ°ジョン°ア°スキ」

1668年9月 00:00|イ°リス| |||<就任>5代マ°伯「チャールズ°・ア°スキ」(~16890423死去)

1668年9月 00:00|イ°リス/インド°| |||ボ°ン°ペ°イ島がイ°リス東インド°会社に払い下げられる

1668年9月6日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|寛文8年7月30日|<死去>美濃国加納藩7万石「松平(戸田)光重」⇒9月29
日、長男「松平光永」が継ぐ(弟「戸田光正」「戸田光直」に5000石ずつを分知し6万石⇒宝永2年2月29日(17050324)
、死去)

1668年9月7日-09:00|日本|千葉県いすみ市|寛文8年8月|<交替>上総刈谷藩1万石「堀直景」隠居⇒嫡男「堀直良」が
嗣ぐ(⇒12月上総八幡藩1万石へ陣屋移転)

1668年9月9日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|寛文8年8月3日|<移封>出羽山形藩15万石「松平忠弘」⇒下野宇都宮藩
15万石(⇒天和元(1681)年7月27日、陸奥白河藩に国替)

1668年9月9日-09:00|日本|山形県山形市|寛文8年8月3日|<減移封>下野宇都宮藩11万石「奥平昌能」殉死法度違反
⇒出羽山形藩9万石(⇒寛文12年7月2日(16720824)死去)

1668年9月16日-02:00|リトニア°| |||<即位>リトニア°大公「クリストパ°ス°ザ°グ°イ°シャ大元帥」(~16690929)

1668年9月16日-01:00|ポーランド°/リトニア°| |||<退位>ポーランド°王・リトニア°大公「ヤン2世ガ°ミ°エ°シュ°サン°ジ°エルマン°デ°プレの修
道院長となる

1668年9月17日-01:00|スウェーデン°| |||世界最古の国立銀行「スウェーデン°国立銀行」設立

1668年9月24日-09:00|日本|埼玉県深谷市|寛文8年8月18日|<加増>武蔵岡部17250石「安部信之」+3000石⇒20250
石(⇒延宝6(1678)年4月2日、隠居)

1668年9月27日-09:00|日本|福岡県小郡市|寛文8年8月21日|<立藩>筑後松崎藩1万石「有馬豊祐」久留米藩第4代藩
主頼元から分封(⇒貞享元(1684)年7月晦日、改易)

1668年9月28日-08:00|フィリピン°/ス°イン| |||<就任>ス°イン領フィリピン°諸島総督「Juan Manuel de la Pena Bonifaz」(~
16690924死去)

1668年9月30日-09:00|日本|青森県八戸市|寛文8年8月24日|<死去>陸奥八戸藩2万石「南部直房」⇒長男「南部直政
」が継ぐ(⇒元禄12年3月16日(16990415)死去)

1668年10月1日-01:00|サンマリノ°| |||<就任>サンマリノ°共和国執政「フランチェスコ°マッジョーニ」「フランチェスコ°ロリ」

1668年10月9日-09:00|日本|大阪府堺市|寛文8年9月4日|<死去>和泉陶器藩1万石「小出有棟」⇒11月3日、長男「小
出有重」が継ぐ(⇒元禄6(1693)年5月23日、病死)

1680迄 (2638件)

1668年10月13日 00:00|イギリス| |||<死去>ノサンパランド伯「アルジャーノン・パーシー」
1668年10月13日 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンパランド伯「ジョスリン・パーシー」先代の子(〜16700531死去廃絶)
1668年11月-02:00|エジプト/トルコ| |||<死去>オスマン帝国領エジプト総督「シシュマン・イブラヒム・パシャ」
1668年11月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「カラシュ・アリ・パシャ」(〜1669年)
1668年11月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Christopher Codrington」(1期目〜1669. 12)
1668年11月6日-05:30|インド/ポルトガル| |||<死去>ポルトガル領インド総督「サン・ビセンテ伯ジョアン・ヌネス・ダ・カストロ」
1668年11月6日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「統治委員会(アント・オ・ニョ・デ・メロ・エ・カストロ/ルイス・デ・ミランダ・エンリケス(〜1669年3月)/マノエル・コルテ・レアル・デ・サン・イオ)」(〜16710522)
1668年11月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=アイゼナハ侯「Adolf Wilhelm」
1668年11月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ザクセン=アイゼナハ侯「William Augustus」(〜16710223死去)
1668年11月21日-09:00|日本| ||寛文8年10月17日|幕府が寺院の新築を禁じる
1668年11月23日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文8年10月19日|<死去>松平定行、前伊予松山藩藩主(生年1584年)
1668年11月23日-09:00|日本|大阪府岸和田市|寛文8年10月19日|<死去>岡部宣勝、前和泉岸和田藩藩主(生年1597年)
1668年11月26日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文8年10月22日|松山藩領藤原町より出火108軒焼失
1668年11月29日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan de Medrano y Mesia」(〜1671年)
1668年12月3日 00:00|イギリス| |||<就任>ソールズベリー伯「ジェームズ・セル」先代の孫(〜1683. 6)
1668年12月8日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ゲオルグ・ドゥカ」(2回目〜16720810)
1668年12月12日 00:00|カナダ/フランス| |||<就任>フランス領ニューフランス総督「ダーク・ウィル」(2回目〜16750612)
1668年12月16日-01:00|フランス/イタリア| |||フランスの義勇軍カンデアより出撃を試みるが、失敗
1668年12月20日-09:00|日本|沖縄県|寛文8年11月17日|<死去>琉球国王「尚質」
1668年12月22日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文8年11月19日|<就任>大老「井伊直澄」(〜延宝4年1月3日)
1668年12月23日-09:00|日本|静岡県富士宮市|寛文8年11月20日|重須本性坊焼失
1668年12月31日-09:00|日本|山形県鶴岡市|寛文8年11月28日|<死去改易>出羽大山藩1万石「酒井忠解」無嗣断絶
1669年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Jacob Cops」(〜1672年)
1669年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「アブラム・Verspreet」(〜1672年)
1669年-08:00|インドネシア| |||<即位>テリ・スラン「Tuanku Panglima Perunggit」(〜1698年)
1669年-05:45|ネパール| |||<即位>マラ(Kantipur)国王「Chakravartendra Malla」(〜同年)
1669年-05:30|インド| |||<就任>イタリヤ国ラジャ「カラン・シン」(〜1679年)
1669年-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランバル)司令官「ヘンリック・エッガー・ス」(〜1673年)
1669年-05:30|インド| |||インド、マタラ近辺でジャットの反乱勃発
1669年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ゲオルク・フレデリック・レーテ」(2回目〜1672年)
1669年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「バゲラト5世」(〜1678年)
1669年-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「シェイク・アリ・カーン・ザンジャネ」(1回目〜1671年)
1669年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダード・ワリス「カラ・ムスタファ・パシャ」(〜1672年)
1669年-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「アフマド・ビン・ザイド」共同統治(1度目〜1672年)
1669年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Silahdar Huseyin Pasha」(〜1670年)
1669年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ハイク・ルトウル・カラ・イブラヒム・パシャ」(〜1673年)
1669年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ibrahim Pasha Shaytan」(〜1671年)
1669年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<死去>ソコト王国国王「アフマツ2世」
1669年-01:00|フランス| |||<就任>ヴェルマント伯「ルイ・ド・ブルボン」(〜16831118死去)
1669年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリダ総督「Francisco Osorio de Astorga」(〜1672年)
1669年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン=ホンブルク方伯「ゲオルク・クリスティアン」(〜1671年退位、1671年から1673年までは2人の商人の、1673年から1679年までは本家のヘッセン=ダルムシュタットの抵当権下におかれた)
1669年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ムフティス・メフメド・パシャ」(〜1670年)
1669年-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「評議会:ジョアン・マルケス・デ・アルメイダ/アントニオ・デ・エストラーダ/ジョアン・デ・グエグエア/トマス・フィゲイラ・ブルタン/エンリケ・デ・メンドンサ/ジョアン・フェレイラ・ダ・マイア」(〜8. 26)
1669年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||<即位>ソコト王国国王「アフマツ3世」(〜1673年中頃)
1669年-01:00|ドイツ| |||<退任>ヘッセン=ホンブルク方伯「ゲイルヘルム・クリストフ」
1669年-01:00|イタリア/トルコ| |||ヴェネツィア共和国オスマン帝国にクレタ島を奪われる
1669年-01:00|ドイツ| |||ハンザ同盟が解消する
1669年-01:00|フランス/インド| |||フランスがインドのマスリパタムに商館を開設
1669年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Richard Coney大佐」(〜1772年)
1669年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Paulo Ferreira de Noronha」(〜1671年)
1669年 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ミルトン伯ジョン・ミルトン」(1回目〜1670年)
1669年 00:00|セカール| |||<就任>フクトーロ統治者(デナケ・サティギ)「タハ・カリ卿」(〜1702年頃没)
1669年 04:00|アンティグア・バブーア/イギリス| |||<就任>アンティグア総督代行「ウィリアム・バイルム」(〜1670年没)
1669年 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセラト副総督「William Stapleton」(〜1672年)
1669年 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ知事「Charles Francois du Lyon」(〜1677年死去)
1669年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院暫定総督・長官「デ・イゴ・デ・イバラ」⇒総督・長官「ファン・ペレス・デ・ケスマン・イ・ゴンサガ」(2回目〜1671年)

1680迄 (2638件)

1669年 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「アントニオ・テルミニョ・イ・ダ・ビラ」(~1675年)
1669年 06:00|アメリカ| |||最初の日曜学校、プリマスで始まる
1669年 06:00|アメリカ| |||ガスパル・デ・ポルトーらカリフォルニアを探検、サンフランシスコ湾を発見、サンディエゴを建設
1669年1月-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<死去>コンゴ 王国マニコンゴ「アルバ・ロ8世ムンバ・ア・ムハ
ンツ」
1669年1月-01:00|アンゴラ/コンゴ 民主共和国/コンゴ 共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコンゴ「ペドロ3世ンンバ・ンタンバ」
(1回目~6月)
1669年1月-01:00|アンゴラ/コンゴ 民主共和国/コンゴ 共和国/ガボン| |||<即位>レンバ・ムブラ王国国王「ビョートル3世」(2回目
~1680年)
1669年1月3日-09:00|日本|千葉県いすみ市|寛文8年12月|<陣屋移転>上総刈谷藩1万石「堀直良」⇒上総八幡藩1万
石(⇒元禄4年2月15日(16910314)死去)
1669年1月28日-09:00|日本|奈良県奈良市|寛文8年12月26日|<再立藩>大和柳生藩1万石「柳生宗冬」が継ぐ(⇒延
宝3年9月29日(16751116)、死去)
1669年2月 00:00|イギリス| |||ニュートンが反射望遠鏡を発明
1669年2月1日-09:00|日本| ||寛文9年|<完成>山鹿素行「中朝事実」
1669年2月1日-09:00|日本|沖縄県|寛文9年|<即位>琉球国王「尚貞」(⇒1709年死去)
1669年2月1日-08:00|中国| ||清・康熙8年|<就任>チベット摂政「ダワン・トクトッ」(~1675年)
1669年2月1日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Jean-Charles de Baas-Castelmore」(~1677年
死去)
1669年2月4日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙8年1月4日|朝鮮李朝が宗時烈の建議で同姓結婚を禁止
1669年2月16日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 司令官「フィリップ・ユリウス・リヒテンバーグ」
(~1671. 1)
1669年2月17日 04:00|トリニダード・トバゴ/オランダ/ラトビア| |||ケールラント(現ラトヴィア)人がトバゴ 島に上陸(~20日、オランダ
に捕獲される)
1669年2月23日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代モントローズ 侯「ジョージ・グラーハム」
1669年2月23日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代モントローズ 侯「ジョージ・グラーハム」(~1684年)
1669年3月 04:30|ベネチア| |||モルガン、マカイクとヒブラルタルを襲撃
1669年3月8日-01:00|イタリア| |||エト火山が大噴火/カーニア他14の都市を溶岩が飲み込み、1万人が死亡
1669年3月10日 00:00|イギリス| |||<死去>ジョン・デナム、イングランドの詩人(生年1615年)
1669年3月11日 06:00|アメリカ| |||カライク領主がジョン・ロック作成の基本法を制定
1669年3月13日-09:00|日本|広島県広島市|寛文9年2月12日|<広島大黒町出火>大工町、比治山町、茅野町に延焼。
民家136軒焼失
1669年3月19日-09:00|日本| ||寛文9年2月18日|幕府が江戸升を廃止し、全国的に京升到統一
1669年3月25日-09:00|日本|京都府宮津市|寛文9年2月24日|<移封>山城淀藩73600石「永井尚征」⇒丹後宮津藩730
00石(⇒延宝元(1673)年11月11日、死去)
1669年3月26日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|寛文9年2月25日|<加増移封>伊勢亀山藩5万石「石川憲之」⇒山
城淀藩6万石(⇒宝永3(1706)年2月25日、隠居)
1669年3月26日-09:00|日本|長野県上田市|寛文9年2月25日|<交替>信濃上田藩6万石「仙石政俊」隠居⇒養子「仙石
政明」が継ぐ(弟「政勝」に小県郡2000石分知し58000石⇒宝永3(1706)年1月28日、但馬出石藩58000石に転封
1669年3月26日-09:00|日本|三重県亀山市|寛文9年2月25日|<加増移封>下総関宿藩45000石「板倉重常」⇒伊勢亀
山藩5万石(⇒貞享5(1688)年2月16日、隠居)
1669年4月-05:30|インド| |||ムガル朝アウラングゼーブが異教寺院・学校倒壊令を発令
1669年4月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「オットア・イ・ジャンニニ」「フランチェスコ・アンジェリ」
1669年4月9日-02:00|ルマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「アントニー・デ・イン・ホー・プ・スティ」(~16720113)
1669年4月10日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マティラ総督「Aires de Saldanha Sousa e Meneses」(~16721020)
1669年4月17日-01:00|オーストリア/イタリア| |||<死去>アントニオ・ベルターリ、オーストリアで活躍したイタリア人作曲家、ヴァイオリニスト(生年
1605年)
1669年4月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝アルテンブルク公・ザクセン＝コーブルク公「フリードリヒ・グイヘルム2世」
1669年4月22日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝アルテンブルク公・ザクセン＝コーブルク公「フリードリヒ・グイヘルム3世」(~16720414死
去、ザクセン＝アルテンブルクはザクセン＝コーター＝アルテンブルク公に地位継承~1825年)
1669年5月12日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ダント・ナルト 伯「ウィリアム・コラン」(~1685. 11死去)
1669年5月13日-01:00|イタリア/トルコ| |||ベネチア、カンデリアの城壁突破される
1669年5月14日-09:00|日本|福井県|寛文9年4月15日|<福井寛文9年の大火>朝五つ時(午前8時ごろ)過ぎ、城下東
南の勝見村永雲寺門前にある荒川端の小屋から出火、荒川を越えて足羽川北側の城下町一帯に拡がり、城内に
も延焼し天守閣も含め城郭内のほとんどを焼失/夜四つ(午後10時ごろ)ようやく北部の松本町大屋小路まで延
焼したのち鎮火/城内の本丸御殿を始め、天守閣、櫓、門などほとんどの建物が焼失/芦田図書、本多左近屋敷ほ
か士大夫宅305軒、与力宅102軒、侍屋敷375軒、足軽屋敷100軒/町家は59か町2676軒、寺37か所が焼失
1669年5月15日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス領バミューダ 総督「ジョン・ヘイドン卿」(~16810530)
1669年5月16日-01:00|イタリア| |||<死去>ピエトロ・ダ・コルトナ、イタリアの画家(生年1596年)
1669年5月20日-09:00|日本|北海道|寛文9年4月21日|アイヌ民族集団マシクルによってアイに拠点を持つオビシは殺害さ
れる
1669年5月26日-09:00|日本|福島県会津若松市|寛文9年4月27日|<交替>陸奥会津藩23万石「保科正之」隠居)⇒嫡

1680迄 (2638件)

男「保科正経」が継ぐ(⇒延宝9(1681)年2月19日、隠居)
1669年5月30日-08:00|中国| ||清・康熙8年5月|清の康熙帝が専権をふるう輔政大臣の林・イー派をハージ、実権を掌握
1669年5月30日-09:00|日本| ||寛文9年5月1日|幕府が、17歳以下の養子は不許可とする
1669年6月-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコ「アルヴァロ9世ムンズ・ア・ニティベラ」(~1670年12月没)
1669年6月 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント島総督「ラ・ブエル卿ペルトラン・ド・ニトジェロン」(2回目~1673年2月)
1669年6月7日-09:00|日本|奈良県奈良市|寛文9年5月9日|東大寺二月堂再建
1669年6月17日-05:30|インド| |||<即位>コワ・スルタン「Sultan Amir Hamzah」(~1674年)
1669年6月18日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「フランチェスコ・ガルバリノ」(~16710618)
1669年6月19日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド 国王「ミコラス1世(ミハウ・コジト・ウ・イシニョウ イェツキ)」有能な軍事指導者ヤレマ・ウ・イシニョウ イェツキの息子(~16731110死去33歳)
1669年6月20日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|寛文9年5月22日|<死去>備中庭瀬藩22500石「戸川正安」⇒次男「戸川安宣」が継ぐ(弟「安成」に1500石を分与し21000石⇒延宝2(1674)年12月27日、27歳で死去)
1669年6月28日-09:00|日本|茨城県笠間市|寛文9年6月|<交替>常陸笠間藩5万石「井上正利」隠居⇒長男「井上正任」が嗣ぐ(⇒元禄5(1692)年11月12日、美濃郡上藩5万石へ移封)
1669年7月1日-09:00|日本|北海道|寛文9年6月4日|<ジャクシャンの戦い>アイヌ民族集団シブ・チャリの首長シャクシャインらの呼びかけによりイナリ(石狩地方)を除く東は釧路のシラカ(現白糠町)から西は天塩のマサ(現増毛町)周辺において一斉蜂起が行われた/決起した2千の軍勢は鷹待や砂金掘り、交易商船を襲撃/東蝦夷地では213人、西蝦夷地では143人の和人が殺された
1669年7月5日-09:00|日本|京都府福知山市|寛文9年6月8日|<加増移封>常陸土浦藩3万石「朽木植昌」⇒丹波福知山藩32000石(⇒宝永5(1708)年6月25日、隠居)
1669年7月5日-09:00|日本|長崎県島原市|寛文9年6月8日|<加増移封>丹波福知山45000石「松平忠房」⇒肥前島原藩65900石(⇒元禄11(1698)年4月18日、隠居)
1669年7月12日-09:00|日本|高知県高知市|寛文9年6月15日|<交替>土佐高知藩20万2600石「山内忠豊」隠居⇒長男の「山内豊昌」が継ぐ(~元禄13年9月14日(17001025)死去)
1669年7月14日-09:00|日本| ||寛文9年6月17日|<寛文9年出雲、近江、加賀、能登、越中大風雨、洪水>(~23日)出雲では、大風雨で、えん堤945か所、長さにして2万3500余間(約43km)が破壊され、田畑3万6500石余に浸水/近江では、大雨のため、大溝藩領2万石の内1万2000石が水損/北陸では加賀藩領の加賀、能登、越中及び幕府天領の佐渡の4か国が、大雨による洪水で被害を受け、特に加賀藩領内では、487か村の田畑5万8680石に浸水、家屋流失98軒、10人死亡/佐渡では、大雨による出水で、金・銀山の間歩(坑道)に川の水が増水して流れ込み、家々も押し流されたので、鉱山の作業が続けられなくなった/相川町では町家が損壊し、田畑も流失するという被害
1669年7月16日 00:00|イギリス| |||<死去>パークシャー伯「トマス・ハワード」
1669年7月16日 00:00|イギリス| |||<就任>パークシャー伯「チャールズ・ハワード」(~1679.4死去)
1669年7月22日-09:00|日本|茨城県土浦市|寛文9年6月25日|<加増移封>常陸土浦藩35000石「土屋数直」⇒常陸土浦藩45000石(⇒延宝7年4月2日(16790511)死去)
1669年7月22日-09:00|日本|千葉県野田市|寛文9年6月25日|<加増移封>相模・武蔵・上総4万石「久世広之」⇒下総関宿藩5万石(⇒延宝7年6月25日(16790801)、死去)
1669年7月24日-01:00|イタリア/トルコ| |||ベネチアで包囲からトルコ軍を逸らせる艦隊の企て失敗
1669年7月25日-09:00|日本|兵庫県三田市|寛文9年6月28日|<死去>摂津三田藩36000石「九鬼隆昌」23歳⇒9月6日、養子「九鬼隆律」が継ぐ(⇒貞享3(1686)年6月6日、30歳で死去)
1669年8月4日-09:00|日本|長野県須坂市|寛文9年7月8日|<死去>信濃須坂藩10053石「堀直輝」⇒長男「堀直佑」が継ぐ(⇒享保4(1719)年、隠居)
1669年8月6日-01:00|フランス| |||<死去>エタン・公「Louis, duc de Vendome」
1669年8月6日-01:00|フランス| |||<即位>エタン・公「Louis Joseph, duc de Vendome」(~17120611死去)
1669年8月8日-09:00|日本| ||寛文9年7月12日|西より東へ飛物あり(隕石/UF0?)
1669年8月24日-09:00|日本|北海道山越郡長万部町|寛文9年7月28日|ジャクシャンの軍と幕府軍が国縫で激突
1669年8月25日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アルヴァ伯爵フランシスコ・デ・タヴァラ」(~1676年)
1669年8月26日-08:00|中国| ||清・康熙8年8月|清がフェルペーストラを除きカトリック宣教師による布教を禁止
1669年8月30日-09:00|日本|北海道山越郡長万部町|寛文9年8月4日|1週間の戦いの後、アイヌ軍は松前軍の鉄砲の前に崩れ去り、オヤマンベのチャンに撤退する。さらに松前軍の進出を受け、ジャクシャンはシブ・チャリの砦に撤退し籠城するとともに、各地でゲリラ戦を挑む
1669年8月31日-09:00|日本|高知県|寛文9年8月5日|<死去>山内忠豊、前土佐藩藩主(生年1609年)
1669年9月3日-09:00|日本| ||寛文9年8月8日|<寛文9年北九州暴風雨>(~12日)北九州各地を暴風雨が襲い、洪水や高潮で多くの家が流された/肥前島原藩領では城の本丸、二の丸、三の丸が損壊し、住家923軒が流失/肥後熊本藩領では11人死亡、住家432戸流失、船舶16隻流失/肥前唐津藩領では住家595戸倒潰、1万3000石余の田んぼに浸水/佐賀藩領では住家8517戸が倒潰、12万500石余相当の田んぼが浸水/筑後久留米藩領では住家2606戸倒潰、8万8400石余相当分の田んぼが浸水/豊前中津藩領では防波堤が200間余(0.4km)決壊して、13人死亡、足軽の家6、7軒、町家60軒余が流失
1669年9月5日-01:00|イタリア/トルコ| |||オスマン軍が、ヴェネチアと和してクレタ島を併合
1669年9月6日-01:00|イタリア/トルコ| |||オスマン朝と、ヴェネチア間のクレタ戦争終結

1680迄 (2638件)

1669年9月10日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンリエッタ・マリア・オブ・フランス、イングランド王チャールズ1世王妃(59歳、16091125生)フランス王アンリ4世の末娘

1669年9月17日-09:00|日本|広島県広島市|寛文9年8月22日|広島紙屋町出火。横町、白神一丁目、同二丁目、同三丁目、塩屋町、島屋町等10町へ延焼。町家230軒焼失

1669年9月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ロバート・マクスウェル・ジョン・マクスウェル」(~16700421)

1669年9月24日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<死去>スペイン領フィリピン諸島総督「Juan Manuel de la Pena Bonifaz」

1669年9月24日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「マヌエル・デ・ペーニャ」(~16770921死去)

1669年9月27日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||クレタ島がオスマン帝国に占領される

1669年9月28日-09:00|日本|北海道|寛文9年9月4日|松前泰広が松前藩軍を指揮して東蝦夷地へと進軍/松前泰広が松前藩と関係の深い親松前的なアイヌの集落に対して、幕府権力を背景に恫喝して恭順させアイヌ民族間の分断とシャクシャインの孤立化を進めた

1669年9月29日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ミコラス」(~16731110没)

1669年9月29日-09:00|日本|愛媛県大洲市|寛文9年9月5日|大洲藩主加藤泰興、如法寺を建立し、この日盤珪永琢入寺

1669年10月-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督「オベ・ジュール・ティル・ウレストラップ」(~1674年5月)

1669年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャコモ・ベッルツィ」 「ジャンパオロ・テスタ・トシーニ」

1669年10月4日-01:00|オランダ| |||<死去>レンブラント・ファン・レイン、オランダの画家(63歳、16060715生)

1669年10月9日 04:30|ペルー/スペイン| |||<就任>スペイン領ペルー総督「Fernando de Villegas」(~16730911)

1669年10月14日-01:00|イタリア| |||<死去>アントニオ・チェステリ、イタリアのオペラ作曲家(16230805生)

1669年10月23日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|寛文9年9月29日|<交替>丹波篠山藩5万石「松平康信」隠居⇒長男「松平典信」が継ぐ(⇒寛文12(1672)年11月20日、死去)

1669年10月23日-09:00|日本|三重県津市|寛文9年9月29日|<交替>伊勢津藩32万3千石「藤堂高次」隠居⇒長男「藤堂高久」が継ぐ(弟「高通」に5万石、「高堅」に3千石分与し27万950石⇒元禄16年4月29日(17030613)死去)

1669年10月23日-09:00|日本|三重県津市|寛文9年9月29日|<立藩>伊勢久居藩5万石「藤堂高通」津藩から分与(⇒元禄10(1697)年8月9日、死去)

1669年10月24日-09:00|日本|京都府京都市|寛文9年9月30日|<死去>俳人野々口立圃(71)

1669年11月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ケーテン侯「Lebrecht」

1669年11月11日-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「アレクサンドラス・ヒラシ・パルビンスキ」(~16791103)

1669年11月16日-09:00|日本|北海道|寛文9年10月23日|松前軍は謀略をめぐらしシャクシャインに和睦を申し出、シャクシャインは和睦に応じヒボクの松前藩陣営に出向くが和睦の酒宴で謀殺された/この他アツマやサレに和睦のために訪れた首長も同様に謀殺あるいは捕縛された

1669年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||年末|<死去>キバング王国国王「セバステアン1世」

1669年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||年末|<即位>キバング王国国王「ガルス3世」(~1685年没)

1669年12月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「William Willoughby」(2期目~1670年)

1669年12月9日-01:00|パチカン| |||<死去>第238代ローマ教皇「クレメンス9世」[16000127生~](享年69)

1669年12月11日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンソップ・ルック伯・モンゴメリー伯「フィリップ・ハーバート」

1669年12月11日 00:00|イギリス| |||<就任>ペンソップ・ルック伯・モンゴメリー伯「ウィリアム・ハーバート」(~16740708死去)

1669年12月20日 00:00|イギリス/アメリカ| |||モカント、サン・カタリナ島を奪回

1669年12月24日 05:00|パナマ| |||ブラットレー船長の率いる400名の海賊がチャグレス河口のサロレンソ要塞の攻略に成功

1669年12月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>グザルツツグアイブ・リュッケン＝ビルケンフェルト公「ゲオルク・ヴィルヘルム」

1669年12月25日-01:00|ドイツ| |||<即位>グザルツツグアイブ・リュッケン＝ビルケンフェルト公「カール2世オットー」(~16710330死去)

1670年-08:00|モンゴル| |||ジュンガル部のガルダンが甥を殺してハーン位につく

1670年-05:45|ネパール| |||<即位>マラ(Kantipur)国王「Mahipatendra Malla」(~同年)

1670年-05:30|インド| |||<建国>ケヤルガル国(パンスワの下)

1670年-05:30|インド| |||<建国>ムドナ国

1670年-05:30|インド| |||<死去>シッキム王「フンツォ・ナムギヤル1世」

1670年-05:30|インド| |||<就任>バガール国統治者(ラ)「フリスグ・イ・チャント」(~1727年没)

1670年-05:30|インド| |||<即位>シッキム王「テンソン・ナムギヤル」(~1700年、死去)首都をヨクサムからラブテンツェに遷した

1670年-05:00|パキスタン| |||<即位>バルティスタン国王「シェール・カーン」(1回目)

1670年-03:00|イエメン| |||<即位>カシーリ国サルタン「Dscha'far ibn 'Abdallah al-Kathir」(~1690年)

1670年-03:00|イラク| |||<即位>ハバソ首長「Sulaiman Baba」(~1703年)

1670年-03:00|マダガスカル| |||<即位>メリナ王国君主「King Andrianjaka Razakatsitakatrandrianana」(~1675年)

1670年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・デ・クアム、モノモバ総司令官「ジョアン・デ・ソウザ・フレイル」(1回目~1673年)

1670年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナリス(総督)「アブドゥラー・パシャ」(~1675年)

1670年-01:00|ベナン| |||<就任>サグィ・フェタ国統治者「アヨファン」(~1703年)

1670年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Francisco Suarez de Alarcon」(~1677年)

1670年-01:00|オランダ/ベルギー/スペイン| |||<就任>スペイン領ネーデルラント・ベルギー総督「モンテレー伯爵ファン・ト・ミンゴ・デ・ズーニカ・イ・フォンセカ」(~1675年2月)

1670年-01:00|オランダ| |||オランダの哲学者スピノザが「神学政治論」を出版

1680迄 (2638件)

1670年-01:00|オランダ/スリランカ| |||キャンディ王国のラジャシハ2世が、オランダの支配地域を攻撃
1670年-01:00|フランス| |||パリで、ハンスカの遺稿『ハンス』が出版される
1670年-01:00|フランス/マルティニーク| |||フランス、マルティニークを占領
1670年 00:00|イギリス| |||<就任>3代アバコン伯「ジョージ・ハミルトン」先代の息子(〜1680年)
1670年 00:00|イギリス| |||<就任>3代クリスティーナ伯「ジョン・マレー」2代アール伯(⇒1676年初代アール侯〜17030506死去)
1670年 00:00|イギリス| |||<就任>初代クリーヴランド女公「ヘンリー・ハーパー」(〜17091009死去)
1670年 00:00|トゴ| |||<就任>アヘン統治者「アフリカ」(〜1718年)
1670年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「リチャード・スロー」(〜1671.3)
1670年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官代行「アンソニオ・ゴメス」
1670年 00:00|セカル| |||<就任>シヨロ帝国統治者「フェルナンド・シヨロ」(〜1711年頃)
1670年 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官代行「ヒュー・チョルメリー卿」(〜1672年)
1670年 00:00|トゴ| |||<就任>テヘン統治者「コリ」(〜1720年頃)
1670年 03:00|仏領ギニア/フランス| |||<就任>ギニア知事「Cyprien Lefebvre」(2期目〜16760505)
1670年 03:00|サンピエール島/フランス/ミクロン島| |||イレブン・サウス諸島がフランスに併合(1713年までフランスに従属)
1670年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Christopher Codrington」(2期目〜16720702)
1670年 04:00|トミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サントミンゴ総裁・総司令官「ペドロ・デ・コバス・イ・カバール」(〜1671年)
1670年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>ホーネール司令官「Hans Fredericksz. Crab」(〜1679年)
1670年 04:00|アンギラ/イギリス| |||アンギラはリーワード諸島植民地の一部(〜1816年)
1670年 04:00|ガイアナ/オランダ| |||ホメルンをエセキに統合(〜1686年)
1670年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル、サンミゲル州市長兼副司令官「マルティン・デ・レヴァー」(〜1673年)
1670年 06:00|ニカラガア| |||海賊がヤルティエヨ、ケラタを襲撃
1670年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Kiayia Pasha」(〜1672年)
1670年1月3日 00:00|イギリス| |||<死去>イングランド王国国庫財務実行主席弁務官「初代アルマール公ジョージ・モンク」
1670年1月3日 00:00|イギリス| |||<就任>第2代アルマール公「クリスティアン・マンク」初代公の一人息子(〜16881006死去)
1670年1月3日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国国庫財務実行主席弁務官代理「アシュリー男爵」(⇒16720423, シャフツベリー伯)アンソニー・アシュリー・クーパー(〜16721202)Whg
1670年1月21日-08:00|中国| |||清・康熙9年<即位>ヤルカント・ハン「イスマーイル」アフトゥラーの兄弟(〜1680年)
1670年1月21日-08:00|中国| |||清・康熙9年<即位>カムルはトルバン・オライドの家臣(〜1698年)
1670年1月31日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|寛文9年12月10日<分与>出羽本荘藩20400石「六郷政勝」弟「政秀」の子「政慶」に400石を分与し2万石(⇒延宝4(1676)年6月晦日、隠居)
1670年2月-01:00|オーストリア| |||レオポルト1世がウィーンのユダヤ教徒追放令を発布
1670年2月13日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|寛文9年12月23日<死去>播磨林田藩1万石「建部政明」32歳⇒翌年2月27日、養子「建部政宇」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年1月26日、69歳で死去)
1670年2月14日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督代行「デ・イエゴ・ゴンサレス・モンテロ・フスティアーノ」(2回目〜10月)
1670年2月19日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<死去>ルウェー・デンマーク王・シュレーズヴィヒ公「フレデリク3世」兼オルデンブルク伯「フレデリク1世」60歳(誕生16090318)
1670年2月19日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<即位>ルウェー・デンマーク王・シュレーズヴィヒ公「クリスティアン5世」兼オルデンブルク伯「クリスティアン8世」フレデリク3世とゾフィー・アマリエ・フォン・ブラウンシュヴァイク＝カレンブルクの長男(〜16990825死去53歳)
1670年2月20日-09:00|日本|大阪府枚方市|寛文10年<加増>河内渚藩2万石「永井尚庸」⇒3万石(⇒延宝5年3月27日(16770428)、死去)
1670年2月20日-09:00|日本|栃木県足利市|寛文10年<加増>下野足利藩2万石「土井利房」+5千石⇒25000石(⇒延宝7(1679)年7月10日、15000石加増され4万石)
1670年3月3日-09:00|日本| |||寛文10年1月12日|幕府が、代官所費用、煙草禁制、家屋新築などに関する法度を定める
1670年3月10日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>ヨハン・ルトルフ・グラーバー、ドイツ・オランダの薬剤師、化学者(生年1604年)硫酸ナトリウムを発見
1670年3月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・セイル」(〜16710304)
1670年3月16日-09:00|日本|香川県高松市|寛文10年1月25日|香東郡百相村での伽藍造営が完成、仏生山来迎院法然寺と号する
1670年3月19日-09:00|日本|新潟県新潟市|寛文10年1月28日<死去>越後沢海藩1万石「溝口政勝」63歳で死去⇒長男「溝口政良」が継ぐ(⇒天和3(1683)年6月1日、死去)
1670年3月19日-09:00|日本|兵庫県たつの市|寛文10年1月28日<死去改易>播磨新宮藩1万石「池田邦照」13歳、無嗣/弟に3000石安堵
1670年3月25日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地総督(オランダ東インド会社)「ピーター・ハッキス」(〜1672)
1670年3月30日-09:00|日本|大阪府枚方市|寛文10年2月10日<死去>河内丹南藩1万石「高木正盛」36歳⇒長男「高木正豊」が継ぐ(⇒延宝9(1681)年5月20日、20歳で死去)
1670年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マルクアントニオ・ゴジ」(〜1672)
1670年4月3日-09:00|日本|京都府京都市|寛文10年2月14日<就任>京都所司代「永井尚庸」(⇒1676(延宝4年)04月3

1680迄 (2638件)

日))

1670年4月7日-09:00|日本|愛媛県西条市|寛文10年2月18日|<拝領>伊予西条藩33000石「松平頼純」(紀伊国和歌山城主徳川頼宣の次男⇒正徳元年10月7日(17111116)、死去)

1670年4月9日-09:00|日本|東京都小笠原村|寛文10年2月20日|紀州を出港した阿波国の蜜柑船が母島に漂着し小笠原諸島発見

1670年4月14日-09:00|日本|静岡県裾野市|寛文10年2月25日|芦ノ湖の水を静岡県側に落とす深良用水(箱根用水)が完成(以来水利権は静岡県側が持つ)

1670年4月17日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ダルマチアのバン代行「ザグレブ 司教マルティン・ボルクヴィッチ」、「マイクロシュ・グロヴ・エルデヴィ」(~1673年8月)

1670年4月18日 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島総督「コペンハーゲン」Frederik von Gabel til Rantz ausholm og Bregentved」(~17080621死去)

1670年4月21日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「ストラットンのパークレー男爵ジョン・パークレー」(~16710612)

1670年4月26日-09:00|日本|和歌山県和歌山市|寛文10年3月7日|<死去>柔術家で関口新心流の開祖・関口柔心(生年1598年)

1670年4月29日-01:00|バチカン| |||<就任>第239代ローマ教皇「クレメンス10世」(~16760722)

1670年5月-01:00|イタリヤ/トルコ| |||メフメト4世、和平を批准

1670年5月 05:00|ハイチ/フランス| |||無法の海賊たちがトルトゥーガ島でフランス西インド会社の支配に反乱(~1671年7月)

1670年5月2日 06:00|カタラ| |||カタラで毛皮交易のためバドゥン湾会社が設立

1670年5月6日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「フランスコ・ロドリゲス・デ・レデスマ・イ・ウ・アイラート」(~16800831)

1670年5月11日-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿國務長官「フェデリコ・ボロメオ」(~16730218)

1670年5月14日-09:00|日本|京都府宇治市|寛文10年3月25日|宇治火災。茶戸・農商家124/120余軒焼失。茶園被災

1670年5月21日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ニコロ・スッキ、イタリヤのイエズス会士、天文学者(生年1586年)最初の凹面鏡と接眼レンズからなる反射望遠鏡を製作

1670年5月22日-01:00|フランス/イギリス| |||イギリスとフランスがドゥーアー条約を締結

1670年5月23日-01:00|イタリヤ| |||<死去>トスカナ大公「フェルディナント2世・デ・メディチ」

1670年5月23日-01:00|イタリヤ| |||<即位>トスカナ大公「コジモ3世・デ・メディチ」フェルディナント2世の息子(~17231031死去)

1670年5月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーサンハンプランド 伯「ジョージ・ハース」廃絶

1670年6月2日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ 領ケープ 植民地司令官(オランダ 東インド 会社)「ピーター・ハッキウス」(~16711130)

1670年6月6日-09:00|日本|佐賀県唐津市|寛文10年4月19日|<死去>肥前唐津藩83000石「大久保忠職」⇒6月13日、従弟「大久保忠朝」が継ぐ(⇒延宝6(1678)年1月23日、下総佐倉藩83000石に転封)

1670年6月22日-09:00|日本|新潟県村上市|寛文10年5月5日|越後村上地震/死者13人

1670年6月23日 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ポルトガル知事兼提督「Gaspar de Arteaga y Aunaovidaio」(~16740307死去)

1670年6月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ヘンリエッタ・アン・ステュアート、イングランド 王チャールズ2世の妹(生年1644年)

1670年7月-01:00|スペイン| |||<就任>アンダルシア伯「Joaquim」(~同年死去3歳)⇒「Pere4世」(~16900901死去)

1670年7月1日-09:00|日本|岡山県備前市|寛文10年5月14日|備前岡山藩主「池田光政」が日本最古の庶民の学校として「閑谷学校」(講堂は現在・国宝)を開校

1670年7月18日 00:00|イギリス/ベリーズ/ジャマイカ| |||マドリッド 条約締結。イギリスのジャマイカ領有、ベリーズ 河河口地帯の租借権が認められる

1670年7月21日-09:00|日本|新潟県|寛文10年6月5日|越後で大地震/村上城、民屋600余が倒壊/田200余町が損失

1670年8月-04:00|ロシア| |||ロシアでステンカ・ラジンの農民反乱がおこる

1670年8月13日-09:00|日本| |||寛文10年6月28日|幕府が寛永新銭と古銭を混用することを禁じる

1670年8月16日-09:00|日本| |||寛文10年7月|ウカ対策に「注油駆除法」が開発

1670年8月31日-09:00|日本|東京都|寛文10年7月16日|江戸町奉行、市中での花火禁止令/大からくりの花火(仕掛け花火)やりうせい(竜勢)花火(打ち上げ花火)は市中一帯で禁止。川筋や海手(海岸)か家が離れている屋敷ならば常の花火(手持ちの花火など)であれば認めるが、家の建て込んでいる屋敷では禁止

1670年9月3日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「キメスとガチのアダム・フォルガフ伯爵」(~10. 18)

1670年9月18日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「ジェルジ・シェレプセニ・ボロツィ」(~16810613)

1670年9月19日-09:00|日本|香川県高松市|寛文10年8月6日|高松城天守閣造営成る

1670年9月20日 05:00|エクアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領北総督・総司令官・大審問院長「ディエゴ・デ・ル・コロ・カラスカル」(~16730309没)

1670年9月26日-09:00|日本| |||寛文10年8月13日|幕府が家屋、衣服、食料、飲酒などに関する法度を出す

1670年10月-05:30|インド| |||シヴァージーが二度目のスラト掠奪

1670年10月-04:00|ロシア| |||皇帝アレクセイの政府軍がステンカ・ラジンの反乱軍をシベリヤに包囲/反乱軍が敗退

1670年10月 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督「ジョアン・エンリケス・デ・ビジャロボス」(~1682年4月)

1670年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロドヴィコ・ベルツィ」「イノセント・ボネリ」

1670年10月5日-09:00|日本| |||寛文10年8月22日|<寛文10年近畿暴風雨・高潮災害>(～23日)近畿地方に西南の大風雨が襲い瀬戸内海東部から大坂湾にかけての沿岸に暴風雨と高潮による大災害/播磨国明石では11人死亡、武家屋敷500軒、商家78軒、漁民の家など371軒が倒壊、城の本丸、二の丸、三の丸や櫓なども破損/大坂では木津川河口に高潮が押し寄せ枚方あたりまで氾らんし約200人死亡、家屋流失破損460軒余のほか堤防、橋などが破

1680迄 (2638件)

損し船舶1000艘が破損/播磨, 摂津両国で2143人死亡, 家屋流失949戸, 船舶の損壊7323艘
1670年10月14日-01:00|フランス| |||喜劇作家モリエール、フランス王ルイ14世の招きにより、喜劇「町人貴族」をワール溪谷の「シャポール宮」で初演
1670年10月28日-09:00|日本| ||寛文10年9月15日|醸酒令及び煙草栽培の禁令を下す
1670年10月29日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「グアテマラ司教フアン・デ・サンクト・マテオ・サエンス・デ・マニョスカ・イ・ムリーリョ」(~16720609)
1670年10月30日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのベイルベイ「ウズン・イブラヒム・パシャ」(1回目~1672年2月)
1670年11月3日-01:00|オランダ| |||<死去>サモエ・ファン・ロイスタール、オランダの画家(生年1602年)
1670年11月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト・ケーテン侯「Emmanuel」
1670年11月13日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|寛文10年10月1日|<交替>河内狭山藩11000石「北条氏宗」隠居⇒養子「北条氏治」が継ぐ(⇒元禄8(1696)年5月29日、死去)
1670年11月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン=カッセル方伯「グーイヘルム7世」
1670年11月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン=カッセル方伯「カール・グーイヘルム6世」の下の子(~17300323死去)
1670年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| ||年末|<死去>コンゴ王国マニコンゴ「アルヴァロ9世ムンズ・ア・ニティベラ」
1670年12月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「メフメト・パシャ」(~1671年4月)
1670年12月-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>コンゴ王国マニコンゴ「ラファエル1世ジンガ・ア・ンカンガ」(~1673年中頃没)
1670年12月12日 04:00|ボリビア/スペイン| |||<死去>ラ・フラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ペドロ・バスケス・デ・ベラスコ」
1670年12月12日 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ルイス・ホセ・メロ・デ・ラ・フエンテ」(~1671年)
1670年12月15日 05:00|コロンビア/スペイン/イギリス| |||サンタカタリナ島をイギリス海賊が占領(~1671年1月)
1670年12月15日-09:00|日本|東京都千代田区|寛文10年11月3日|<就任>老中「板倉重矩」(~1673年5月29日)
1670年12月16日-01:00|オランダ| |||<死去>バルトロメウス・ファン・デル・ヘルスト、オランダの肖像画家(生年1613年)
1670年12月20日 06:00|アメリカ| |||モリガン、サンタ・カタリナ島を奪回
1670年12月22日-01:00|アントラ| |||<就任>アントラ公国共同大公「ウルヘル司教ベネディクト・コホンス・イト・テキントール」(~16810316)
1671年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・スルタン国スルタン「スルタン・アブドゥル・ラヒム」(~1676年)
1671年-08:00|インドネシア| |||<即位>スマタラ君主「Yudanegara」(~1684年)
1671年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンダヤナ王國スルタン「Sultan Dundang Tidulay」
1671年-05:30|インド| |||<就任>ナルシンプル国ラジャ「マンダラ・ハリチャンド・モハトラ」(~1701年)
1671年-03:00|エチオピア| |||<就任>ハラール首長国エミール「アブドゥ・アッラー1世イブン・アリ」(~17000210没)
1671年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダッド・ワリス「シラ・ダール・フェイン」(~1674年)
1671年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Abazekh Husein Pasha」(1期目~1672年)
1671年-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「セリム1世ギレイ」(1期目~1678年)
1671年-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「ムハンマド1世トリク」オスマン朝から自立(~1677年)
1671年-01:00|ベナン/イギリス| |||<設立>フランス領ウィタのセント・ルイ砦(~1797年)
1671年-01:00|フランス| |||<即位>ギーズ公「クロード・フランソワ・ジヨゼフ」(~1675年)
1671年-01:00|ドイツ| |||<退任>ヘッセン=ホンブルク方伯「ゲオルク・クリスティアン」1671年から1673年までは2人の商人の、1673年から1679年までは本家のヘッセン=ダルムシュタットの抵当権下におかれた
1671年-01:00|クロアチア/トルコ| |||ボリツァはオスマン帝国の宗主権下(~1684年)
1671年 00:00|イギリス| |||<就任>3代クイーンズベリー伯「ウィリアム・ダグラス」(⇒16820211初代クイーンズベリー侯⇒16841103初代クイーンズベリー公~16950328死去)
1671年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「パチェコ・デ・メロ」⇒「マヌエル・モリス・デ・メントンサ」(~1673年)
1671年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Chamber Senate」(~1673年)
1671年 00:00|イギリス| |||イギリスのクレメントがアンクル脱進機を採用した時計を制作
1671年 00:00|イギリス| |||ジョン・ミルトンが叙事詩『復讐園』と悲劇詩『闘士サムソン』を合本で刊行
1671年 00:00|イギリス| |||ニュートンが「流率法と無限級数」を執筆し、微積分法を開発
1671年 03:00|アルゼンチン/ボリビア/スペイン| |||アルゼンチンはチャルカスのアウグスティニャに從属(~1776年)
1671年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ター/イギリス| |||<就任>アンティグア副総督「フィリップ・ワーナー」(~1675年)
1671年 04:00|グレナダ/フランス| |||<就任>グレナダ総督「レール卿ルイ・ド・カンシー」(~1674年)
1671年 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ総裁・総司令官「イグナシオ・デ・ザヤス・バザン」(~16770715)
1671年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官代行「ホセ・テル・コラル・カルボ・デ・ラ・バンダ」(~1674年)
1671年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「ルイス・ロサ・キネス」アントレス・マルティネス・デ・アミレタ治安判事⇒「フランシスコ・ミゲル・デ・マリチャル・グァレーホ」(1回目)
1671年 05:00|ハイチ| |||サント・マンクの黒人奴隷、最初の反乱
1671年1月 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)司令官代行「ピエ・フェルステル」(~16770322)
1671年1月5日-09:00|日本|三重県伊勢市|寛文10年11月24日|<伊勢山田寛文10年の大火「鉈屋火事」>夜四つ半(23時ごろ)、山田上中郷出屋敷鉈屋世古に住む未亡人の独り住まいから出火、浦の橋から上中郷一帯に燃え広がり

1680迄 (2638件)

、曾禰、一之木、一志久保と東へ延焼、次いで宮後西河原、下馬所前野、岩淵、岡本及び小田橋と山田の市街地を焼き尽くし、翌朝五つ半ごろ(9時ごろ)ようやく鎮火/神社では月夜見宮が炎上/伊勢神宮の御師で山田奉行の下で山田の統治に当たっている三方家、24家の内19家が焼失/49人死亡、山田惣中(自治区域)9768軒の約6割、5743軒が焼失、土蔵1177棟、寺院189寺が焼失

1671年1月13日-09:00|日本|福島県いわき市|寛文10年12月3日|<交替>陸奥磐城平藩7万石「内藤忠興(忠長)」(隠居)⇒長男「内藤義概(義泰)」が継ぐ(弟「遠山政亮」に湯本藩(のちの湯長谷藩)1万石を分与立藩し6万石⇒貞享2(1685)年9月19日、死去)

1671年1月13日-09:00|日本|福島県いわき市|寛文10年12月3日|<立藩>陸奥湯本藩1万石「遠山政亮」陸奥磐城平藩から分与(⇒延宝4(1676)年11月27日、陸奥湯長谷藩1万石に移転)

1671年1月18日 05:00|パナマ| |||4百人の海賊部隊、チャグレス川河口のサンロソ要塞を奪取/双方併せ死者4百人を出す激戦となる

1671年1月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>ホーエンツォレルン=ヘンゲン侯国「Philipp」

1671年1月24日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホーエンツォレルン=ヘンゲン侯国「Friedrich Wilhelm」(~17351114死去)

1671年1月25日 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督「チャールズ・ウィラー卿」(~1672年2月)

1671年1月25日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||イングラント植民地ネイビスはリワード諸島植民地の一部(~1816年)

1671年1月25日 04:00|モントセラト/イギリス| |||モントセラトはリワード諸島植民地の一部(~1816年)

1671年1月28日 05:00|パナマ| |||海賊部隊、パナマ攻撃を開始/5日間にわたる激戦の末パナマ占領

1671年2月 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Juan de Balboa y Mogrovejo」(~1676.3)

1671年2月7日-09:00|日本| ||寛文10年12月28日|幕府が商人の前髪を禁じ、切らせる

1671年2月9日-08:00|中国| ||清・康熙10年|<死去>ジュンガル・ホタジン「セング」

1671年2月9日-08:00|中国| ||清・康熙10年|<即位>(チベット)ゲシ・ハン王「ゴンチュク・ダライ・ハーン」(~1700年死去)

1671年2月9日-08:00|中国| ||清・康熙10年|<即位>ジュンガル・ホタジン「ガルダン」(~16970404、死去)

1671年2月10日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|寛文11年|<加増>尾張名古屋藩56万3206石「徳川光義」⇒61万9500石(⇒寛文12(1672)年11月1日、名を光友と改める)

1671年2月15日-01:00|イタリア| |||ベネチアで新聞「ジオルネ・ラ・ヴェネチア・レターテ」第一号出る

1671年2月18日-09:00|日本|大阪府高槻市|寛文11年1月9日|<死去>摂津高槻藩36000石「永井直清」⇒3月10日、嫡孫「永井直時」が継ぐ(⇒延宝8(1680)年7月18日、死去)

1671年2月19日-09:00|日本|和歌山県|寛文11年1月10日|<死去>徳川頼宣、前紀州徳川家藩主(生年1602年)

1671年2月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=アイゼナハ侯「William Augustus」

1671年2月23日-01:00|ドイツ| |||<就任>ザクセン=アイゼナハ侯「John George1世」(~16860919死去)

1671年2月24日 05:00|パナマ| |||モルガン、3週間にわたりパナマを掠奪

1671年2月24日-09:00|日本|京都府京都市|寛文11年1月15日|<京都寛文11年の大火>京都大火、梨木町、京極通、河原町間の数10軒延焼

1671年2月25日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1671/2/15|イギリスの数学者ジェームズ・グレイが、円周率に関する級数を発見し手紙で報告

1671年3月 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「リチャード・コニー」(~16720821)

1671年3月3日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーリッチ伯「チャールズ・ゴリング」

1671年3月4日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ジョージ・ウェスト」(~16720419)

1671年3月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙10年2月|朝鮮全国で大飢饉となり死者多数

1671年3月11日-09:00|日本|愛知県岡崎市|寛文11年2月|<加増>三河中島藩4万石「板倉重矩」+1万石⇒5万石(⇒寛文12(1672)年閏6月3日、下野烏山5万石へ移封)

1671年3月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツ=ツヴァイブリュッケン=ビルクンフェルト公「カール2世オットー」

1671年3月30日-01:00|ドイツ| |||<即位>プファルツ=ツヴァイブリュッケン=ビルクンフェルト公「クリスティアン2世」(~17170426死去79歳)

1671年4月-01:00|ホスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ホスニア総督「フェイン・パシャ」(~1672年5月)

1671年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「パオロ・アントニオ・オフロ」「ボンペイ・ゾリ」

1671年4月2日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|寛文11年2月23日|醍醐で商家63軒焼失

1671年4月13日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「フェリペ・レジェ・コルバン」(1回目~16750701)

1671年4月14日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|寛文11年3月5日|<交替>播磨赤穂藩53500石「浅野長直」(隠居)⇒長男「浅野長友」が継ぐ(3500石を義兄「長賢」、新田3000石を「長恒」に分与し5万石⇒延宝3(1675)年正月26日、33歳で死去)

1671年4月24日 05:00|パナマ/イギリス| |||<就任>パナマ植民地総督「ヒュー・ウェントワース」(~同年、到着前に死亡)

1671年4月26日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙10年3月18日|朝鮮で遺棄児収養法(捨て子養育法)制定

1671年5月5日 00:00|イギリス| |||<死去>2代マンチェスター伯「エドワード・モンタギュー」

1671年5月5日 00:00|イギリス| |||<就任>3代マンチェスター伯「ロバート・モンタギュー」(~16830314死去)

1671年5月6日-09:00|日本|宮城県仙台市|寛文11年3月27日|仙台藩重臣原田甲斐(53)、大老酒井忠清の屋敷で伊達騒動の裁断中に伊達安芸に斬り付け、安芸は即死、原田は周囲に斬られて死亡

1671年5月8日-01:00|フランス| |||<死去>セバスティアン・ブルトン、フランスの画家(生年1616年)

1671年5月8日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「バルバセ子爵アフォンソ・フルタド・デ・カストロ・ド・リオ・ド・メントンサ」(~16751126没)

1680迄 (2638件)

1671年5月9日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Jacques de La Heur dit La Hure」(~16741122)
1671年5月9日-09:00|日本| ||寛文11年4月|河村瑞賢が東廻り航路をひらく
1671年5月11日-09:00|日本|岩手県一関市|寛文11年4月3日|<改易廃藩>陸奥一関藩3万石「伊達宗勝」伊達騒動に連座、仙台藩に合併
1671年5月16日-09:00|日本|京都府京都市左京区|寛文11年4月8日|吉田で火災、民家100軒焼失
1671年5月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト-ケーテン侯「Emmanuel Lebrecht」(~17040530死去)
1671年5月21日-01:00|ドイツ| |||プロシヤ王がウィーンを追放されたユダヤ人50家族を受け入れ
1671年5月22日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「ラウラジオ伯ルイス・デ・メントンサ・フルタド」(~16771030死去)
1671年5月24日-01:00|フランス| |||フランス喜劇作家モリエールの「スカパンの悪だくみ」が「パレ・ロワイヤル」(1区)で初演
1671年5月25日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「マヌエル・パチェコ・デ・メロ」(~1673年)
1671年6月 00:00|イギリス| |||<死去>2代ギョロウエイ伯「ジェームズ・ステュアート」
1671年6月 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「アントニオ・フェルナンデス・デ・コルトバ・イ・メントーサ」(~1673年)
1671年6月2日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 暫定大統領・総督・総司令官「マルチョル・デ・リニャン・イ・シスネロス」(~16740618)
1671年6月2日-09:00|日本|東京都|寛文11年4月25日|<移封>肥後富岡藩2万石「戸田忠昌」⇒相模・下総・武蔵・常陸国内2万石(⇒延宝4(1676)年4月3日、畿内3万石へ加増移封)
1671年6月8日 00:00|イギリス| |||<死去>ケンブリッジ公「エドガー・ステュアート」
1671年6月12日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行「判事:ダブリン大司教マイケル・ボイル/アーサー・フォーブス卿」(~16720805)
1671年6月17日-04:00|ロシア| ||ロシア暦6月7日|ステンカ・ラジーンがモスクワで処刑される。41歳(誕生:1630)。ドン・コサックを中心とする反乱の指導者
1671年6月19日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「許積」(~16720531)
1671年6月20日-09:00|日本|東京都|寛文11年5月14日|<死去>初代「玉川千之丞」
1671年6月25日-01:00|イタリア| |||<死去>ジョヴァンニ・バッティスタ・リッチョーリ、イタリアの天文学者(生年1598年)望遠鏡でおおぐま座のミザールを観測し、これが二つの星であることを認め、最初の二重星の発見者となった
1671年6月25日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サティアゴ 副総督「トマス・リンチ卿」(1回目~16750307)
1671年6月26日-09:00|日本/中国|長崎県長崎市|寛文11年5月20日|<死去>崇福寺中興開山の唐僧即非如一(生年1616年)
1671年6月27日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アレクサンドロ・グリアマルディ」(~16730627)
1671年7月 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan Duran de Miranda」(~1675年)
1671年7月1日-09:00|日本|埼玉県行田市|寛文11年5月25日|<交替>武蔵忍藩8万石「阿部忠秋」隠居⇒養子「阿部正能(正令)」が継ぐ(自領1万石を加え9万石⇒延宝5(1677)年7月4日、隠居)
1671年7月1日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|寛文11年5月25日|<交替>上総大多喜藩1万石「阿部正能(正令)」武蔵忍藩5万石を相続⇒12月19日、従弟「阿部正春」が自領の旧大多喜新田藩領16000石で継ぐ(⇒元禄15(1702)年9月7日、三河刈谷藩に移封)
1671年7月5日 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 総督「アヘド・ネコ・マシュ」(~1681年没)
1671年7月6日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ 植民地総督「マヌエル・デ・セントヤ」(~16730708)
1671年7月10日-01:00|フランス| |||<死去>アンジュー公「フィリップ・シャルル1世」2歳
1671年7月19日-09:00|日本| ||寛文11年6月13日|幕府、諸国農村に酒造禁止令を出す
1671年7月30日-01:00|フランス| |||<死去>ギーズ公・ジョウユース公「ルイ・ジョセフ」
1671年7月30日-01:00|フランス| |||<即位>ギーズ公・ジョウユース公「フランソワ・ジョセフ」(~16750316死去)
1671年8月 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースタチウス島司令官「Lucas Jacobsen」(~1672.6)
1671年8月3日-09:00|日本|岩手県一関市|寛文11年6月28日|<改易>陸奥一関藩3万石「伊達宗勝」家臣争論により
1671年8月5日-09:00|日本| ||寛文11年7月|江戸の豪商・河村瑞賢が東廻り航路を開く
1671年8月5日-09:00|日本|岐阜県大垣市|寛文11年7月|<交替>美濃大垣藩10万石「戸田氏信」隠居⇒長男「戸田氏西」が継ぐ(⇒貞享元(1684)年6月7日、死去)
1671年8月28日-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・ト・モンティニ、フランスの聖職者、詩人(生年1636年)
1671年9月2日-09:00|日本| ||寛文11年7月29日|幕府が難破船救護法を出す
1671年9月3日-09:00|日本|大阪府堺市|寛文11年8月|仏光寺派に改派していた旧越前専修寺門徒、東本願寺派に転じて法雲寺をおこす
1671年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・トシーニ」「ジョヴァンニ・セラフィニ」
1671年10月2日-09:00|日本|東京都大田区|寛文11年8月30日|洪水で、東海道六郷橋が流失
1671年10月6日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|寛文11年9月4日|<死去>播磨山崎藩3万石「池田恒元」61歳⇒長男「池田政周」が継ぐ(⇒延宝5(1677)年正月8日、死去)
1671年10月25日-09:00|日本|福岡県北九州市|寛文11年9月23日|<分与立藩>小倉新田藩(篠崎屋敷)1万石「小笠原真方」(小笠原忠真四男⇒宝永6(1709)年7月5日、溺死)
1671年10月25日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|寛文11年9月23日|<領土分与>陸奥国棚倉藩5万石「内藤信良」弟「信全」に新田5000石を分与(⇒延宝2(1674)年11月16日、隠居)
1671年10月25日 00:00|イギリス| |||イギリスのG・カッシーニが土星の衛星イアペトゥスを発見

1680迄 (2638件)

1671年11月1日-01:00|フランス| |||フランス国王ルイ14世が、神聖ローマ皇帝レオポルト1世と中立条約を結ぶ
1671年11月16日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景治9年10月15日|<死去>後黎朝(大越)後期第9代皇帝「玄宗」
1671年11月16日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景治9年10月15日|<即位>後黎朝(大越)後期第10代皇帝「嘉宗」(~16750427死去)
1671年11月29日-01:00|オランダ| |||<死去>ベルゲン・オブ・ズーム辺境伯「マリア・エリザベト2世」
1671年12月1日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ホーリティエ・ラート」(政治評議会)「コーエンラート・ファン・ブライテンバッハ会長/ヨハネス・クーン/ダニエル・フレイマント/ヘンドリック・クルトツプ/ウィレム・ファン・デ・イテン/ヨハン・ヴァン・デル・メル」
1671年12月1日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|寛文11年10月30日|<死去>大和国郡山藩15万石「本多政勝」⇒12月23日、従弟「本多政長」が継ぐ(9万石を相続し12万石⇒延宝7年4月24日(16790602)、毒殺される)
1671年12月2日-09:00|日本| ||寛文11年11月1日|全国に、偽薬製造販売、毒薬の販売、諸販売の独占、及び偽金を禁止する法度が出される
1671年12月12日 00:00|イギリス| |||<死去>サマセット公「ウィリアム・シーモア」
1671年12月12日 00:00|イギリス| |||<就任>サマセット公「ジョン・シーモア」(~16750429死去)
1671年12月26日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督「ジョン・ウェントワース」(~1676年)
1672年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Anthonio Hurdtt」(2期目~1678年)
1672年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Cornelis Franks」(~1675年)
1672年-08:00|インドネシア| |||インドネシア、ムラビ山、熱雲で犠牲者3千名
1672年-07:00|タイ| |||<即位>マンラーイ朝ランナー王「ウッパ・ラーチャ・インチェマン」(~1675年)
1672年-05:30|インド| |||<就任>ドゥラウガト国統治者(ラージ・サーヒブ)「ジャスワンシジ1世ガジシムジ」(~1718年没)
1672年-05:30|インド| |||<就任>マラルコト国支配者(ナワブ)「シェール・ムハンマド・カーン・バハードゥル」(~1712年没)
1672年-05:30|インド| |||デリー近郊でサートミ教徒の反乱(農民一揆)
1672年-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「スウェン・フェルソン」⇒「フィリップ・コル」(~16730213)
1672年-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「シェイク・アリ・カーン・ザンジャネ」(2回目~16891025)
1672年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスラ・ワリス「ハサン・パシャ」(1回目~1674年9月)
1672年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Qara Mehmed Pasha」(~1673年)
1672年-01:00|フランス| |||<再任>サンポール伯「ジャン・ルイ・ロンクヴィル公」(2期目~1694年)
1672年-01:00|フランス| |||<就任>スモール公「フィリップ1世」(~17010609死去)
1672年-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム辺境伯「アンリエット・フランスカ」(~16981017没)、「トーマス・エルニ伯爵フレデリック・モリス」(~16981017)
1672年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ケマンケシュ・スレイマン・パシャ」(~1673年)
1672年-01:00|フランス/インド| |||フランス東インド会社がインドのボンデ・イシュリーを購入
1672年-01:00|オランダ| |||ベルゲン・オブ・ズームがオランダ共和国に占領される(~1678年)
1672年-01:00|ベルギー/フランス| |||リンブルフをフランスが占領(~1678年)
1672年 00:00|イギリス| |||<死去>初代アナンデイル＝ハートフェル伯「ジェームズ・ジョンストン」
1672年 00:00|イギリス| |||<就任>2代アナンデイル＝ハートフェル伯「ウィリアム・ジョンストン」(⇒1701年アナンデイル侯~17210114死去)
1672年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Anthony Beal大佐」(~1673. 1)
1672年 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>セネガル会社総督代行「リシュモン伯爵」(~1673年)
1672年 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「ミルトン伯ジョン・ミルトン」(2回目~1674年6月)
1672年 00:00|イギリス| |||<就任>ノーリッチ伯「ヘンリー・ハワード」(⇒16771213兼ノーフォーク公~16840113死去)
1672年 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||イギリスがヨーク島に王立アフリカ会社創立
1672年 00:00|イギリス| |||ニュートンが「光と色の新理論」を王立協会の「哲学会報」に発表
1672年 00:00|モリタニア/フランス| |||モリタニアのイスラム教徒がフランスの進出に対し聖戦を開始
1672年 04:00|モントセイト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセイト副総督「Edmund Stapleton」(~1679年)
1672年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス総督「ウィリアム・ステイプルトン」(1679年からウィリアム・ステイプルトン卿~1685年)、副総督「ランドルフ・ラッセル」(~1676年)
1672年 04:00|サン・マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルタン司令官「Chevalier de Maynie」(~1676年死去)
1672年1月4日-09:00|日本|秋田県秋田市|寛文11年12月5日|<死去>出羽久保田205800石「佐竹義隆」63才⇒翌年2月9日、次男「佐竹義処」が継ぐ(⇒元禄16(1703)年6月23日、死去)
1672年1月6日-07:00|カンボジア| |||<死去>カンボジア王国国王「ハロム・レアキア5世」
1672年1月11日-09:00|日本|埼玉県川越市|寛文11年12月12日|<死去>武蔵川越藩75000石「松平輝綱」⇒翌年2月9日、四男「松平信輝」が継ぐ(弟「輝貞」に5000石を分与し7万石⇒元禄7(1694)年1月7日、下総古河藩7万石へ移封)
1672年1月12日-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「チェイ・チェッタ3世」(~6. 20)
1672年1月13日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主代行「ラドゥ・クレシュスク」(~16720320)
1672年1月18日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|寛文11年12月19日|<交替>武蔵岩槻藩11万5千石「阿部正春」上総大多喜藩16000石を継承⇒甥「阿部正邦」が継ぐ(99000石⇒延宝9(1681)年2月25日、丹後宮津藩99000石へ移封)
1672年1月18日-09:00|日本|静岡県浜松市|寛文11年12月19日|<交替>遠江浜松藩35000石「太田資宗」隠居⇒次男「太田資次」が継ぐ(⇒延宝6(1678)年6月19日、大坂城代に任じられ畿内周辺55000石に移封)
1672年1月22日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|寛文11年12月23日|<交替>大和国郡山新田藩3万石「本多政長」本家大和国郡山藩を相続⇒従弟「本多政利」が継ぐ(本家相続分を含め6万石⇒延宝7(1679)年6月26日、播磨明石6万石へ転封)

1680迄 (2638件)

1672年1月27日-09:00|日本|岐阜県高山市|寛文11年12月28日|<死去>飛騨高山藩38000石「金森頼業」24歳⇒長男「金森頼時」が継ぐ(⇒元禄5(1692)年7月、出羽上山藩38000石へ移封)

1672年1月30日-09:00|日本|群馬県沼田市|寛文12年|馬喰町二十三夜勢至堂、創建される

1672年1月30日-07:00|ベトナム||大越黎朝・陽徳1年|大越後黎朝10代・嘉宗が陽徳と改元(-1674年旧10月)

1672年1月30日-08:00|中国/モンゴル||清・康熙11年1月|モンゴルのガルトン・ハーンが清に朝貢

1672年2月-01:00|ハンガリー/トルコ||<就任>バダのペイレル・イ「カン・ラツァテ・フセイン・パシャ」(~16730413)

1672年2月 04:00|マルティニーク/フランス||<死去>フランス領マルティニーク暫定知事「Francois Roole」

1672年2月 04:00|アンティグア・バーブーダ/イギリス||<就任>リワード・カリバー諸島総司令官・総督「ウィリアム卿ステフルトン」(~16860722没)

1672年2月4日-09:00|日本|静岡県掛川市|寛文12年1月6日|<死去>遠江国掛川藩35000石「井伊直好」⇒長男「井伊直武」が継ぐ(⇒元禄7(1694)年11月12日、隠居)

1672年2月28日-01:00|ポーランド||<就任>レクニツァ公「ジョージ・ウィリアム」(~16751121死去)

1672年3月-01:00|フランス/オランダ||フランスがオランダに宣戦布告

1672年3月2日-09:00|日本|東京都新宿区|寛文12年2月2日|<浄瑠璃坂の仇討ち>奥平源八ら、父の仇・奥平隼人を江戸浄瑠璃坂で討つ

1672年3月11日-01:00|フランス||パリのパレ・ロイヤル劇場で、モリエールの喜劇「女学者」が上演される

1672年3月20日-02:00|ルーマニア||<就任>ワキア総督・領主「ゲオルギカ」(2回目~1673年11月)

1672年3月20日-09:00|日本|東京都大島町|寛文12年2月21日|幕府、奥平源八らを大島に流刑とする

1672年3月25日-02:00|南アフリカ/オランダ||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官代行(オランダ東インド会社)「アルベルト・ファン・ブロイケル」(~10.2)

1672年3月27日-01:00|オランダ/イギリス||ユリウス暦3月17日|イギリスがオランダに宣戦布告し、第3次英蘭戦争が始まる(〜1674:ウェストミンスター条約)

1672年4月-03:00|サウジアラビア||<就任>メッカ・シャリフ「ハラカット・ビン・ムハンマド・ビン・イブラヒム・ビン・ハラカット・ビン・アフ・ヌマイ」(~1682年4月)

1672年4月-02:00|シリア・アラブ/トルコ||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Kaplan Mustafa Pasha」(~1673年)

1672年4月 04:00|シント・マルテン/サン・マルタン/フランス||シント・マルテン、サン・マルタン全体をフランスが占領(~16760615)

1672年4月1日-01:00|サンマリノ||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・ロリ」「ジャンバティスト・ザンピエーニ」

1672年4月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン||<死去>マリアナ諸島知事「Padre Diego Luis de San Vitores」

1672年4月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン||<就任>マリアナ諸島知事「Francisco Solano」(~6.13死去)

1672年4月7日-01:00|フランス/オランダ||ルイ14世がオランダに宣戦布告し、オランダ・フランス戦争勃発(〜1678/8/10:ナイメーヘンの和約)

1672年4月9日 00:00|モロッコ||<死去>アラウー朝スルタン「ムレイ・アル＝ラシード」41歳

1672年4月9日 00:00|モロッコ||<即位>アラウー朝スルタン「ムハンマド1世」

1672年4月14日-06:30|ミャンマー||<即位>ビルマ王「ナラワ」(~16730227没)

1672年4月14日-01:00|ドイツ||<死去>ザクセン＝アルテンブルク公・ザクセン＝コーブルク公「フリードリヒ・ヴィルヘルム3世」ザクセン＝アルテンブルクはザクセン＝ゴータ＝アルテンブルク公に地位継承(~1825年)

1672年4月14日-01:00|ドイツ||<即位>ザクセン＝ゴータ＝アルテンブルク公・ザクセン＝コーブルク公「エルスト1世敬虔公」(~16750326死去)

1672年4月14日 00:00|モロッコ||<即位>アラウー朝スルタン「アフーン・ナスル・イスマイル・アス＝サミン」(~17270321没)

1672年4月19日 06:00|アメリカ/イギリス||<就任>イギリス領サスカラワイ植民地総督「ジョン・イーモンズ」(~16740813死去)

1672年4月21日-05:30|インド||<死去>ゴールコンダ王国スルタン「アフドゥッラー・クトゥブ・シャー」

1672年4月21日-05:30|インド||<即位>ゴールコンダ王国スルタン「アフム・ハサン・クトゥブ・シャー」(~16870921ムガル帝国に降伏)

1672年4月23日 00:00|イギリス||<就任>初代ジャマカリ伯「アントニー・アシュリー＝ケパー」(~16830121死去)

1672年4月25日-09:00|日本||寛文12年3月28日|幕府が、京都、大坂、堺の商人に長崎外国貿易の期日や金銀兌換などの規則を出す

1672年4月29日-01:00|リビア/トルコ||<就任>オスマン帝国トリポリ・タニア・ペイレル・イリ「オスマン・レイス・アス＝ハリ」(~1672年7月)

1672年4月30日-01:00|フランス||<死去>ジャック・シャント・オン・ド・シャントニール、フランスの作曲家、クラヴィン奏者(生年1601年or1602年)

1672年5月-01:00|ポズナニ・ヘルツェゴビナ/トルコ||<就任>ポズナニ総督「コカ・アルノー・イブラヒム・パシャ」(1回目~12月)

1672年5月-01:00|オランダ/フランス||フランス王ルイ14世、「南ネデルラント継承戦争」の際、オランダが妨害したことに対する復讐戦として、自ら軍を率いライン川を渡りオランダに侵入/イギリスとともに「オランダ侵略戦争」(~1678年)を始める

1672年5月 06:00|アメリカ/イギリス||<就任>イギリス領ニューアルビオン植民地総督「ジョン・ベリ」(~1673.7)

1672年5月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン||<就任>マリアナ諸島軍司令官「Juan de Santiago」(~16740616)

1672年5月15日 06:00|アメリカ||マサチューセッツで初の著作権法が可決

1672年5月15日-09:00|日本|広島県広島市|寛文12年4月18日|<死去>安芸広島藩42万6500石「浅野光晟」隠居⇒長男「浅野綱晟」が継ぐ(⇒翌年正月2日、死去)

1672年5月22日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|寛文12年4月25日|<刊行>桑折宗臣編「大海集」

1672年5月25日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク||<就任>セント・トマス島総督「Jorgen Iversen Dyppe」(~16800705)

1672年5月25日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク||セント・トマス島に対するデンマークの支配(デンマーク西インド会社管理)

1672年5月27日-09:00|日本|愛媛県松山市|寛文12年5月|「伊予豆比古命神社」本殿改築

1680迄(2638件)

1672年5月27日-09:00|日本|大阪府堺市|寛文12年5月|『曾呂利狂歌噺』刊行
1672年5月28日-01:00|オランダ/フランス/イギリス| |||オランダ艦隊が英仏艦隊に辛勝し海からの侵攻をひとまず回避
1672年5月28日 00:00|イギリス| |||<死去>初代サントウィッチ伯「エドワード・モンタギュー」
1672年5月28日 00:00|イギリス| |||<就任>第2代サントウィッチ伯「エドワード・モンタギュー」先代の息子(〜16881129死去)
1672年5月28日-09:00|日本| ||寛文12年5月2日|幕府が再び食料品の発売時期を限定
1672年6月 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||バーズン諸島はイギリスの植民地アンティグアの一部⇒リーワード諸島植民地の一部(〜1816年)
1672年6月1日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「鄭太和」(〜16730527)
1672年6月8日-09:00|日本|茨城県水戸市|寛文12年5月13日|徳川光圀が彰考館(文庫)を開設
1672年6月9日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「フェルディナント・フランシスコ・デ・エスコベド」(〜16781222)
1672年6月9日-09:00|日本|兵庫県たつの市|寛文12年5月14日|<移封>信濃飯田藩53000石「脇坂安政」⇒播磨龍野藩53000石(⇒貞享元(1684)年11月25日、隠居)
1672年6月12日-01:00|フランス| |||<死去>ロングヴィル公「Charles Paris」
1672年6月12日-01:00|フランス| |||<即位>ロングヴィル公「Jean Louis Charles」(〜16940402死去)
1672年6月13日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<死去>マリアナ諸島知事「Francisco Solano」
1672年6月13日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Francisco Ezquerro」(〜16740202死去)
1672年6月14日-01:00|フランス| |||<即位>アンジュー公「ルイ・フランソワ1世」フランス国王ルイ14世とマリー・テレーズ・ド・トリニットの三男(〜11.4死去)
1672年6月17日-01:00|イタリア| |||<死去>オrazio・ベネチ、イタリアの作曲家(生年1605年)
1672年6月18日-09:00|日本| ||寛文12年5月23日|<死去>石川丈山、文人(生年1583年)江戸初期における漢詩の代表的人物で儒学・書道・茶道・庭園設計にも精通
1672年6月23日-01:00|フランス/オランダ| |||フランスの大軍はユトレヒト攻略によって首都アムステルダム目前へと迫ったがオランダはフランス軍の進撃を当面食い止めることに成功
1672年6月25日-09:00|日本|愛媛県大洲市|寛文12年6月|大洲藩主「加藤泰興」、如法寺を創建
1672年7月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリ・ベイルベグ・イリ「ハリー・チャグシュ」(〜1675年5月)
1672年7月2日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「William Willoughby」(3期目〜16730410死去)
1672年7月4日-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「フレイ・ケオ2世(ケオ・ファ2世)」(〜1675年11月)
1672年7月4日-01:00|オランダ/ドイツ| |||<就任>オランダ総督・総司令官・提督「オラニエ・ナッソー公ウィルヘルム・ヘンドリック」インクランド王、スコットランド王、オラニエ公ウィルム2世の長男(〜17020308没)
1672年7月4日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>サバ島イギリス司令官「William Burt」(〜同年)⇒「Andruson」(〜1679年)
1672年7月4日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースティウス島イギリス司令官「John Pogson」(〜1673年)
1672年7月4日 04:00|BES諸島/イギリス| |||サバ島はイギリスが占領(〜1679年末)
1672年7月4日 04:00|BES諸島/イギリス| |||セント・ユースティウス島をイギリスが占領(〜1681.4)
1672年7月5日-09:00|日本|岡山県浅口市|寛文12年6月11日|<立藩>岡山新田藩25000石「池田政言」備前岡山藩より分与(⇒元禄13(1700)年8月19日、56歳で死去)
1672年7月5日-09:00|日本|岡山県岡山市|寛文12年6月11日|<交替>備前岡山藩31万5千石「池田光政」隠居⇒嫡男「池田綱政」が継ぐ(⇒正徳4年10月29日(17141205)死去)
1672年7月5日-09:00|日本|岡山県倉敷市|寛文12年6月11日|<立藩>岡山新田藩15000石「池田輝録」備前岡山藩より分与(⇒正徳3(1713)年11月26日、65歳で死去)
1672年7月24日-09:00|日本|長野県飯田市|寛文12年閏6月1日|<移封>下野烏山藩2万石「堀親昌」⇒信濃飯田藩2万石(⇒寛文13年7月16日(16730827)死去)
1672年7月25日-05:30|インド/フランス| |||サント・トメがフランスに占領される(〜16740906)
1672年7月26日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|寛文12年閏6月3日|<移封>三河中島藩5万石「板倉重矩」⇒下野烏山藩5万石(⇒寛文13(1673)年5月29日、57歳で死去)
1672年7月27日-09:00|日本|奈良県桜井市|寛文12年閏6月4日|<死去>大和戒重藩1万石「織田長定」⇒8月6日、長男「織田長明」が継ぐ(⇒天和3(1683)年5月2日、隠居)
1672年8月-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領マラ総督「Diego de Arce」(2期目〜1674年)
1672年8月4日-01:00|オランダ| |||アムステルダム市民がオランダ州議会の全議員を罷免/宰相ヤン・デ・ウィットに辞職を迫り、オラニエ公ウィルム3世を総督に任命
1672年8月5日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「セックス伯爵アーサー・カール」(〜16770824)
1672年8月10日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「シュテファン・ヒギエル・トリチイク」(1回目〜16731123)
1672年8月16日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ユーストン伯「ヘンリー・フィッツロイ」(⇒16750911兼初代ガラトン公)
1672年8月17日-09:00|日本| ||寛文12年閏6月25日|幕府が外国航路とキリスト教を禁制
1672年8月19日-09:00|日本| ||寛文12年閏6月27日|<死去>山岡元隣、俳人(生年1631年)
1672年8月21日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「ヘネット」(〜同年)⇒総督「アンソニー・ヒール」(〜16730101)
1672年8月24日-09:00|日本|山形県山形市|寛文12年7月2日|<死去>出羽山形藩9万石「奥平昌能」⇒養子「奥平昌章」が継ぐ(⇒貞享2(1685)年6月22日、下野宇都宮藩9万石に移封)

1680迄 (2638件)

1672年9月12日 06:00|カナダ/アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「フロンタック伯爵ルイ・ド・ブアト」(~1682年)

1672年9月15日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|寛文12年7月24日|<死去>浅野長直(生年1610年)前播磨国赤穂藩主

1672年9月16日 06:00|アメリカ| |||<死去>アン・ブラッド・ストリート、アメリカの女性詩人(生年1612年頃)

1672年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アレサント・ロ・ヘルツツィ」「スフォルツァ・シオニニ」

1672年10月2日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「イスブラント・ゴスケ」(~16760314)

1672年10月13日 00:00|イギリス/台湾| ||清・康熙11年8月23日|鄭經がイギリスと正式に通商条約締結

1672年10月18日-02:00|ウクライナ/ポーランド/トルコ| |||ポーランド、ブラツワ、キエフ県南部は、フチャ条約によってエヤレティカニスとしてポーランドからオスマン帝国に割譲

1672年10月18日-01:00|ポーランド/トルコ/リトアニア| |||オスマン軍がウクライナ・コサックの要請を受けてポーランドに侵攻し、フチャの和約が結ばれる

1672年10月20日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデラ総督「Joao de Saldanha e Albuquerque」(~16760609)

1672年10月27日-09:00|日本|新潟県新発田市|寛文12年9月7日|<交替>越後新発田藩5万石「溝口宣直」隠居⇒長男「溝口重雄」が継ぐ(⇒宝永3(1706)年7月19日、隠居)

1672年10月30日-09:00|日本|静岡県周智郡森町|寛文12年9月10日|三嶋大明神が再建され、蓮華寺が遷宮を行なう

1672年11月 00:00|イギリス| |||<死去>初代ダラム伯爵「ウィリアム・ラムゼイ」

1672年11月 00:00|イギリス| |||<就任>2代ダラム伯爵「ジョージ・ラムゼイ」(~1674年死去)

1672年11月4日-01:00|フランス| |||<死去>アンジュ公「ルイ・フランソワ1世」

1672年11月6日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハインリヒ・シュツ、ドイツの作曲家(生年1585年)

1672年11月24日-05:30|インド| |||<死去>アーデル・シャーヒー朝シャー「アリー・アーデル・シャー2世」

1672年11月24日-05:30|インド| |||<即位>アーデル・シャーヒー朝シャー「シカンダル・アーデル・シャー」(~1686年死去)

1672年12月 00:00|イギリス| |||<死去>リッチモンド公・レノックス公・リッチフィールド伯「チャールズ・スチュワート」

1672年12月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Antoine Andre de Sainte-Marthe de Lalande」(~1679.12死去)

1672年12月2日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国高等財務卿「チャットリーのクリフォード男爵トマス・クリフォード」(~16730624死去)

1672年12月6日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド・リトアニア共和国王「ヤン2世」(63歳、16090324生)カミル5世。晩年はフランスに行き僧職についた

1672年12月6日 05:00|ペルー/スペイン| |||<死去>ペルー副王「レオス伯ヘクトル・フェルナンデス・デ・カストロ・アントナード・イ・ポルトガル」

1672年12月6日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー暫定副王「ペルナルト・デ・イトゥリアサ」(2回目~16740815)

1672年12月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督「リチャード・ベリンガム」

1672年12月12日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督代理「ジョン・レヴァレット」(⇒16730507総督~16790316死去)

1672年12月16日-09:00|日本|京都府京都市上京区|寛文12年10月27日|<死去>4代千宗左(表千家の祖)[1613年生~](享年59)

1672年12月18日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||イギリスがトバゴを占領(⇒21日廃棄~16760901)

1672年12月19日-09:00|日本|愛知県名古屋市中区|寛文12年11月1日|<改名>尾張名古屋藩61万9500石「徳川光義」⇒「徳川光友」(⇒元禄6(1693)年4月25日、隠居)

1672年12月21日 00:00|イギリス| |||<死去>ダービー伯「チャールズ・スタンレー」

1672年12月21日 00:00|イギリス| |||<就任>マン島主兼ダービー伯「ウィリアム・リチャード・ジョージ・スタンレー」(~17021105死去)

1672年12月23日 00:00|イギリス| |||イギリスのG・カッシーニが土星の衛星17を発見

1673年-08:00|ブルネイ| |||<死去>ブルネイ・スルタン「アブドゥル・ムヒン」

1673年-08:00|ブルネイ| |||<即位>ブルネイ・スルタン「ムフィデイン」(~1690年死去)

1673年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「アン・タン」(~16740419)

1673年-05:45|ネパール| |||<即位>ゴルカ・ラジャ「フリタウ・イパティ・シャー」(~1716年没)

1673年-05:45|ネパール| |||<即位>バクタプラ王「ジャヤスマティ・タミトラマ」(~1696年没)

1673年-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「シガート・アデラー」(~1682年10月)

1673年-05:30|インド| |||<就任>ハムラ国ラジャ「バギラス・デブ」(~1713年)

1673年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「カン・ラツァア・デ・フェイン・パシャ」(~1675年)

1673年-02:00|エストニア/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン・エストニア総督代行「ヤコブ・シュタイル・フォン・ホルシュタイン」(~同年)

1673年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ibrahim Pasha Shushman」(~1674年)

1673年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・テ・クアマ、モノモタパ総司令官「シモン・ゴメス・ダ・シルバ」(~1675年)

1673年-02:00|南アフリカ/オランダ| |||ケープ植民地で第2次コイ・コイン・オランダ人戦争が勃発

1673年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| ||年末|<死去>コンゴ王国マニコンゴ「ラファエル1世」ジジ・ンガ・ア・ン・カンガ」

1673年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク＝ビューディングン伯「ヨハン・ガズミール」(~1693年)

1673年-01:00|フランス| |||<就任>ウエイクン伯「Louis-Cesar de Bourbon」(~1683年)

1673年-01:00|ポズナń/オーストリア/ポーランド/トルコ| |||<就任>ポズナń総督「カール・メフム・パシャ」(~1675年)

1673年-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ司教公「ルイ・ム3世」(~1685年)

1680迄 (2638件)

1673年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス=シュライツ伯「Heinrich1世」(~1692年死去)
1673年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス=ローベンシュタイン伯「Heinrich3世」(~1710年)、「Heinrich8世」(~1678年)、「Heinrich10世」(~1678年)
1673年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>コンゴ 王国マニコンゴ「アフォンソ3世ムベンバ・ア・ニミ」(~1674年中頃没)
1673年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>コンゴ 王国国王「アンナ・アフォンソ・デ・レオン」(~1709年)
1673年-01:00|フランス/オランダ/BES諸島| |||フランス艦隊、キュラー島のオランダ軍を攻撃するも撃退される
1673年-01:00|フランス/バングラデシュ/インド| |||ベンガルのシャンデルゴールが植民地となった
1673年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Juliao de Campos Barreto」(~16770713)
1673年 00:00|カナ/イギリス| |||イギリス人によってジェームズ砦がアクラに設立される
1673年 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督代行「マヌエル・モリス・デ・メントンサ」(~1676年)
1673年 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースティウス島イギリス司令官「Cornelis Evertsen, Jr.」⇒「Jacob Binckes」(~同年)
1673年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「パナマ司教アントニオ・デ・レオン・イ・ベセ」(~1675年)
1673年 05:00|キューバ| |||ヤコブ・ゲリヨス、ヌエバタスを襲撃
1673年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「ペドロ・デ・ゴドイ・ホンセ・デ・レオン」(~1676年)
1673年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル州市長兼副司令官「フアン・デ・ミランダ」(~1680年)
1673年1月1日 00:00|セントヘレナ/オランダ| |||<就任>オランダのセントヘレナ島司令官「ジェイコブ・デ・ゲウス」(~同月)⇒「ヤン・ケーン」(~5.15)
1673年1月1日 00:00|セントヘレナ/オランダ| |||オランダがセントヘレナ島占領(~5.15)
1673年1月1日 06:00|アメリカ| |||ボストンとニューヨーク間に、定期郵便制度が成立
1673年1月7日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|寛文12年11月20日|<死去>丹波篠山藩5万石「松平典信」⇒翌年1月19日次男「松平信利」が継ぐ(⇒延宝4(1676)年11月28日、死去)
1673年1月21日 05:00|パナマ| |||メルカド、オールドパナマを撤退。8和離れた現在のパナマ・シティに移設
1673年1月26日-09:00|日本|大阪府豊中市|寛文12年12月9日|<交替>摂津麻田藩1万石「青木重兼」隠居⇒婿養子「青木重成」が継ぐ(⇒元禄6(1693)年8月15日、死去)
1673年1月26日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|寛文12年12月9日|<交替>肥前鹿島藩25000石「鍋島直朝」隠居⇒三男「鍋島直條」が継ぐ(⇒宝永2(1705)年4月29日、死去)
1673年2月4日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 弁務官「ルイ・オーギュスト・ペランジエ・ド・エスピレイ司令官」(~16740920)
1673年2月4日-05:30|インド/フランス| |||ボンデ・イシエリはフランスが所有
1673年2月4日-09:00|日本| ||寛文12年12月18日|疑わしい出版があれば町奉行へ伺い指図に従うよう、初の出版統制令が出される
1673年2月4日-09:00|日本|福島県会津若松市|寛文12年12月18日|<死去>保科正之(生年1611年)徳川秀忠の子、前陸奥会津藩藩主
1673年2月11日-05:30|インド| |||<死去>マソール国マハラジャ「ドゥッタ・デーウ・ア・ラージャ」
1673年2月11日-05:30|インド| |||<即位>マソール国マハラジャ「チッカ・デーバ・ラージャ・ウチヤール」(~17041116没)
1673年2月13日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ユベール・ユグー」(~16771004)
1673年2月17日-01:00|フランス| |||<死去>フランス古典主義文学者で古典喜劇作家のモリエール(本名ジャン=バティスト・ポクラン)(1622-、51歳)「病は気から」の上演中に舞台上で倒れる/「人間嫌い」・「タルチュフ」・「守銭奴」など風刺と機知の鋭い傑作を残した
1673年2月18日-09:00|日本|広島県広島市|寛文13年1月2日|<死去>安芸広島藩42万6500石「浅野綱晟」37歳⇒2月25日、長男「浅野綱長」が継ぐ(⇒宝永5(1708)年2月11日、病死)
1673年2月27日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ビルマ王「ナラウ」
1673年2月27日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「ミエ・キャウティン」(~16980504没)
1673年3月9日 05:00|エカトル/スペイン| |||<就任>スペイン領北暫定総督・総司令官・大審問院長「キト司教アロンソ・デ・ラ・ペーニャ・イ・モンテグロ」(~16780129)
1673年3月12日-01:00|スペイン| |||<死去>マカレット・テレサ、スペイン王女(生年1651年)
1673年3月15日-01:00|イタリア| |||<死去>サルヴァトル・ローザ、イタリアの画家、詩人(生年1615年)
1673年3月22日-09:00|日本|島根県安来市|寛文13年2月4日|<死去改易>出雲母里藩1万石「松平隆政」26歳、松江藩に収公
1673年3月29日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦3月22日|イギリス国王チャールズ2世がカトリックに傾斜するのを警戒したイギリス議会が、国教徒以外の者が文武の官職に就くことを禁じる審査法(審査律)を成立させる
1673年3月29日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領ブラジル植民地総督「トマス・ブレニス」
1673年3月29日-09:00|日本| ||寛文13年2月11日|幕府が火災現場への火消し以外の立ち入り厳禁など、消防規則を定める
1673年4月 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのタートル島代行「ラ・ピエリエール卿ジエローム・デュ・サット」(~同月)⇒総督「ラ・プエール卿ペルトラン・ド・ニド・ジエロン」(3回目~1675年9月)
1673年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「オットアヴォ・ジョーニニ」「アルフォンソ・ド・シーニ」
1673年4月6日-09:00|日本|香川県高松市|寛文13年2月19日|<交替>讃岐高松藩12万石「松平頼重」隠居⇒養子「松平頼常」が継ぐ(⇒宝永元(1704)年2月、隠居)

1680迄 (2638件)

1673年4月8日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1673/3/29|イギリス国王チャールズ2世がカトリックに傾斜するのを警戒したイギリス議会在、国教徒以外の者が文武の官職に就くことを禁じる審査法(審査律)を成立させる

1673年4月10日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「William Willoughby」

1673年4月10日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「ピーター・Colleton卿」(~1674 1101)

1673年4月13日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダペストのペイルベイ「ウズン・イブラヒム・パシャ」(2回目~16750914)

1673年4月17日-09:00|日本|島根県安来市|寛文13年3月|<再立藩>出雲母里藩1万石「松平直丘」(⇒正徳2(1712)年12月27日、死去)

1673年4月17日-08:00|中国| ||清・康熙12年3月|清の平南王尚可喜、老年を理由に撤藩を請い、他の2王にも撤藩命令が下る

1673年4月27日-01:00|フランス| |||<初演>ジャン・バティスト・リュリ《歌劇「カトリスとエルモス」》

1673年5月 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Richard Keigwin大佐」(~1674年)

1673年5月15日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「リチャード・ムンデン卿」(~同月)⇒「リチャード・ケイグウィン」(~1674. 5)

1673年5月17日 06:00|アメリカ| |||ミシシッピ川発見される

1673年5月19日-09:00|日本/中国|京都府宇治市|寛文13年4月3日|<死去>福州福清県の唐僧・隠元(82)日本禅宗黄檗派の開祖

1673年5月28日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||英仏艦隊76隻は、スホーネルト水道に潜伏するオランダ艦隊を攻撃するが勝敗つかず

1673年6月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領フロリダ植民地総督「ジョサイア・ウインズロー」(~16801218死去)

1673年6月4日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||英仏艦隊とオランダ艦隊は再びスホーネルトで戦ったが勝敗つかず

1673年6月15日-09:00|日本| ||寛文13年5月|幕府が出版統制令を出す(出版取り締まりの初め)

1673年6月22日-06:00|日本|京都府京都市|寛文13年5月8日|<京都寛文13年の大火「延宝の大火」>寅の上刻(午前3時ごろ)[一説には丑の刻(午前2時ごろ)]、内裏(皇居)東南にある関白・鷹司房輔邸より出火、内裏(宮中)をはじめ新院御所(後西院御所)、法皇御所(後水尾院の仙洞御所)、女御方(東福門院御所)なども全焼/さらに左大臣・九条兼晴邸をはじめ、広橋、西園寺、頂妙寺、長谷寺、風早、芝山、藤本、小川、防城、五辻、観修寺、日野、烏丸、裡松、菊亭、園など多くの公家邸宅が焼失/そのほか京都所司代官邸、水戸侯の屋敷、施薬院から毘沙門堂が焼けている/町家では中立売通が北は小川まで、南は小川半町西まで焼け、上長者町堀川小川からの炎は東の洞院竹屋町まで灰とし、車屋烏丸通一条下る、両替町より二条通、室町は中立売より二条まで、衣の店通、新町通へ、出水下町より丸太町下るまでと次々と延焼、翌日の午の刻(昼12時)に鎮火/町数130、軒数で1300余軒焼失、4人死亡

1673年6月24日 00:00|イギリス| |||<死去>イングランド王国高等財務卿「チャドリー・クリフォード」男爵トマス・クリフォード

1673年6月24日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国高等財務卿「オズボーン子爵」(⇒8. 15ティマー子爵⇒16740627「トビー」伯)トマス・オズボーン「Tor」(~16790326)

1673年6月26日-06:00|日本| ||寛文13年5月8日|<寛文13年西日本梅雨前線豪雨>(~15日)北九州から四国伊予、安芸、備後、備中、備前など瀬戸内海沿岸部各地に洪水/特に備前国では、大雨が翌日になっても止まず、14日旭川が氾らん54. 5kmに渡って堤防が決壊、その他、中小の河川の堤防や海岸の潮留め堤防が87km決壊し、大洪水となり88人が死亡/岡山藩内で押し流され損壊した家屋は土分宅17軒、足軽の家113軒、町家113軒、在々(村方の家:農家)2788軒/備後福山藩内では芦田川が14日亥の刻(22時ごろ)氾濫し大洪水、沿岸部では人畜の死傷や家屋の流失がおびただしく、福山城下は僅かに残ったという。同川の河口部で鎌倉時代に栄えたという、伝説の草戸千軒町がふたたび水没

1673年7月5日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アゴスティーノ・サルゾ」(~16750704)

1673年7月6日-06:00|日本|広島県広島市|寛文13年5月22日|(14日~)雨降り続き洪水。広島城下の被害甚大、死者多数

1673年7月8日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督代理「ニコラス・ポンセ・デ・レオン2世」(~16750503)

1673年7月9日-06:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|寛文13年5月25日|イギリス船レタン号長崎に来たりて通商を復せんことを乞う

1673年7月13日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|寛文13年5月29日|<死去>下野烏山藩5万石(老中)「板倉重矩」57歳⇒家督を三男「板倉重種」が嗣ぐ(⇒延宝9(1681)年2月、武蔵岩槻藩6万石に加増移封)

1673年7月28日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Henry Nowell」(~1676年死去)

1673年7月30日-03:30|イラン| |||イラン・メシェド地震(M7. 1)、死者5600人

1673年8月-01:00|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタンのパン代行「ミクロ・シュ・ゲロフ・エルズ・ディ」(2度目⇒16800410、パン~169 30607)

1673年8月-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿国務長官「フランチェスコ・ネリ」(~16760722)

1673年8月6日-09:00|日本|大分県臼杵市|寛文13年6月24日|<死去>豊後臼杵藩5万石「稲葉信通」66歳⇒長男「稲葉景通」が継ぐ(⇒元禄7(1694)年間5月20日、56歳で死去)

1673年8月21日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||テレル島沖の海戦/オランダ艦隊が、英仏連合艦隊を破る

1673年8月23日-09:00|日本|三重県鳥羽市|寛文13年7月12日|<死去>志摩鳥羽藩35000石「内藤忠政」⇒9月11日、次男「内藤忠勝」が継ぐ(弟「忠知」に2000石を分与し33000石⇒延宝8(1660)年6月27日、永井尚長を殺害し切腹・断絶)

1673年8月24日 00:00|イギリス| |||<死去>ウリック伯「チャールズ・リッチ」

1673年8月24日 00:00|イギリス| |||<就任>ウリック伯・ホランド伯「ロバート・リッチ」先代の従兄弟(~1675. 4死去)

1673年8月27日-09:00|日本|長野県飯田市|寛文13年7月16日|<死去>信濃飯田藩2万石「堀親昌」⇒嫡男「堀親貞」が

1680迄 (2638件)

継ぐ(⇒貞享2(1685)年11月18日、死去)

1673年8月28日-01:00|スペイン| |||^ペニョン・デ・アルマス(メリヤ下)を^スペインが所持

1673年8月30日-01:00|トイ/オランダ| |||神聖ローマ皇帝^レオポルト1世が、オランダと反仏同盟を結ぶ

1673年9月6日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「許積」(~16740425)

1673年9月7日-06:00|日本/伊予|長崎県長崎市|寛文13年7月27日|幕府長崎奉行をして伊予船を諭し還らしむ

1673年9月11日 04:30|^ベネズエラ/スペイン| |||<就任>^スペイン領^ベネズエラ総督「Francisco Davila Orejon y Gaston」(~16740913死去)

1673年9月11日-09:00|日本|三越伊勢丹ホールディングス|寛文13年8月|三井高利が江戸本町一丁目に呉服店「越後屋」を開業

1673年9月19日 06:00|アメリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ニューネーデルラント総督「アンソニー・コルヴ」ニューネーデルラント再興(~16741110ニューネーデルラントは完全に伊予に割譲)

1673年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンバティスタ・トシーニ」「フランチェスコ・アンジェリ」

1673年10月10日-09:00|日本|東京都中央区|寛文13年9月|初代市川段十郎『四天王稚立』上演、山村座、荒事のはじまり(段はのちに團)

1673年10月30日-09:00|日本| ||延宝1年9月21日|「延寶」に改元

1673年11月-01:00|フランス/トイ/オランダ| |||オランダ総督の^ラニエ公ウィレムが、フランス軍の武器庫がある^ボンを襲う

1673年11月7日-09:00|日本|京都府舞鶴市|延宝1年9月29日|<交替>丹後田辺藩35000石「牧野親成」隠居⇒弟「牧野富成」が継ぐ(⇒元禄6年8月6日(16930905)死去)

1673年11月8日-09:00|日本|山口県岩国市|延宝1年9月30日|吉川広嘉が錦帯橋をかける

1673年11月10日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「アレクサンドラス・ビリアリス・パルビンスキス大元帥」(~16760202)

1673年11月10日-01:00|^ホーランド/リトアニア| |||<死去>^ホーランド国王・リトアニア大公「ミコラス1世(ミハウ・コリブト・ウイニョウ・イェツキ)」33歳

1673年11月20日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>^ヌエバ・イスパニヤ副王「ペラグア・イ・デ・ラ・ベガ」公、ジャマカ侯^ドロホルトガルの^ヌニエスコンプス・イ・カストロ(~12.13)

1673年11月21日-09:00|日本|静岡県富士宮市|延宝1年10月13日|重須本門寺梵鐘改鑄、鐘楼・二天門・表門造営

1673年11月23日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ドゥミトラ・カンタクジノ」(1回目~1675年12月)

1673年11月26日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国総督代行「クリッフェンフェルト伯爵^ベーダー」(⇒16740803大法官~16760311)

1673年12月5日-09:00|日本|京都府南丹市|延宝1年10月27日|<交替>丹波園部藩25000石「小出英知」隠居⇒長男「小出英利」が継ぐ(⇒宝永2(1705)年4月22日、隠居)

1673年12月6日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「ゲオルゲ・トウカ」(~1678年11月)

1673年12月8日-01:00|スペイン| |||<死去>^ペラグア公「ペドロ・ヌニョ・コロン・デ・ボルトガル・イ・カストロ」

1673年12月8日-01:00|スペイン| |||<就任>^ペラグア公「ペドロ・マヌエル・コロン・デ・ボルトガル・イ・デ・ラ・クエバ」先代の子(~17100909死去)

1673年12月9日-09:00|日本|福島県相馬市|延宝1年11月2日|<死去>陸奥中村藩6万石「相馬忠胤」⇒12月25日、長男「相馬貞胤」が継ぐ(⇒延宝7年11月23日(16791225)死去)

1673年12月13日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>^ヌエバ・イスパニヤ副王「メキシコ大司教^パ・ヨ・エンリケ・デ・リベラ・マンリケ」(~16801107)

1673年12月15日 00:00|イギリス| |||<死去>マガレット・キャウエンティッシュ、イングランドの貴族夫人、作家(生年1623年)

1673年12月18日-09:00|日本|京都府宮津市|延宝1年11月11日|<死去>丹後宮津藩73000石「永井尚征」⇒翌年1月10日、三男「永井尚長」が継ぐ(⇒延宝8(1680)年6月26日、芝の増上寺で内藤忠勝に刺殺され改易)

1673年12月27日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|延宝1年11月20日|<死去>大和小泉藩13488石「片桐貞昌」⇒翌年1月19日、三男「片桐貞房」が継ぐ(庶兄下条信隆に1千石分知、1350石召上げ11129石⇒宝永7(1710)年9月22日、死去)

1673年12月28日-08:00|中国| ||清・康熙12年11月21日|漢人の武將吳三桂が、康熙帝の撤兵命令を拒否し、雲南の地方長官を殺害して清朝に反旗を翻す/周王と称し利用と建元(~1678)(三藩の乱の始まり)

1673年12月29日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>サンゲル島^ドナリオ長官「Manuel Luis Baltasar da Camara」

1673年12月29日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>サンゲル島^ドナリオ長官「Jose Rodrigo da Camara」(~17240307死去)

1674年-08:00|インドネシア| |||中・東部ジャワの大国マタラム王国アンクラット1世(位1645~1677)にマドゥラ島の王族トゥル・ノヨヨが率いる大反乱が発生、東部ジャワと中部ジャワ一部を征服、ケティリに都を定める

1674年-05:45|ネパール| |||<即位>マ(Kantipur)国王「Jayanripendra Malla」(~1680年)

1674年-05:30|インド| |||<就任>^ハルファガル国統治者(マハラット)「フラタッパ・シン」(~17081130没)

1674年-05:30|インド| |||<就任>^ルナバダ国統治者(ナ)「ヒル・シン」(~1711年没)

1674年-05:30|インド| |||<即位>コワスルタン「Sultan Muhammad Ali」(~1677年)

1674年-05:30|インド| |||ラホールで^バートシャーヒー・マスジッドが完成

1674年-05:00|パキスタン| |||<即位>^ハルティスタン国王「ムハマト・ラフィ・カーン」(1回目)⇒「シェル・カーン」(2回目~1679年)

1674年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>^ハゲダット・ワリス「ハサン・ハシャ」⇒「アブドゥル・ラーマン」(~1676年)

1674年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクコ・ワリス(総督)「Ibrahim Pasha」(~1675年)

1674年-02:00|エストニア/スウェーデン| |||<就任>スウェーデン・エストニア総督代行「ヨハン・クリストフ・シャイティング」(~同年)⇒「アントニアス・レソッ・トルステンソン」(~1681年)

1680迄 (2638件)

1674年-02:00|シリア・アラブ /トルコ| |||<就任>ダマスкас・ワリス(総督)「Qer Husein Pasha」(~1675年)
1674年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<死去>コンゴ 王国マニコンゴ「アフォンソ3世ムンバ・ア・ニミ」
1674年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>コンゴ 王国マニコンゴ「ダニエル1世ミラ・ムンガ」(~1678年中頃没)
1674年-01:00|チャド| |||<即位>バギルミ王国スルタン「Dalo Birni, Mbangi」(~1680年)
1674年-01:00|フランス| |||インド 東海岸ポント・イェリが植民地となった
1674年-01:00|イタリア/スペイン| |||シリアのメッシーナで反スペイン蜂起
1674年 00:00|イギリス| |||<死去>2代ダラム伯爵「ジョージ・ラムゼイ」
1674年 00:00|イギリス| |||<死去>4代ヒュム伯「アレクサンダー・ヒュム」
1674年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ガーンジー-島管理人「Amias Andros」
1674年 00:00|イギリス| |||<就任>3代ダラム伯爵「ウィリアム・ラムゼイ」(~1682年死去)
1674年 00:00|イギリス| |||<就任>5代ヒュム伯「ジェームズ・ヒュム」(~1687年死去)
1674年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島管理人「Sir Edmund Andros」(~17140224)
1674年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Gregory Field大佐」(~1678年)
1674年 00:00|イギリス| |||<就任>ウィンチェスター侯「チャールズ・ホーレット」(⇒16890409兼ホルトン公~16990227死去)
1674年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「セバスチャン・ウイデ・ガル・ダ・マ」(~1676年)
1674年 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>セネガル会社局長・司令官「ジャック・フメゾン」(~1682年)
1674年 00:00|イギリス| |||<就任>リッチフィールド 伯「Sir エドワード・ヘンリー・リー」(~17160714死去)
1674年 00:00|セネガル| |||<就任>ワロ統治者(フランク)「アタコ・アラム・バカル」(~1708年)
1674年 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユスティウス島イギリス司令官「Peter Batterie」(~1680年)
1674年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フータ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「バルトロム・エ・ゴンサレス・イ・ホペダ」(~1687年)
1674年 04:00|セントルシア/フランス| |||<制定>セントルシアをマルティニーク島の属領としてフランス王室植民地に
1674年 04:00|グレナダ/フランス| |||<制定>フランス王室植民地グレナダ
1674年1月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツ・ゾンメルン=カイザースラウテルン公「ルートヴィヒ・ハインリヒ・モリッツ」33歳
1674年1月7日-09:00|日本|京都府京都市左京区|延宝1年12月|京西陣法意日慶入道京要法寺の正本尊を造立
1674年1月7日-08:00|中国| ||清・康熙12年12月|北京で朱三太子を自称する楊起隆の反乱計画が発覚
1674年1月12日-01:00|イタリア| |||<死去>ジャコモ・カリッシミ、イタリアの作曲家(生年1605年)
1674年1月18日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|延宝1年12月12日|<交替>但馬出石藩45000石「小出吉重」隠居⇒長男「小出英安」が継ぐ(⇒弟「英直」に1500石を分与し43500石⇒元禄4(1691)年12月26日、55歳で死去)
1674年1月20日-09:00|日本|三重県伊勢市|延宝1年12月14日|<伊勢山田延宝元年の大火>(～15日)上中の郷大間広の出屋敷、鉈屋の世古に住む左次兵衛の家から出火、中之郷表に燃え広がり、下中之郷の大半、八日市場通の両側、宮後表通を全焼/また押世古の大半、中世古町表も灰にした上、田中町にも延焼、下馬所前野の大半を焼いて翌日の卯の下刻(午前7時ごろ)ようやく鎮火/1人死亡、1346軒が焼失
1674年1月24日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト総督「コンラッド・クル」(~1677年)
1674年1月29日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝1年12月23日|<就任>老中「阿部正能」(~延宝4年6月6日)
1674年2月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<死去>マリアナ諸島知事「Francisco Ezquerri」
1674年2月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Pierre Coomans」(~6.16死去)
1674年2月6日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙13年|朝鮮で甲寅礼訴で西人が肅清され南人政権が成立
1674年2月12日-08:00|インドネシア| |||インドネシア・アンボイ(モルッカ島)地震津波、死者2342人
1674年2月19日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス/オランダ| ||トバゴはウェストミンスター条約によりオランダに戻される
1674年2月19日-01:00|オランダ/イギリス| ||ユリウス暦2月9日|イギリスとオランダが再びウェストミンスター条約を結び、第3次英蘭戦争が終結
1674年2月22日-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・シャブラン、フランスの詩人(生年1595年)
1674年2月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>マティアス・ヴェックマン、ドイツの作曲家(生年1616年頃)
1674年3月7日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<死去>プエルトリコ知事兼提督「Gaspar de Arteaga y Aunaovida」
1674年3月7日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ暫定知事兼提督「Diego de Robladillo y Velasco」(同年)
1674年3月8日-09:00|日本| ||延宝2年2月|宿駅駄賃及び撰銭等の禁令を下す(新銭4貫文=金1両に定め、古銭の通用を禁止)
1674年3月19日-09:00|日本|愛媛県松山市|延宝2年2月12日|<死去>伊予松山藩15万「松平定長」(生年1640年)⇒養子「松平定直」が継ぐ(⇒享保5年10月25日(17201124)、死去)
1674年3月26日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「アントニオ・デ・ロドリゴ・イ・ゴメス」(~16780725)
1674年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッジョーニ」「フランチェスコ・マリ」
1674年4月1日-09:00|日本|愛媛県大洲市|延宝2年2月25日|<交替>伊予大洲藩5万石「加藤泰興」隠居⇒嫡孫「加藤泰恒」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年7月9日、死去)
1674年4月4日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ホウイス伯「ウィリアム・ハーバート」(⇒16870324初代ホウイス侯~16960602死去)
1674年4月4日-09:00|日本|京都府京丹後市|延宝2年2月28日|<死去>丹後峰山藩11600石「京極高供」⇒長男「京極高明」が継ぐ(⇒元禄12(1699)年4月29日、隠居)
1674年4月6日-08:00|中国| ||清・康熙13年3月|耽精忠が呉三桂の「排満復明」反乱に参加、自立し裕民(-1676)と建元

1680迄 (2638件)

1674年4月15日-09:00|日本|青森県八戸市|延宝2年3月10日|八戸で強震/家屋倒壊多数
1674年4月23日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|延宝2年3月18日|<交替>但馬豊岡藩33000石「京極高盛」隠居⇒弟「京極高住」が継ぐ(⇒正徳4(1714)年7月29日、隠居)
1674年4月27日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「ファン・フランシスコ・サエンズ・デ・パスクス・デ・キンタニラ・イ・センデ・イン・デ・ソトマヨール」(1回目~1679年1月)
1674年4月29日-09:00|日本|福井県福井市|延宝2年3月24日|<死去>越前福井藩45万石「松平光通」自殺⇒5月6日、弟「松平昌親」が継ぐ(自領吉江藩25000石を加え47万5千石⇒延宝4(1676)年7月21日、隠居)
1674年5月 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ケレコリー・フィールド」(~16780619)
1674年5月8日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ガラショザ島ドナトリア長官「Pedro Sanches Farinha e Baena」(~1703年死去)
1674年5月15日-09:00|日本| ||延宝2年4月10日|(~11日)畿内大風雨、加茂川、桂川氾らんし三条大橋が押し流される
1674年5月21日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド国王「ヤン3世レキ」(~16960617死去66歳)最も有名なポーランド王の一人
1674年5月31日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金寿興」(~8.17)
1674年5月31日-09:00|日本|岡山県津山市|延宝2年4月26日|<交替>美作津山藩18万6500石「森長継」隠居⇒三男「森長武」が継ぐ(⇒延宝4(1676)年4月、弟「長俊」に津山新田藩15000石を分与⇒貞享3(1686)年5月27日、隠居)
1674年6月 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官代行「バジエット・ミーギン」(~1675年)
1674年6月2日 07:00|日本|秋田県|延宝2年4月28日|<出羽久保田延宝2年の大火>(~29日)寅の下刻(16時ごろ)、城下、町人町の外町四丁目、広島屋仁左衛門方から出火、翌日の未の下刻(14時ごろ)に鎮火するまで城下の大半を焼失/被害は31町、屋敷数983軒、家数にして1960軒、土蔵45棟、寺4か所
1674年6月4日-01:00|オランダ| |||<死去>ヤン・リーフェンス、オランダの画家(生年1607年)
1674年6月5日-09:00|日本| ||延宝2年5月2日|幕府が、僧侶に対する土地・家屋の貸与を禁ずる
1674年6月9日-09:00|日本|福井県鯖江市|延宝2年5月6日|<廃藩>越前吉江藩25000石「松平昌親」宗家福井藩を相続し統合
1674年6月11日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウケウ国王「ウガバウ」(~16850416)
1674年6月14日-01:00|フランス| |||<死去>マラン・ロッド・ゴンバヴィル、フランスの詩人、小説家(生年1600年)
1674年6月16日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<死去>マリアナ諸島知事「Pierre Coomans」
1674年6月16日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Damian de Esplana」(1期目~16760610)
1674年6月16日-05:30|インド| |||<就任>マラッタ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シヴァージー-1世」ムガル帝国から脱退建国(~16800405没)
1674年6月18日 05:00|コンビニア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ大統領・総督・総司令官「サントフェ大審問院」(~16790104)
1674年6月20日-09:00|日本|福岡県久留米市|延宝2年5月17日|(~18日)筑後川氾濫し久留米大洪水、御下川に人馬流れる
1674年6月25日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ローダー・テイル公・2代ローダー・テイル伯・初代キルフォード伯「ジョン・メイトランド」(~16820824死去)
1674年6月30日-09:00|日本|新潟県長岡市|延宝2年5月27日|<死去>越後長岡藩74000石「牧野忠成」40歳⇒長男「牧野忠辰」が継ぐ(⇒享保6(1721)年8月25日、隠居)
1674年7月1日-09:00|日本|山口県岩国市|延宝2年5月28日|前年10月に竣工した錦帯橋が洪水で流失
1674年7月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>グェルテンベルク公「エーバーハルト3世」
1674年7月2日-01:00|ドイツ| |||<即位>グェルテンベルク公「グィルヘルム・ルートヴィヒ」(~16770623死去)
1674年7月4日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙13年6月|鄭經が泉州攻略
1674年7月8日 00:00|イギリス| |||<死去>ヘンツェルック伯・モンゴメリ伯「ウィリアム・ハーバート」
1674年7月8日 00:00|イギリス| |||<就任>ヘンツェルック伯・モンゴメリ伯「フィリップ・ハーバート」(~16830829死去)
1674年7月13日-09:00|日本|福島県会津若松市|延宝2年6月10日|会津藩が会津若松城内に藩営学問所「講所」を設置
1674年7月14日-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「アン・ノン1世」(~12月)
1674年7月14日-09:00|日本|京都府|延宝2年6月11日|京都おびただしき雷鳴と豪雨の後、梅ほどの大きさの雹が降り、雹に当たって人や馬が死亡
1674年7月15日-09:00|日本|大阪府|延宝2年6月12日|枚方から大坂にかけて雷雨、11、2か所に落雷、死亡者が出る
1674年7月17日-09:00|日本| ||延宝2年6月14日|(13日~)山城南部から摂津、河内、大和一帯が大風雨にさらされ淀川水系全域と大和川が氾濫、京都及び枚方から大坂、堺にかけて大洪水/17か所の堤防が決壊、京都では人馬水溺死数を知らずとなり、大坂では天満橋、京橋、天神橋などが崩壊/河内、大和など氾らんして民屋の棟を水越して、溺死数多く、大坂の野田という所の町家ことごとく流れ、溺死おびただし/溺死するもの幾万人とも数知れず未曾有
1674年8月8日-09:00|日本|富山県富山市|延宝2年7月7日|<死去>越中富山藩10万石「前田利次」⇒次男「前田正甫」が継ぐ(⇒宝永3(1706)年4月19日、死去)⇒次男「前田利興」が継ぐ(⇒享保9(1724)年7月18日、隠居)
1674年8月12日-01:00|フランス| |||<死去>フィリップ・ド・シャンパーニュ、フランスの画家(生年1602年)
1674年8月13日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<再任>イギリス領サカワイ植民地総督「ジョゼフ・ウェスト」(~1682.10)
1674年8月13日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領サカワイ植民地総督「ジョン・イマーズ」

1680迄 (2638件)

1674年8月15日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「カステラル伯バルサル・デ・ラケバ・エンリクス」(~16780707)
1674年8月20日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督代理「Baltasar Figuerola y Castilla」(~1675年)
1674年8月27日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「許積」(~16800430)
1674年8月27日-03:00|マダガスカル/フランス| |||フランスがドファン砦(トラノ)を放棄
1674年8月31日-09:00|日本|東京都|延宝2年8月|<死去>二代目中村勘三郎
1674年9月-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラ・ワリス「シラタル・フェイン・パシャ」(1回目~1677年8月)
1674年9月-01:00|オランダ| |||レーウェンフックが顕微鏡でバクテリアを観察
1674年9月6日-05:30|インド/ポルトガル/オランダ| |||ポルトガル領サントメ・デ・メリアポレがオランダに再占領された(~10月)
1674年9月8日-09:00|日本|茨城県行方市|延宝2年8月9日|<交替>常陸麻生藩3万石「新庄直時」隠居⇒甥「新庄直矩」が継ぐ(直時に7千石分知し23000石⇒延宝4年4月30日(16760611)死去継嗣筋違いにより改易)
1674年9月9日 00:00|イギリス| |||<死去>初代インチキン伯「マロー・オブ・ライエン」
1674年9月9日 00:00|イギリス| |||<就任>2代インチキン伯「ウィリアム・オブ・ライエン」(~16920116死去)
1674年9月13日 04:30|ペネエラ/スペイン| |||<死去>スペイン領ペネエラ総督「Francisco Davila Orejon y Gaston」
1674年9月13日 04:30|ペネエラ/スペイン| |||<就任>スペイン領ペネエラ総督「Pedro Jaspe de Montenegro + Diego Fernandez de Araujo」(~16750101)
1674年9月16日-09:00|日本| ||延宝2年8月17日|幕府が京都吉田家の位階執奏を禁じ、奈良興福寺寺務職および社家位階制を定める
1674年9月16日-09:00|日本|広島県広島市|延宝2年8月17日|広島大暴風雨. 城下ほとんど浸水. 流失全壊家屋7527軒, 損家1208軒, 死者65人
1674年9月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙13年8月18日|<死去>李氏朝鮮国王「顕宗」
1674年9月20日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 弁務官代行「フランソワ・マルタン」(1回目~16750222)
1674年9月22日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・康熙13年8月23日|<即位>李氏朝鮮国王「肅宗」14歳(~17200713死去)
1674年9月23日-09:00|日本|滋賀県長浜市|延宝2年8月24日|<死去>近江小室藩12460石「小堀正之」⇒11月15日、長男「小堀政恒」が継ぐ(⇒元禄7(1694)年1月2日、死去)
1674年9月25日-09:00|日本|東京都中央区|延宝2年8月26日|<死去>二代目中村勘三郎
1674年9月30日-09:00|日本| ||延宝2年9月|『しのだづま・つりぎつね付あべノ清明出生』作・伊藤出羽掾/人形浄瑠璃、陰陽師物の初作か
1674年10月-01:00|オランダ| |||<就任>メーゲン伯「アレクサンダー・グラーフ・ツー・フェレン」(~16751008没)
1674年10月 00:00|イギリス| |||<死去>11代エロル伯「ギルバート・ヘイ」
1674年10月 00:00|イギリス| |||<就任>12代エロル伯「ジョン・ヘイ」(~17041230死去)
1674年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「マルクアントニオ・ゴジ」
1674年10月1日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ノサンバーランド伯「ジョージ・フィッツロイ」チャールズ2世の私生児(⇒16830406ノサンバーランド公~17160628死去嗣子なく廃絶)
1674年10月3日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メラ総督「Pedro Moreo」(~1675年)
1674年10月5日 00:00|イギリス| |||<就任>初代セックス伯「ハリー・レンナード」(~17151030死去)
1674年10月15日 00:00|イギリス| |||<埋葬>ロバート・ヘリック、イングラントの詩人(生年1591年)
1674年10月16日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|延宝2年9月17日|宇和島城下で大火、佐伯町が全焼
1674年10月22日-01:00|オランダ| |||<死去>ヘルブラント・ファン・デン・エークハット、オランダの画家(生年1621年)
1674年10月26日-09:00|日本|岐阜県恵那市|延宝2年9月27日|<死去>美濃岩村藩19000石「丹羽氏純」⇒長男「丹羽氏明」が継ぐ(⇒貞享3(1686)年3月3日、死去)
1674年10月27日 00:00|アイスランド| |||<死去>ハルグ・リムル・ピエトゥルソン、アイスランドの司祭、詩人(生年1614年)
1674年10月29日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙13年10月|鄭經が章州攻略
1674年10月29日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・徳元1年10月|大越後黎朝10代・嘉宗が徳元と改元(-1675)
1674年11月1日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ジョナサン・アトキンス卿」(~1680. 4)
1674年11月4日-09:00|日本|東京都|延宝2年10月7日|<死去>狩野探幽(73歳、慶長7(1602)0114生)絵師
1674年11月8日 00:00|イギリス| |||<死去>イングラントの詩人ジョン・ミルトン(65歳、16081209生)「失樂園」
1674年11月10日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領東ニュージャージー総督「フィリップ・カーレット」(~1682. 12死去)
1674年11月10日 06:00|アメリカ/イギリス/オランダ| |||<退任>オランダ領ニューネデルラント総督「アンソニー・コルグ」ニューネデルラントは完全にイギリスに割譲
1674年11月22日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Jacob de la Haye」(~12. 1)
1674年11月26日-09:00|日本|新潟県五泉市|延宝2年10月29日|<死去>越後村松藩3万石「堀直吉」⇒次男「堀直利」が継ぐ(⇒正徳元(1711)年、隠居)
1674年11月28日-09:00|日本|東京都中央区|延宝2年11月|相模三崎村ほか17浦の漁民が江戸本小田原町・本船町の魚問屋と口銭をめぐる争い、本材木町に新肴場を開設
1674年12月-01:00|フランス| |||フランス西インド会社が破産
1674年12月 04:00|グアドループ/フランス| |||グアドループはフランス王領植民地
1674年12月 04:00|マルティニーク/フランス| |||マルティニークはフランス王領植民地
1674年12月1日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Henry Esse d'Orgeret」(~16780617死去)
1674年12月9日 00:00|イギリス| |||<死去>初代クラレンドン伯「エドワード・ハイト」
1674年12月9日 00:00|イギリス| |||<就任>2代クラレンドン伯「ハリー・ハイト」(~17091031死去)
1674年12月13日-09:00|日本|京都府綾部市|延宝2年11月16日|<交替>丹波綾部藩19500石「九鬼隆季」隠居⇒長男「

1680迄 (2638件)

九鬼隆常」が継ぐ(⇒元禄11 (1698) 年4月1日、死去)

1674年12月13日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|延宝2年11月16日|<交替>陸奥国棚倉藩5万石「内藤信良」隠居⇒再従弟「内藤式信」が継ぐ(⇒宝永2 (1705) 年4月22日、駿河田中藩5万石に移封)

1674年12月17日-01:00|ト・イツ| ||<死去>アレンベルク公「フィリップ・フランツ」

1674年12月17日-01:00|ト・イツ| ||<即位>アレンベルク公「カール・オイゲン」(~1681年)

1674年12月19日 00:00|イギリス| ||<死去>クレントンが逃亡先のルアンで/66歳(誕生16080228) イギリスの政治家で大法官、歴史家

1674年12月27日-09:00|日本| ||延宝2年12月|<刊行>関孝和「発微算法」

1674年12月27日-08:00|中国| ||清・康熙13年12月|陝西提督の王輔臣が呉三桂に呼応して反乱をおこす

1674年12月28日-07:00|カンボジア| ||<即位>カンボジア王国国王「チェッタ4世」(1回目~1695年)

1675年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Willem Korput」(~1676年)

1675年-08:00|マレーシア| ||<即位>クランタン・ラジャ「スルタン・オマル・イブニ・アルマフム・ラジャ・サティ」(~1721年10月没)

1675年-08:00|インドネシア| ||<即位>サンバース国スルタン「Muhammad Shafi ud-din1世」(~1685年)

1675年-08:00|インドネシア| ||<即位>テルナテ・スルタン「Sibori Amsterdam」(~1689年)

1675年-07:00|タイ| ||<即位>ランナー王「チェフタライ」(~1707年)

1675年-05:30|インド| ||<就任>カンパラ国ラジャ「ナヤン・シン・マンラージ」(~1709年)

1675年-05:30|インド| ||<就任>サウアンティイ国統治者(サル・デサイ)「ケム・サウアン2世」(~1709年2月没)

1675年-05:30|インド| ||<就任>バルワニ国統治者(ラ)「ジョト・シン」(~1700年没)

1675年-05:30|インド| ||<就任>パンナ国ラジャ「チャトラサル」(~1731年)

1675年-05:30|インド| ||<即位>タンジャール・マラーター王国国王「ウ・イヤンコージー」(~1684年死去)

1675年-04:00|ジョージア| ||<死去>カルトリ王「ウ・ファタンク5世」

1675年-03:00|エチオピア| ||<即位>カファ帝国カフィ・アティオ「ガリ・ギ・ネヨ」(~1710年)

1675年-03:00|マダガスカル| ||<即位>メリナ王国君主「King Andriamasinavalona」(~1710年)

1675年-03:00|ケニア| ||マサイ人がケニアまで南下

1675年-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「セベシ・アフメト・パシャ」(~1676年、徴税中の暴力により軍に投獄された)

1675年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ibrahim Pasha2世」(~1676年)

1675年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・テ・クアマ、モモタパ 総司令官「アントレ・ピント・ダ・フォンセカ」⇒代行「マヌエル・ダ・シルバ・アギアル」(~1676年)

1675年-02:00|ギリシャ/トルコ| ||<就任>ヨアニナ・ワリス(総督)「ムスタファ・パシャ」(~1702年)

1675年-02:00|ルワンダ| ||<即位>ルワンダ王国ムワミ「キリマ2世ルンギラ」(~1708年)

1675年-02:00|ブルンジ| ||ツチ族の王ンタレ・ルンギラがブルンディに王都を建設

1675年-01:00|チュニジア| ||<死去>ムラート朝バエイ「ムラート2世」

1675年-01:00|オランダ/ベルギー/スペイン| ||<就任>スペイン領ネーデルラント・ベルギー総督「ビジャエルモサ公爵カルロス・デ・アラゴン・テ・ケレア・イ・ボルハ」(~1677年12月)

1675年-01:00|ポスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ポスニア総督「ハチ・ベクル・パシャ」(~1677年)

1675年-01:00|チュニジア| ||<即位>ムラート朝バエイ「ムハンマド2世アルムラティ」(~16961014死去)

1675年-01:00|フランス| ||カッシーニが土星の輪に間隙のあることを発見

1675年-01:00|オランダ/スリランカ| ||キャンティイ王国のラジャシンハ2世とオランダとの間に、休戦協定が結ばれる

1675年-01:00|デンマーク/スウェーデン| ||スウェーデン戦争(~1679)

1675年-01:00|フランス/インド| ||フランス東インド会社がボンテ・イシェリーに商館を建設

1675年 00:00|イギリス| ||<就任>4代パース伯「ジェームズ・ドラモンド」先代の息子(⇒17011017初代パース公(ジャコバイト)~17160511死去非ジャコバイト爵位剥奪)

1675年 00:00|モロッコ/イギリス| ||<就任>タンジール長官「インキン伯ウィリアム・オブ・ライエン」(~1680年)、代行「ハームズ・フェボーン卿」(~1680年)

1675年 00:00|フェロー諸島/デンマーク| ||<就任>フェロー諸島領土執行使(ト・スハウ)「Christopher Johansen Heideman」(~1680年)

1675年 00:00|ポルトガル| ||ポルトガルのマセドが「王国への技術導入に関する論考」刊

1675年 04:00|アンティグア・バール・ブーダ/イギリス| ||<就任>アンティグア副総督「ロランド・ウィリアムズ」(1回目~1678年)

1675年 04:00|モントセロ/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督代理「John Carroll」(~同年)

1675年 04:00|グレナダ/フランス| ||<就任>グレナダ 総督「ランデ 侯爵ピエール・ド・サント・マルト」(~1679年)

1675年 05:00|パナマ/スペイン| ||<就任>パナマ大審問院総督・長官「フランシスコ・ミゲル・デ・マリチャール・イ・ウ・アレホ」(2回目~1676年)

1675年 06:00|アメリカ/スペイン| ||<就任>スペイン領ニューレオン総督「Juan Francisco Trevino」(~1679年)

1675年 06:00|ニカラガ/スペイン| ||<就任>ニカラガ総督「ロウのポール」(~1681年)

1675年 06:00|アメリカ| ||先住民指導者ホープは反乱を組織。21人の聖職者をふくむ400人の入植者を殺害。サンタフェを包囲

1675年1月1日 04:30|ベネズエラ/スペイン| ||<就任>スペイン領ベネズエラ総督「Manuel Felipe de Tovar y Banas de Mendieta + Domingo Galindo y Sayas」(~16770101)

1675年1月5日-01:00|フランス| ||チュレンヌ元帥がチュルハイムの戦いでブランデンブルグ軍を破る

1675年1月12日-01:00|ルクセンブルグ/スペイン| ||<死去>スペイン領ルクセンブルグ 総督兼総司令官「シメイとクロイ・ダレンベルク公フィリップ・ト・リニユ・アレンベルク」

1680迄 (2638件)

1675年1月12日-01:00|ルクセンブルグ/スペイン| |||<就任>スペイン領ルクセンブルグ 総督兼総司令官代行「ゲランケル男爵ジャン・シヤルル・クレティアント・サンダース・エル・グーニ」(同年)⇒総督兼総司令官「ヨハン・フランツ・デ・ジ・デ・リクス・フルスト・フォン・ナッサウ・ジークン」(1680年)

1675年1月22日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|延宝2年12月27日|<死去>備中庭瀬藩21000石「戸川安宣」27歳⇒翌年3月23日、長男「戸川安風」が継ぐ(弟「達富」に1千石を分与し2万石⇒延宝7年11月2日(16791204)死去無嗣断絶)

1675年1月25日-09:00|日本|島根県浜田市|延宝2年12月30日|<死去>石見浜田藩5万石「松平(松井)康映」⇒翌年2月25日、三男「松平康宣」が継ぐ(⇒延宝4(1677)年12月15日、弟「康明」に新田2000石を分与⇒宝永2(1705)年1月27日、隠居)

1675年1月26日-08:00|中国| |||清・康熙14年|<就任>チベット摂政「ロサン・ジンパ」(1679年)

1675年1月26日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「トメニコ・コンタリーニ」

1675年2月6日-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドーージェ(元首)「ニコロ・サクレート」(16760814死去)

1675年2月9日-01:00|オランダ| |||<死去>ヘルト・ド・ウ、オランダの画家(生年1613年)

1675年2月13日-09:00|日本|広島県三次市|延宝3年1月19日|<死去>備後三次藩5万石「浅野長治」⇒3月23日、甥「浅野長照」が継ぐ(⇒元禄4(1691)年12月2日、隠居)

1675年2月20日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|延宝3年1月26日|<死去>播磨赤穂藩5万石「浅野長友」33歳⇒3月25日、嫡男「浅野長矩」が継ぐ(⇒元禄7年8月21日(16941009)、弟「長広」を仮養子に迎え入れ新田3000石を分知⇒元禄14年3月14日(17010421)切腹改易)

1675年2月22日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 弁務官「フランソワ男爵」(5.5)

1675年2月24日-09:00|日本|静岡県富士宮市|延宝3年1月30日|重須書院より出火5ヶ坊・山門等焼失、前後11回何れも放火による/重須放火犯学頭日然逃走

1675年3月7日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サテニアゴ 副総督代行「ヘンリー・モーガン卿」(1回目14日)

1675年3月9日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ダンバートン伯「ジョージ・ダグラス」(16920320死去)

1675年3月14日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サテニアゴ 副総督「ジョン・ウーオン、ウーオン卿」(16780314)

1675年3月16日-01:00|フランス| |||<死去>ギーズ公・ジョウユース公「フランソワ・ジョゼフ」

1675年3月16日-01:00|フランス| |||<即位>ギーズ公「マリー」(16880303死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝コーター＝アルテンブルク公・ザクセン＝コーフブルク公「エルスト1世敬虔公」

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝アイゼンベルク公「クリスティアン」(17070428死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝コーフブルク公「アルブレヒト」ザクセン＝コーター公「エルスト1世」の息子(16990806死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝コーター＝アルテンブルク公「フリードリヒ1世」(1680年まで、6人の弟と共同統治。1680年に弟に領土分与16910802死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ヒルトブルクハウゼン公「エルスト」(17151017死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝マインゲン公「ヘルマン1世」(17060427死去)

1675年3月26日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝レムヒルト公「ハインリヒ」(17100513死去)

1675年4月-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「リクワ・ファン・ゴッス・デ・ヨング」(16791202)

1675年4月-01:00|フランス| |||フランスで印紙税一揆

1675年4月 00:00|イギリス| |||<死去>ウォリック伯・ホランド伯「ロバート・リッチ」

1675年4月 00:00|イギリス| |||<就任>ウォリック伯・ホランド伯「エドワード・リッチ」先代の息子(17010731死去)

1675年4月 02:00|英領SG・SS諸島/イギリス| |||サウスジョージアはイギリスの商人アンソニー(アントニオ)デラロシュによって発見され、後にロシュ島と名付けられた

1675年4月1日-01:00|サマリナ| |||<就任>サマリナ共和国執政「パオロ・アントニオ・オフリ」(ジョヴァンニ・セラフィニ)

1675年4月6日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Alonso de Campos y Espinosa」(1678年死去)

1675年4月23日-07:00|日本|富山県|延宝3年3月29日|<富山延宝3年の大火「細野焼」>丑の刻(午前2時頃)西田地方町の細野弥左衛門の長屋(敷地内の家来が住んでいる建物)から出火、近隣の数戸を焼いた/その後、散地町へ飛び火して町家千数百戸を焼失した後、炎は城内本丸に進入、御殿をはじめすべてを焼き尽くす/三の丸西南の枳形門から藩の米穀倉庫・赤蔵も類焼、米4000石余、大豆155石余を灰にして酉の刻(20時頃)ようやく鎮火

1675年4月26日-09:00|日本|広島県庄原市|延宝3年4月2日|安芸国三上郡庄原町残らず全焼

1675年4月27日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永治1年4月3日|<死去>後黎朝(大越)後期第10代皇帝「嘉宗」

1675年4月27日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永治1年4月3日|<即位>後黎朝(大越)後期第11代皇帝「熙宗」(1705.4讓位)永治と改元(1680年旧10月)

1675年4月29日 00:00|イギリス| |||<死去>サセツ公「ジョン・シーモア」

1675年4月29日 00:00|イギリス| |||<就任>サセツ公「フランシス・シーモア」(16780420死去)

1675年5月3日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ 植民地総督「パブロ・デ・ヒタ・イ・サラサル」(16800928)

1675年5月5日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 弁務官「フランソワ・マルタン」(2回目16810526)

1675年5月18日-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア・ベイルベ・イリ「ミルリア・イブラヒム・パシャ」(1677年1月)

1675年5月23日-09:00|日本|東京都小笠原村|延宝3年4月29日|唐船御船の船頭嶋谷市左衛門が幕命により唐船模造船で苦難の末、江戸の南方、父島など無人島を発見、父島湊内に錨をおろす

1675年5月25日-09:00|日本|島根県松江市|延宝3年閏4月1日|<死去>出雲松江藩18万6千石「松平綱隆」⇒5月晦日、四男「松平綱近」が継ぐ(⇒宝永元(1704)年5月29日、隠居)

1675年6月12日-01:00|フランス/イタリア| |||<死去>サヴォイア公「カルロ・エマヌエーレ2世」

1680迄 (2638件)

1675年6月12日-01:00|イタリア/フランス| |||<即位>サウオイア公「ウァイト・ロ・アメー・オ2世」(⇒17200217サルデーニャ王位に置かれた~17300907~17321031死去)
1675年6月12日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コースト総裁「ジョアン・ルート」(~16760913)
1675年6月14日-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>ブダのベイルベ「イシュク・アリ・パシャ」(~1677年3月)
1675年6月17日-09:00|日本|千葉県君津市|延宝3年閏4月24日|<死去>上総久留里藩2万石「土屋利直」⇒長男「土屋直樹(頼直)」が継ぐ(⇒延宝7(1679)年8月7日改易・蟄居)
1675年6月20日 06:00|アメリカ| |||ニュー・イングランドでフィリップ王戦争が勃発
1675年6月22日-09:00|日本|茨城県古河市|延宝3年閏4月29日|<死去>下総国古河藩10万石「土井利久」⇒5月晦日、叔父「土井利益」が継ぐ(7万石に減封⇒延宝9(1681)年2月25日、志摩鳥羽7万石へ転封)
1675年6月25日-09:00|日本|埼玉県行田市|延宝3年5月3日|<死去>阿部忠秋(生年1602年)前武蔵忍藩主、元老中
1675年6月28日-01:00|ドイツ/スウェーデン| |||ブランデンブルク選帝侯フリードリヒ・ヴィルヘルムが(55)が、スウェーデン軍をベルリン北東のフェルベリンで撃破、ホッメルを獲得
1675年6月28日-09:00|日本|岐阜県中津川市|延宝3年5月6日|<死去>美濃苗木藩10521石「遠山友貞」病死⇒7月6日、長男「遠山友春」が継ぐ(⇒正徳2(1712)年2月16日、隠居)
1675年7月 06:00|アメリカ| |||ヴァージニアでインディアン諸部族と植民者の戦争が勃発
1675年7月1日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「カルロス・デ・アスンシオン」(~1676年)
1675年7月2日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ロクスバラ伯「ウィリアム・カー」
1675年7月2日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ロクスバラ伯「ロバート・カー」(~16820506死去)
1675年7月11日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「アントニオ・ダ・パサーノ」(~16770711)
1675年7月11日-09:00|日本|島根県隠岐郡隠岐の島町|延宝3年5月19日|幕府、長崎代官末次平蔵父子を密貿易の咎で隠岐国に配流
1675年7月20日-09:00|日本|千葉県成田市|延宝3年5月28日|<死去>下総高岡藩11500石「井上政清」⇒8月5日、次男「井上政蔵」が継ぐ(弟「政式」に1500石を分与し1万石⇒正徳6(1716)年3月1日、死去)
1675年7月22日-09:00|日本|茨城県猿島郡|延宝3年5月30日|<廃藩>常陸下妻藩1万石「土井利益」宗家古河藩7万石を相続
1675年7月28日 00:00|イギリス| |||<就任>初代プリマス伯「チャールズ・フィッツチャールズ」(~16801017死去プリマス伯爵位廃絶)
1675年8月-01:00|フランス/イタリア/オランダ/スペイン| |||フランス艦隊がオランダ・スペイン艦隊を破ってシリアを占領
1675年8月9日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド公・マーチ伯「チャールズ・レノックス」チャールズ2世の非嫡出子(⇒9.9兼レノックス公・ダーンリー伯~17230527死去)
1675年8月10日 00:00|イギリス| |||ロンドン近郊のグリニッジに、王立天文台(グリニッジ天文台)が創設される
1675年8月12日-09:00|日本|東京都小笠原村|延宝3年6月21日|代官伊奈忠易無人島(小笠原)を探検して帰国し、珍しい動物や植物を幕府に献上
1675年8月15日-09:00|日本|東京都|延宝3年6月24日|山鹿素行、配流を赦され江戸にもどる
1675年8月27日-09:00|日本| |||延宝3年7月7日|幕府、関東8カ国の鉄砲改めを行い、農民と浪人の鉄砲所持を禁止
1675年9月 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのタートル島総督代行「キューン卿ビエール・ポール・タラン」(1回目~1676年8月)
1675年9月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ＝ヴァイルブルク伯「Frederick」
1675年9月8日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ＝ヴァイルブルク伯「John Ernst」(⇒1688年、ナッサウ＝ヴァイルブルク侯~17190227死去)
1675年9月9日 00:00|イギリス| |||<就任>レノックス公・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」リッチモンド公・マーチ伯(~17230527死去)
1675年9月10日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ササントン公・初代チェスター伯「チャールズ・フィッツロイ」(⇒17091009兼2代クリウランド公~17300909死去)
1675年9月11日 00:00|イギリス| |||<就任>初代グラトン公「ヘンリー・フィッツロイ」初代ユーストン伯(~16901009死去)
1675年9月18日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「シャルル4世(3世)」
1675年9月18日-01:00|フランス/イタリア| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「シャルル5世(4世)」兼カプリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「カルロ」ニコラ2世の次男(~16900418死去)
1675年9月23日-01:00|フランス| |||<死去>ヴァレンティヌ・コンテール、フランスの詩人、文法学者、アカデミー・フランセーズ創設者(生年1603年)
1675年9月24日-09:00|日本|静岡県藤枝市|延宝3年8月5日|<領土返還>駿河国田中藩2万石「西尾忠成」、叔父「忠知」死去により5000石還付⇒25000石(⇒延宝7(1679)年9月6日、信濃小諸藩25000石に移封)
1675年9月25日-09:00|日本|山形県鶴岡市|延宝3年8月6日|<死去>出羽松山藩2万石「酒井忠恒」⇒長男「酒井忠豫」が継ぐ(⇒享保17(1732)年11月25日、隠居)
1675年9月28日 03:00|ブラジル| |||マヌエル・ロペスが率いる280名の部隊、ハルマス掃討作戦を展開。「2千の家が立ち並ぶ町」を制圧し、逃亡奴隷45人を捕獲
1675年10月-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メリタ総督「Jose Frias」(~1680年)
1675年10月 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランドの数学者で発明家「グロリー」(誕生1638年)反射望遠鏡を発明した
1675年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・トシーニ」「ロレンツォ・ジャンギ」
1675年10月8日-01:00|オランダ| |||<就任>メーゲン伯「フェルディナント・ゴットフリート・グラーフ・ツー・フェレン」(~16850707没)
1675年10月23日-08:00|インドネシア| |||<死去>アチェ王国スルタン「タジ・ウル＝アラム女王」
1675年10月23日-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「ヌール＝アラム女王」(~16780123死去)
1675年10月27日-01:00|フランス| |||<死去>ジル＝ペルソン・ト・ロベール、フランスの数学者(生年1602年)運動力学に業績があり微積分学の先駆者の一人

1680迄 (2638件)

1675年10月29日-01:00|チェコ/ドイツ| |||<死去>アントン・レーアス・ハンマーシュミット、ホーミア出身でドイツで活動した作曲家、オルガニスト (生年1611年または1612年)

1675年11月2日 06:00|アメリカ| |||ジョシア・ウィンスロー、ナガンセット族の婦女子を大虐殺

1675年11月8日-01:00|オランダ| |||<埋葬>アールト・ファン・エフェルト・インベン、オランダの画家、版画家 (生年1621年)

1675年11月16日-09:00|日本|奈良県奈良市|延宝3年9月29日|<死去>大和柳生藩1万石「柳生宗冬」(生年1613年)⇒11月26日、次男「柳生宗在」が継ぐ(⇒元禄2(1689)年4月13日、36歳で死去)

1675年11月21日-01:00|ポーランド| |||<死去>レグニツァ公「シヨージ・ウィリアム」

1675年11月21日-01:00|チェコ| |||残りのピラスト王領レグニツァがホーミアに復帰

1675年11月22日-01:00|デンマーク| |||デンマークの天文学者オーレ・レーマーは、木星の衛星イオの公転運動を観測することから光速を算出し、その結果をパリの科学アカデミーに報告

1675年11月26日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「暫定政権:アゴスティーニョ・デ・アゼベド・モンテロ(1677年没)/アルバロ・デ・アゼベド・コレイロ/アントニオ・ゲデス・デ・ブリト/クリストヴァン・デ・フォルゴス・エ・コントレiras(1677年)」(16780315)

1675年11月28日 00:00|イギリス| |||<死去>デンビー伯「ハシル・フィールド・インク」

1675年11月28日 00:00|イギリス| |||<就任>デンビー伯「ウィリアム・フィールド・インク」(16850823死去)

1675年12月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アントニー・ラスカス・ルセット」(16781206)

1675年12月15日-01:00|オランダ| |||<埋葬>ヨハネス・フェルメール、オランダの画家 (生年1632年)

1675年12月17日-08:00|中国/台湾| ||南明・永暦29年11月|鄭成功の子・鄭經が福建漳州を占領

1675年12月24日-09:00|日本|茨城県笠間市|延宝3年11月8日|<死去>井上正利 (生年1606年) 前常陸笠間藩主、元寺社奉行

1675年12月29日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1675/12/19|イギリスでコーヒー禁止令発布/コーヒー店の反発で11日で取り消す

1676年-08:00|マレーシア| |||<死去>ハッサン・スルタン「ヤムトゥアン・ムタ・ラジャ・パシヤウ」

1676年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Willem Harthouwer」(1677年)

1676年-05:30|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「ジャック・コリエ」(1679年没)

1676年-05:30|インドネシア| |||<就任>ジャバングラ国ワル「カシム・ヤクート・カーン2世」建国(1703年没)

1676年-05:30|インドネシア| |||<即位>ジャバングラ国ワル「Kasim Yaqut Khan2世」(1703年死去)

1676年-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「シヨージ11世」(1688年)

1676年-04:00|ジョージア/イラン| |||カヘティはペルシャ(イラン)に併合(1703年)

1676年-04:00|レユニオン/フランス| |||フランス人入植者がブルボン島へ移住

1676年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット・ワリス「カフラン・ムスタファ・パシヤ・メルツィオコル」(2回目1677年)

1676年-03:00|エジプト| |||<即位>ソフ・スルタン「アリマ3世」(1711年頃)

1676年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Kara Mehmed Pasha」(1678年)

1676年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「アルバニア人アブデ・イ・パシヤ」(1680年)

1676年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Osman Pasha Bustardji」(1期目1679年)

1676年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・デ・クア、モモタハ 総司令官「シヨアン・デ・ソウザ・フレイル」(2回目1681年)

1676年-01:00|ルクセンブルク/スペイン| |||<就任>スペイン領ルクセンブルク総督兼総司令官代行「コンラン侯シャル・ド・ワトゥール・エ・ト・ジュ」(同年)

1676年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝カッセル方伯「ヘッセン＝ラインフェルス＝ローテンブルク方伯エルンスト1世の息子」カール(1711年)

1676年-01:00|クロアチア| |||<即位>ポルツァ大公「パウル・オースチチ」(1678年)

1676年 00:00|マン島/イギリス| |||<死去>マン島知事「Henry Nowell」

1676年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「アントニオ・デ・バロス・ベゼウ」(1回目1682年)

1676年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>フロリス島・コルヴォ島ナタリオ長官「Martinho de Mascarenhas」

1676年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>フロリス島・コルヴォ島ナタリオ長官「Joao de Mascarenhas」(1692年)

1676年 03:00|サンピエール島/フランス/ミクロン島| |||<死去>イレブ・サザンズ 諸島司令官「Chevalier de Maynie」

1676年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Josephus Flaccius」(1期目16801221)

1676年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ大審問院総督・長官「アロンソ・デ・マルカト・イ・ビジャコルタ」(1681年没)

1676年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「フランシスコ・デ・カストロ・イ・アヤ」(1679年)

1676年 06:00|コスタリカ| |||大西洋岸の港マティナに海賊の襲撃

1676年1月10日 03:00|日本|京都府京都市|延宝3年11月25日|<京都延宝3年の大火>午の中刻(午前12時ごろ)、内裏の西方にあたる一条上ル油小路の生駒主殿頭留守居・田中治兵衛宅から出火、一条より上立売、下加茂、河合の社(河合神社)まで、東は寺町までと公家町を中心に京都の中心部を灰にした/霊元天皇が仮内裏としていた近衛邸を始め、本院(第109代明生天皇が1643年に退位後の称号)御所の一部や新院(第111代後西天皇が1663年に退位後の称号)の仮御所の八条宮邸、後水尾法王の御殿をはじめとして、女院の東福門院御所、伏見、有栖川など宮家屋敷など67か所の公家屋敷が焼失/再建造途中だった内裏は、奉行の松平伊予守や千石因幡守をはじめ駆けつけた数百人の武士たちの働きによって類焼は免れた/京中の町家の被害は、町数で112町、家数で2602軒/強風に乗って飛び火し、火元から2km離れた鴨川の東河原へも炎が拡大、今出川通り北の下鴨、田中村での30余軒が類焼/そのほか寺院21か所、塔頭(寺院の子院など)69軒/100余人が死亡

1676年1月11日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ドロヘダ伯「ヘンリー・ムーア」

1676年1月11日 00:00|イギリス| |||<就任>第2代ドロヘダ伯「チャールズ・ムーア」(1679年)

1676年1月12日-05:30|インドネシア| |||ウイヤンコージョーはマトウライ・ナーヤ朝アタリ・ナーヤを破り、タンジャワールを占拠し自らがタンジャワールのラジャ(王)と宣言、タンジャワール・マラーター王国が成立

1680迄 (2638件)

1676年1月14日-01:00|イタリア| |||<死去>ピエトロ・フランチェスコ・カッリ、イタリアの作曲家(生年1602年)
1676年2月2日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ヨナス3世」(~16960617没)
1676年2月7日 00:00|イギリス| |||<昇格>2代アール伯「ジョン・マレー」⇒初代アール侯(~17030506死去)3代トリバー・デイン伯
1676年2月8日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月29日<死去>ロシア皇帝「アレクセイ・ミハイロヴィチ」46歳(誕生16290321)
1676年2月8日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月29日<即位>ロシア皇帝「フョードル3世」15歳。アレクセイ・ミハイロヴィチの長男(~16820427没)
1676年2月14日-09:00|日本|香川県高松市|延宝4年|松平頼重、香西郡坂田村の千光寺を高松城下に移し霊源寺と改める
1676年2月14日-01:00|フランス| |||<死去>アブラハム・ボス、フランスの画家(生年1603年前後)
1676年2月16日-09:00|日本|滋賀県彦根市|延宝4年1月3日<死去>近江彦根藩30万石(老中)「井伊直澄」(生年1625年)⇒家督は甥「井伊直興(直該)」が継ぐ(⇒元禄14(1701)年3月5日、隠居)
1676年2月26日-09:00|日本|福島県田村郡三春町|延宝4年1月13日<死去>陸奥三春藩5万石「秋田盛季」⇒次男「秋田輝季」が継ぐ(⇒正徳5(1715)年12月7日、隠居)
1676年2月27日-09:00|日本|福井県坂井市|延宝4年1月14日<死去>越前丸岡藩4万石「本多重昭」⇒長男「本多重益」が継ぐ(⇒元禄8(1695)年3月23日、家臣間の騒動の責めを問われ改易)
1676年3月11日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国大宰相代行「オーヴェ・ジューエル・ティル・ウィストルプ」(~5. 13)
1676年3月14日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ヨハン・バックス・ファン・ヘンタール」(~16780629)
1676年3月14日-08:00|中国| ||清・康熙15年2月|尚可喜の子・尚之信が呉三桂に呼応して反乱に参加
1676年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ジョーニ」「ホンペ・イ・ゾリ」
1676年4月2日-09:00|日本|石川県金沢市|延宝4年2月19日<金沢延宝4年の大火>金沢、木新保・宮腰口出火、家数1300軒ばかり焼失
1676年5月-01:00|フランス/オランダ/仏領ギアナ| |||フランス領ギアナのカイエンヌをオランダ艦隊が攻撃し、占拠
1676年5月5日 03:00|仏領ギアナ/オランダ| |||<就任>ギアナのオランダ司令官「Jacob Binckes」(~12. 20)
1676年5月5日 03:00|仏領ギアナ/オランダ| |||ギアナをオランダが占領(~12. 20)
1676年5月9日-09:00|日本|大分県大分市|延宝4年3月27日<交替>豊後府内藩22200石「松平忠昭」(隠居)⇒長男「松平近陳」が継ぐ(⇒宝永2(1705)年11月11日、隠居)
1676年5月10日 06:00|アメリカ| |||グァテマラ植民地で、農民たちがインディアン討伐軍を組織して、総督に対して反乱を起こす(ペーコンの反乱)
1676年5月11日 01:00|日本|新潟県|延宝4年3月29日<越後高田延宝4年の大火>巳の刻(午前10時ごろ)、高田城下の街の南端、伊勢町口から一丁(約110m)も離れた大崎郷高田新田の農家から出火、炎は関町へ飛んで焼け落とし、それより城下の街の方へと延び、火勢はますます激しく、廻り風(火災旋風)に乗って四方へ飛び火/府古町より本町通りの表町通り、職人町へと焼け拡がり、その裏の武家屋敷も残らず焼け落とした/西へ延びた炎は寄町の細川昌庵の隣まで延びて止まった/その時、西の風に変わって直江町あたりまでにあるおおよその町家や武家屋敷の大半が焦土と化した/侍屋敷240軒、町家37町が焼失
1676年5月13日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国大宰相「アーフレット伯爵フリーデリッ・ソール」(~16860707没)
1676年5月15日-09:00|日本|大阪府|延宝4年4月3日<加増移封>相模・下総・武蔵・常陸国内2万石「戸田忠昌」⇒畿内3万石(⇒天和元(1681)年7月、河内1万石加増され4万石)
1676年5月15日-09:00|日本|京都府京都市|延宝4年4月3日<就任>京都所司代「戸田忠昌」(⇒1681(天和1年11月15日))
1676年6月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「カール・カスパー・ル」
1676年6月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「ヨハン8世」(~17110106死去)
1676年6月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハウル・ゲルハルト、ドイツの賛美歌作詞家(生年1606年)
1676年6月7日-09:00|日本|岡山県津山市|延宝4年4月25日<立藩>美作津山新田藩15000石「森長俊」津山藩から分与(⇒貞享元(1684)年10月21日、正式に公認された⇒元禄10(1697)年10月19日、播磨三日月藩に移封)
1676年6月9日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マダガスカル総督「Alexandre de Moura e Albuquerque」(~16800410)
1676年6月10日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事代理「Francisco de Irisarri y Vivar」(~16780621)
1676年6月11日-09:00|日本|茨城県行方市|延宝4年4月30日<死去改易>常陸麻生藩23000石「新庄直矩」継嗣筋違いにより
1676年6月12日-09:00|日本| ||延宝4年5月|藤林左式次保武が忍術の百科全書「万川集海」を著す
1676年6月15日 04:00|セント・マルテン/サン・マルタン/オランダ| |||オランダがセント・マルテン、サン・マルタン島全体を占領(~30日)
1676年6月15日-09:00|日本|岐阜県郡上市|延宝4年5月4日<死去>美濃八幡藩24000石「遠藤常友」49歳⇒次男「遠藤常春」が継ぐ(⇒元禄2(1689)年3月24日、死去)
1676年6月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領コネチカット植民地総督「ウィリアム・リット」(~1683年)
1676年6月17日-09:00|日本|広島県|延宝4年5月6日<延宝4年梅雨前線豪雨>(~7日)広島領内で洪水が起こり、道路、橋梁、堤防の破壊は多大、田畑損耗は3万7000石余、流出全壊家屋1122軒、死者7人
1676年6月18日-09:00|日本|京都府京都市|延宝4年5月7日<延宝4年梅雨前線豪雨>京都では加茂川の堤防が決壊し、洪水で堀川あたりの家々が多く流失/五条・三条両大橋流出
1676年6月30日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「ジョアン・カドロー・ゾ・ピサロ」(~8. 20没)
1676年6月30日 04:00|セント・マルテン/サン・マルタン/フランス| |||フランスがセント・マルテン、サン・マルタン島全体を占領(~16900127)
1676年7月1日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督「チャールズ・クリンクワース」(~1677年)

1680迄 (2638件)

1676年7月11日-08:00|中国| ||清・康熙15年6月|王輔臣が清に降伏
1676年7月11日-09:00|日本|山形県鶴岡市|延宝4年6月1日|幕府が庄内・羽黒山に山伏法度を出す
1676年7月12日-09:00|日本|島根県鹿足郡|延宝4年6月2日|石見で大地震/津和野城に被害/家屋133戸倒壊、海土手936間が崩れる
1676年7月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン=イッサー方伯「ゲオルク3世」1代で断絶
1676年7月22日-01:00|バチカン| |||<死去>238代ローマ教皇クレメンス10世[1590年07月12日生~](享年86)
1676年7月27日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メーランド 植民地総督「トマス・ナトリ」(~1679年)
1676年7月31日-09:00|日本|茨城県行方市|延宝4年6月21日|<再立藩>常陸麻生藩1万石「新庄直時」(⇒延宝5年7月27日(16770825)死去)
1676年8月 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント島総督「フアンセ卿ジャック・ヌヴェー・ド・フアンセ」(2回目~1681年8月)
1676年8月5日-09:00|日本|愛媛県今治市|延宝4年6月26日|<交替>伊予今治藩4万石「松平(久松)定房」隠居⇒次男「松平定時」が継ぐ(⇒同年8月19日、死去)
1676年8月9日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|延宝4年6月30日|<交替>出羽本荘藩2万石「六郷政勝」隠居⇒長男「六郷政信」が継ぐ(⇒貞享2(1685)年7月21日、死去)
1676年8月12日 06:00|アメリカ| |||ワムパノ族の大酋長マカムが射殺され、マカムの戦いが終焉
1676年8月13日-09:00|日本| ||延宝4年7月4日|<延宝4年7月台風>(~5日)大風、洪水にて、44万2634石(尾張藩表高61万9500石の71%)、圃(畑)2023町(20平方km)害をこうむり、屋舎(家屋)2417流失し、男女18人、馬30匹溺死
1676年8月14日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ニコラ・ザベレド」
1676年8月15日-03:00|イェメン| |||<死去>ラーシー朝イマム「al-Mutawakkil Isma'il」
1676年8月15日-03:00|イェメン| |||<即位>ラーシー朝イマム「アルマフディ・アフマド・ヒン・アルハサン」アルムタキル・イスマイルの甥(~16810629死去)
1676年8月16日-09:00|日本| ||延宝4年7月7日|幕府が、関東8カ国の鉄砲改めを行う/農民と浪人の鉄砲所持が禁止
1676年8月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハンス・ヤーコフ・クリストッフェル・フォン・グリンメルスハウゼン、ドイツの作家(生年1621年)
1676年8月20日 01:00|カーホ・ベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーホ・ベルデ 総督「商工会議所上院+フレイアントニオ・デ・S. デイオニウス」(~1678年4月)
1676年8月25日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「エラス・デ・サルダニャ・デ・スザ・エ・メネス」(~16800911)
1676年8月26日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「アルヴィーゼ・コンタリニ」(~16840115死去)
1676年8月28日-01:00|スペイン| |||<死去>ジョアン・セロロル、ガルーニャの修道士、作曲家(生年1618年)
1676年8月30日-09:00|日本|福井県福井市|延宝4年7月21日|<交替>越前福井藩47万5千石「松平昌親」隠居⇒甥「松平綱昌」が継ぐ(⇒貞享3(1686)年閏3月6日、狂気を理由に蟄居)
1676年9月-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・ジャック・ド・ジヤン、フランスの著述家(生年1626年)
1676年9月1日 04:00|トリニダード・トバゴ/オランダ| |||(~16771212)オランダ 植民地がオランダのオランダ州により再建
1676年9月13日 00:00|カーナ/オランダ| |||<就任>オランダ 領ゴールド・コースト総裁「ハーマン・アブラムセン」(~16800326)
1676年9月18日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|延宝4年8月11日|<死去>日向国佐土原藩3万石「島津忠高」26歳⇒従弟「島津久寿」が継ぐ(⇒元禄3(1690)年5月29日、隠居)
1676年9月21日-01:00|バチカン| |||<就任>第240代ローマ教皇「インノケンティウス11世」(~16890812死去)
1676年9月23日-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿国務長官「アルテラノ・サイボ」(~16890812)
1676年9月26日-09:00|日本|愛媛県今治市|延宝4年8月19日|<死去>伊予今治藩4万石「松平定時」⇒10月25日、次男「松平定陳」が継ぐ(弟「定道」へ5000石分知し35000石⇒元禄15(1702)年9月6日、36歳で死去)
1676年9月30日-01:00|ベルギー/フランス| |||ブイオンをフランスが占領(~16780501)
1676年10月-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督代行「イェンス・ユエル・ティル・フォルスレヴガート・ティル・ジュエリング」(~1683年1月)
1676年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ロドヴィコ・ベルツィ」
1676年10月6日-09:00|日本|愛知県岡崎市|延宝4年8月29日|<死去>三河岡崎藩4万石「水野忠善」⇒10月、長男「水野忠春」が継ぐ(⇒元禄5年10月15日(16921122)死去)
1676年10月18日 06:00|アメリカ| |||ペーコンが死に、ゲージニアの反乱が分解
1676年10月19日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「メルジ・フォン・カラ・ムスタファ・パシャ」(~16831225)
1676年10月19日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「フェリペ・レジェ・コルグアラン」(2回目~16811007)
1676年10月27日-01:00|ポーランド/ウクライナ/トルコ/リトアニア| |||ポーランド・リトアニア共和国が、オスマン帝国と休戦協定を結ぶ(ジュラウノ和約)/ポーランド 領ウクライナの一部がオスマン帝国に併合される
1676年10月28日-01:00|フランス| |||<死去>ジャン・デ・マレト・サン・ソラン、フランスの小説家、劇作家(生年1595年)
1676年11月2日-01:00|チェコ| |||<死去>アダム・ヴァーツラフ・ミナ、ボヘミアの詩人、作曲家、ルガニスト(生年1600年頃)
1676年11月6日-08:00|中国| ||清・康熙15年10月|耽精忠が清に降伏
1676年11月12日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝4年10月6日|<解任>老中「阿部正能」
1676年11月22日-01:00|デンマーク| |||デンマークの数学者で天文学者のオーレ・レーマーが初めて光速度を測定/木星の衛星が木星に隠れる周期の変化と木星までの距離から光速を計算し約22万km/sという値を得る
1676年12月-01:00|フランス/オランダ/トリニダード・トバゴ/BES諸島| |||フランス軍、カイエンヌを奪回。さらにトバゴ占拠を目指す。一時トバゴを占領するが、恒久的確保には失敗
1676年12月20日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ<就任>ギアナ知事「Cyprien Lefebvre」(3期目~1679.3)
1676年12月20日-09:00|日本|三重県津市|延宝4年11月16日|<死去>藤堂高次(生年1602年)前伊勢国津藩主、藤堂

1680迄 (2638件)

高虎の嫡男

1676年12月25日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ニューカッスル=アボーン=タイン公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」
1676年12月25日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ニューカッスル=アボーン=タイン公「ヘンリー・キャヴェンディッシュ」初代公の一人息子 (~16910726死去ニューカッスル=アボーン=タイン公廃絶)
1676年12月31日-09:00|日本|福島県いわき市|延宝4年11月27日|<移転>陸奥湯本藩1万石「遠山政亮」⇒陸奥湯長谷藩1万石 (⇒延宝8 (1680) 年、2000石加増され12000石)
1677年-08:00|マレーシア| |||<死去>ジョホール・パハン・リアウ・リンガ (ジョホール帝国) スルタン「スルタン・アブドゥル・ジャリル・シャー3世」
1677年-08:00|インドネシア| |||<死去>マタラム王国「アマンクラット1世」バタヴィアに逃れる途中病死
1677年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「ロバート・Padtbrugge」 (~1682年)
1677年-08:00|マレーシア| |||<即位>ジョホール・パハン・リアウ・リンガ (ジョホール帝国) スルタン「スルタン・イブラヒム・シャー」 (~16850216死去)
1677年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<即位>マタラム王国スルタン「アマンクラット2世」オランダの傀儡 (~1703年死去) ジャワ西部フレリガン地方をVOCに割譲 (オランダの最初の領土獲得)
1677年-08:00|インドネシア| |||マタラ島の王族トゥル・バヨが率いる反乱軍はたちまち東部ジャワ一帯を征服、王都フレリットを占領
1677年-05:30|インド| |||<就任>ジャバア国ラジャ「クシャル・シン」 (~1723年)
1677年-05:30|インド| |||<即位>ゴワ=スルタン「I Mappadulu Daeng Mattimung Karaeng Sanrobone Sultan Abdul Jalil」 (~1709年)
1677年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット=ワリス「オメル・パシャ」 (1回目 ~1681年)
1677年-02:00|ラトビア| |||<就任>クールラント=ゼムガレン公国政府議長「エヴァルト・フォン・フランク」
1677年-02:00|ウクライナ/トルコ| |||オスマン朝がウクライナへ出兵し、ロシアと戦闘
1677年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||ポルトガル人2000人がモザンビークへ移住
1677年-02:00|ラトビア| |||ラトヴィアは正式にはポランド=リトアニアの州となり、リトアニアの一部として管理されているが、名目上は両国の共同所有物となる
1677年-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「ハッサン1世バハ」 (~16830722没)
1677年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ暫定総督「Antonio de Medina Chacon y Ponce de Leon」 (1期目 ~同年) ⇒総督「Diego de Portugal」 (~1678年)
1677年-01:00|リトニア/ドイツ| |||<就任>ファントウツ執行官「ヨハン・マティアス・クリストフ・ビルトシュタイン」 (~1679年)
1677年-01:00|ボスニア=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「テオフィル・アル・アフメト・パシャ」 (1回目 ~1678年)
1677年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Francesco Alberti di Polaj」 (~1689年)
1677年-01:00|オランダ| |||アントン・レーウェンフックが、顕微鏡でヒトの精子を発見
1677年 00:00|イギリス| |||<爵位名変更>3代キング・ホン伯「ハトリック・ライアン」⇒ストラモア=キング・ホン伯 (~16950515死去)
1677年 00:00|イギリス| |||<就任>4代グレイ=伯「アレクザンダー・アースキン」 (~1710年死去)
1677年 00:00|ガーナ/デนมาร์ク| |||<就任>デนมาร์ク領ゴールド=コースト長官代行「ピーター・ウィス」 (~16810202)
1677年 00:00|フェロー諸島/デนมาร์ク| |||<就任>フェロー諸島首席大臣「Jacob Johansen」 (~1679年)
1677年 04:00|グアテマラ/フランス| |||<死去>グアテマラ 知事「Charles Francois du Lyon」
1677年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領アンティル総督「Jean-Charles de Baas-Castelmoré」
1677年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督代理「sieur Jolinet」 (~同年) ⇒総督「Charles de La Roche-Courbon」 (1期目 ~1683. 2)
1677年 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督「ロバート・クラーク」 (~1682年7月没)
1677年 06:00|ニカラガア| |||<即位>モスキート王「オールドマン2世」 (~1686年没)
1677年1月-05:30|インド| |||<就任>ティルヴァティムコトウ国ラジャ「ラウイ・ガアルマ」 (1回目 ~1678年)、摂政「ラニ・ウマヤナ」 (1回目 ~1678年)
1677年1月-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリタニア=ベイルベイレ「イブラヒム・イブラヒム・フェリベ」⇒「イスタンコイリュ・ビュク・ムスタファ」 (~4月)
1677年1月1日-01:00|フランス| |||フランスの劇作家ジャン・バティスト・ラシーヌ、悲劇「フェートル」 (初演時の題名は「フェートルと休リット」) を「オールド・ブルゴ=ニュ座」で初演
1677年1月1日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Juan Nuno Rodriguez de Freitas」 (~7. 13)
1677年1月1日-09:00|日本|兵庫県丹波篠山市|延宝4年11月28日|<死去>丹波篠山藩5万石「松平信利」⇒翌年2月6日、養子「松平信庸」が継ぐ (⇒享保2 (1717) 年5月10日、死去)
1677年1月10日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Pedro Ruiz de Arguinzonis y Laris」 (~7. 13)
1677年1月10日-09:00|日本|東京都台東区|延宝4年12月7日|新吉原より出火し、浅草寺町・花川戸から本所中/郷まで延焼
1677年1月18日-01:00|オランダ/南アフリカ| |||<死去>ヤン・ファン・リーベック、オランダの植民地総督 (生年1619年) ケープ植民地を建設したことで知られる
1677年1月29日-09:00|日本|東京都中央区|延宝4年12月26日|中村座、市村座、焼失
1677年1月30日-09:00|日本|京都府京都市|延宝4年12月27日|仙洞御所 (後水尾法皇御所)・女院御所 (東福門院御所) 炎上、公家など焼亡
1677年1月31日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=ドゥルハ辺境伯「フリートリヒ6世」
1677年1月31日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン=ドゥルハ辺境伯「フリートリヒ7世」 (~17090625死去)
1677年2月2日-07:00|ベトナム| ||大越莫朝・順徳40年|莫敬宇、黎朝の鄭氏に敗れ清に亡命し (莫朝) 滅亡

1680迄 (2638件)

1677年2月2日-09:00|日本|京都府京都市|延宝5年1月|磯田平兵衛の京都地誌「出来齋京土産」刊行
1677年2月8日-09:00|日本| ||延宝5年1月7日|幕府が、火災現場に無用の者の立ち入りを厳禁し、違反者の斬り捨てを定める
1677年2月9日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|延宝5年1月8日|<死去>播磨山崎藩3万石「池田政周」⇒養子「池田恒行」が継ぐ(⇒翌年12月27日、7歳で死去、無嗣断絶)
1677年2月20日-09:00|日本|岐阜県海津市|延宝5年1月19日|<死去>美濃今尾藩3万石「竹腰正晴」⇒2月10日、長男「竹腰友正」が継ぐ(⇒宝永3(1706)年4月19日、死去)
1677年3月-01:00|ハンガリー/トルコ| ||<就任>ブダペストのベイレベ「ハル・パシャ」(~10月)
1677年3月4日-09:00|日本|東京都|延宝5年2月|斐川師宣のさし絵入り地誌「江戸雀」刊行
1677年3月4日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙16年2月|清軍が泉州、漳州を占領、鄭經軍はアモイに撤退
1677年3月15日-01:00|イタリア| ||<死去>エウアリスト・バスケス、イタリアの画家(生年1607年)
1677年3月22日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)司令官代行「アベル・ティツ」(~12.22)
1677年3月25日-01:00|チェコ| ||<死去>ウェンセラ・ホー、ホーミアの版画家(生年1607年)
1677年3月29日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝5年2月26日|幕府江戸城三丸において金貨を鑄造
1677年3月31日-09:00|日本|福岡県直方市|延宝5年2月28日|<廃藩>筑前東蓮寺藩4万石「黒田長寛」宗藩嫡子に選ばれ綱政と改名し宗藩に吸収
1677年3月31日-09:00|日本|福岡県福岡市|延宝5年2月28日|<領土返還>筑前福岡藩433100石「黒田光之」子「綱政」を嗣子としその領地4万石を収公⇒473100石(⇒元禄元(1688)年12月9日、隠居)
1677年4月-01:00|リビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国トリポリニア・ベイレベ「ハバ・オスマン」(~1678年)
1677年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・バティスト・トシーニ」「フランチェスコ・アンジェリ」
1677年4月10日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島知事「Henry Stanley」(~1678年)
1677年4月11日-08:00|フィリピン/スペイン| ||<就任>スペイン領フィリピン総督「Francisco Coloma y Maceda」(~9.25)
1677年4月16日-09:00|日本|茨城県常総市|延宝5年3月15日|<死去改易>下総大輪藩1万石「土井利直」無嗣(同年6月27日、養子利良が名跡を継ぎ5千石)
1677年4月28日-09:00|日本|大阪府枚方市|延宝5年3月27日|<死去>河内渚藩3万石「永井尚庸」⇒次男「永井直敬」が継ぐ(⇒貞享4(1687)年10月21日、下野烏山藩3万石へ移封)
1677年5月2日-09:00|日本| ||延宝5年4月|「諸国百物語」刊行(怪談集として初の百物語本)
1677年5月2日-09:00|日本|東京都|延宝5年4月|幕府が市中での町駕籠の乗用を禁じ、違反者を家主・五人組・名主とともに処罰
1677年5月4日 00:00|イギリス| ||<死去>アイザック・バロー、イギリスの神学者、数学者(生年1630年)積分と微分がお互いに逆操作である(微分積分学の基本定理)ことを幾何学的方法で証明
1677年5月7日-09:00|日本|東京都台東区|延宝5年4月6日|浅草黒門町から出火し、浅草寺が延焼
1677年5月7日-07:00|日本|京都府福知山市|延宝5年4月6日|<丹波福知山延宝5年の大火>暁八ッ時前(午前2時ごろ)、下ノ魚ヶ棚通りの中ほどから出火、日の出の時刻までに、城下15町の町屋のほとんどを焼き尽くし、西町筋、東中ノ町の中級家臣や下級家臣の屋敷6軒、商家千余戸を焼失/16人死亡
1677年5月22日-01:00|ドイツ| ||<死去>バーテン・バーテン辺境伯「グイルヘルム」
1677年5月22日-01:00|ドイツ| ||<就任>バーテン・バーテン辺境伯「ルートヴィヒ・グイルヘルム」(~17070104死去)
1677年5月31日-08:00|中国| ||清・康熙16年5月|尚之信が清に降伏
1677年6月3日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Jeronimo de Velasco」(~1681年)
1677年6月21日-09:00|日本|香川県丸亀市|延宝5年5月21日|<加増>讃岐丸亀藩58512石「京極高豊」+分家3000石還付⇒61512石(⇒元禄7年5月18日(16940610)死去)
1677年6月23日-01:00|ドイツ| ||<死去>グイルヘルム・ルットヴィヒ
1677年6月23日-01:00|ドイツ| ||<即位>グイルヘルム・ルットヴィヒ「エーバールト・ルットヴィヒ」(~17331031死去)
1677年6月23日-01:00|フランス| ||パリ科学アカデミーが、銃を使って音速を測定/毎秒356mの値を出す
1677年7月1日 00:00|イギリス| ||<爵位名変更>3代キング・ホン伯「パトリック・ライアン」⇒ストラモア・キング・ホン伯(~16950515死去)
1677年7月5日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ知事「Pierre Hencelin」(~16950615死去)
1677年7月13日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ植民地総督「Bernardino Freire de Andrade」(~1680年)
1677年7月13日 04:30|ベネチア/スペイン| ||<就任>スペイン領ベネチア総督「Francisco de Alberro」(~16821222)
1677年7月15日 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| ||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「ファン・パデ・イ・ジャ・デ・グアルティエラ・イ・グスマン」(~1678年9月)
1677年7月16日-01:00|イタリア| ||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ギアチーノ・オットネ」(~16790716)
1677年7月30日-09:00|日本|大阪府大阪市|延宝5年7月|『天狗内裏』初演/作・近松門左衛門説
1677年8月-03:00|イラク/トルコ| ||<就任>ハスラ・リス「ハサン・パシャ」(2回目~1680年)
1677年8月-02:00|ラトビア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リガニア総督「ヤン・テオドル・シュリベン」(~16950110没)
1677年8月 00:00|イギリス| ||<死去>マシュー・ロック、イギリスのオペラ作曲家(生年1621年or1622年)
1677年8月2日-09:00|日本|埼玉県行田市|延宝5年7月4日|<交替>武蔵忍藩9万石「阿部正能」隠居⇒長男「阿部正武」が継ぐ(弟「正明」に5000石、「正房」に3000石、「正員」に2000石分与し8万石⇒宝永元(1704)年9月17日、死去)
1677年8月5日-09:00|日本|千葉県富津市|延宝5年7月7日|<加増>上総飯野藩15000石「保科正景」+丹波国内5000石⇒2万石(⇒貞享3(1686)年10月25日、隠居)

1680迄 (2638件)

1677年8月24日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「オーモント 公ジェームズ・ハート」(4回目~16850320)
1677年8月25日-09:00|日本|茨城県行方市|延宝5年7月27日|<死去>常陸麻生藩1万石「新庄直時」⇒長男「新庄直詮」が継ぐ(⇒宝永5年3月16日(17080506)死去)
1677年8月26日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝5年7月28日|<就任>老中「大久保忠朝」(~元禄11年2月15日)
1677年8月27日 00:00|イギリス| |||<死去>ドーセット伯「リチャード・サックヴィル」
1677年8月27日 00:00|イギリス| |||<就任>ドーセット伯「チャールズ・サックヴィル」(~17060129死去)
1677年9月9日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル国務長官「ロキ・モンテリオ・パーム」(~17060624死去)
1677年9月18日-09:00|日本|奈良県葛城市|延宝5年8月22日|<交替>大和新庄藩13000石「桑山一玄」隠居⇒長男「桑山一尹」が継ぐ(第2人に2千石分知し11000石⇒天和2(1682)年5月26日、改易)
1677年9月21日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<死去>スペイン領フィリピン諸島総督「マヌエル・デ・レオン」
1677年9月21日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「Francisco Sotomayor」(~16780928)
1677年9月21日 03:00|ブラジル| |||フェルナン・カリヨによる第二次パルマス討伐
1677年9月26日-01:00|ドイツ/スウェーデン| |||ブランデンブルク大選帝侯軍、スウェーデンを破り、スウェーデンを占領
1677年10月-01:00|ハンガリー/トルコ| |||<就任>フタのペイレルベ「ウズン・イブラヒム・パシャ」(3回目~16830914)
1677年10月-01:00|オランダ/インドネシア| |||オランダがジャワ西部のブラワン地方を領有
1677年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・ロ」 「マルクアントニオ・チッコリ」
1677年10月1日-09:00|日本|茨城県牛久市|延宝5年9月5日|<死去>常陸牛久藩1万石「山口弘隆」75歳⇒長男「山口重貞」が継ぐ(⇒元禄11(1698)年4月4日、59歳で死去)
1677年10月4日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「アイザック・ヨハネス・ラモティウス」(~16921022)
1677年10月21日-09:00|日本|栃木県大田原市|延宝5年9月25日|<交替>下野大田原藩11400石「大田原高清」強制隠居⇒養子「大田原典清」が継ぐ(⇒元禄7(1694)年6月21日、死去)
1677年10月28日-09:00|日本|京都府京都市|延宝5年10月2日|法皇御所の造営が完成
1677年10月30日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「アスマル・バートロメ・アルメイダ」(~16780124)
1677年11月1日 00:00|セネガル/フランス/オランダ| |||デストレ提督のフランス艦隊が、西アフリカのオランダ領ゴレ島を攻撃し、奪取(⇒16780810、フランスに割譲~1692年)
1677年11月2日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「ロバート・シドニー」
1677年11月2日 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「フリップ・シドニー」(~16980306死去)
1677年11月4日 11:00|日本| |||延宝5年10月9日|<延宝5年房総沖地震津波>夜、五つ時(20時ごろ)福島太平洋岸から房総半島にかけてマグニチュード8の大地震があり、津波が沿岸部に襲来/陸奥国岩沼藩領で家屋流失490余軒、123人死亡/陸奥国磐城平藩領では、沿岸部の四ツ倉、薄磯、豊間、江名、中之作、小名浜、各集落が津波に襲われ、家屋の倒壊及び流失487~約550軒、130人余~189人死亡/常陸国水戸藩領では家屋倒壊189軒、36人死亡、船舶の流失及び破損353隻/上総国大多喜藩領では外房海岸の浦々がやられ、東浪見村で家屋倒壊50軒、97人死亡、和泉浦では家屋倒壊数知れず、13人死亡、岩船浦で家屋倒壊40軒、57人死亡、そのほか領内で家屋倒壊50軒、22人死亡と合計領内の家屋倒壊140軒以上、189人が死亡/南に隣接する御宿浦では家屋倒壊30軒、63人死亡、その南の勝浦藩領の郡石小村で家屋倒壊6軒、1人死亡、新宮村で家屋倒壊17軒、2人死亡、沢倉村で家屋倒壊11軒、2人死亡、合計領内で家屋倒壊34軒、9人死亡/八幡岬の東側の川津村で家屋倒壊19軒、3人が死亡/上総国の合計は家屋倒壊223軒以上、死亡者264人
1677年11月7日 00:00|イギリス| |||<就任>ケンブリッジ 公「チャールズ・ステュアート」ジェームズ2世の五男(~12.12死去)
1677年11月8日-09:00|日本|高知県四万十市|延宝5年10月13日|<死去>土佐中村藩3万石「山内豊定」⇒養子「山内豊明」が継ぐ(⇒元禄2(1689)年8月3日、謹慎・屋敷没収、所領は宗藩に還付)
1677年11月9日-01:00|オランダ| |||<死去>アルト・ファン・デル・ネル、オランダの画家(生年1603年頃)
1677年11月11日-01:00|イタリア| |||<死去>バルバラストロツィ、イタリアの作曲家(生年1619年)
1677年11月27日-01:00|ハンガリー| |||ハンガリーでムレ・テクリの反乱
1677年12月4日 03:00|ブラジル| |||カリヨの討伐隊、パルマス王国の首都アン・ビシアを制圧/ガンガ・スンバ王の息子を殺害し、パルマス軍司令官ガン・ムから56人を捕らえる
1677年12月12日 00:00|イギリス| |||<死去>ケンブリッジ 公「チャールズ・ステュアート」
1677年12月12日 04:00|トリニダード・トバゴ/オランダ/フランス| |||(~27日)フランスがオランダのトバゴ植民地を破壊(1680.6まで廃棄状態)
1677年12月13日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・サリー伯「トマス・ハワード」
1677年12月13日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリー伯「ヘンリー・ハワード」ノーリッチ伯(~16840113死去)
1677年12月22日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)司令官「トビアス・アドリアエンセン」(~16780315)
1678年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「ロバート・de Vicq」(~1682年)
1678年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンタナ王国スルタン「Sultan Barahaman」(~16990706死去)
1678年-05:30|インド| |||<就任>ジャヴァル国ラジャ「ハタンジャ-1世」(~不明)⇒「クリシュナ2世」(~不明)⇒「ウイクラムジャ-2世」(~1742年没)
1678年-05:30|インド| |||<就任>ジャファラバード 国タタール「カシム・ヤクト・カーン」(~1734年)
1678年-05:30|インド| |||<就任>スルグジャ国ラジャ「バハ・ダト・ウ・シン・デオ」(~1709年)
1678年-05:30|インド| |||<就任>ティルガッタムコト国ラジャ「ケララ・ヴァルマ」(反体制派~1681年)
1678年-05:30|インド| |||<就任>ラタック国摂政「デレク・ナムギヤル」(~1691年)
1678年-04:00|ジョージア| |||<復位>イメレティ王「アーチル」(~1679年)
1678年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレホ・ワリス(総督)「Huseyin Pasha」(~1680年)

1680迄 (2638件)

1678年-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア・ハン国ハン「ムラト・キレ」(~1683年)
1678年-02:00|リトアニア/スウェーデン| |||メメルはスウェーデンが占領(~1679年)
1678年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<死去>コンゴ 王国マニコンゴ「ダニエル1世ミラ・ムンガ」
1678年-01:00|リビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国トリポリ・リビア・ベイルベ・イレリ「アク・メフメト・ティムール」(~1682年)
1678年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Antonio de Medina Chacon y Ponce de Leon」(2期目~1679年)
1678年-01:00|オランダ/スペイン/ベルギー| |||<就任>スペイン領ネーデルラント・ベルギー総督「アレクサンドロ・ファルネーゼ・デ・パルマ」(~1682年)
1678年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス＝エーベルシュタット伯「Heinrich10世」(~17110610死去)
1678年-01:00|カザフスタン| |||<即位>ホリツァ大公「イヴァン・ノヴゴロドツ」(~1684年)
1678年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| ||年末|<即位>ムボンバ・ロウア王国国王「マヌエル・デ・ガシム・ダ・ノボラ」(~1715年)
1678年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||コンゴ 王国が分裂
1678年-01:00|スペイン| |||スペインがコレヒトール職の売官制を定める
1678年-01:00|ドイツ| |||ハンブルクに、ドイツで初の常設オペラ座できる
1678年-01:00|オランダ/インドネシア| |||マタラム王国:オランダ 軍、トゥルナン・ジョヨの首都デヤを陥れる
1678年 00:00|イギリス| |||<死去>17代クロフォート 伯・初代リンジー 伯「ジョン・リンジー」
1678年 00:00|イギリス| |||<就任>18代クロフォート 伯・2代リンジー 伯「ウィリアム・リンジー」(~16980306死去)
1678年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Maj. John Blackmore」(~1690年)
1678年 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<死去>ポルトリコ知事兼提督「Alonso de Campos y Espinosa」
1678年 04:00|アンティグア・バブー・ダ/イギリス| |||<就任>アンティグア副総督「ジェームズ・ウォーン」(~1680年)
1678年 05:00|キューバ| |||スプリンガー、トリニダーを襲撃
1678年 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||バミューダの英国の塩収集家がグランド・ターク島に定住
1678年 06:00|ホンジュラス| |||フランス人海賊シエル・ト・グロモン、ホンジュラスのトルヒーヨを占領
1678年1月4日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ 領東インド 総督「Joan Maetsuyker」(25)
1678年1月4日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ 領東インド 総督「Rijckloff van Goens」(~16811125)
1678年1月7日-09:00|日本|長崎県五島市|延宝5年12月14日|<交替>肥前福江藩12530石「五島盛勝」隠居⇒長男「五島盛暢」が継ぐ(⇒元禄4年6月22日(16910717)死去)
1678年1月11日-09:00|日本| ||延宝5年12月18日|幕府が普化宗に対して後任住職や弟子取りに関する法令を定める
1678年1月17日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||ポルトガル 軍、ジョアン・ディアに代わる首都となったサンゲルのキンドを攻撃
1678年1月23日-08:00|インドネシア| |||<死去>アチェ王国スルタン「ヌール・アラム女王」
1678年1月23日-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「イヤット・シャー女王」(~16881003死去)
1678年1月24日-05:30|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル 領インド 総督「統治委員会(フレイ・アント・オニオ・ブランダン(同年没)/アント・オニオ・パエス・デ・サンティ/フランシスコ・カブラル・デ・アルマダ」(~16810912)
1678年1月29日 05:00|エカドール/スペイン| |||<就任>スペイン領ネーデルラント・ベルギー総督・総司令官・大審問院長「ロペ・アントニオ・デ・ムンガ・エ・イ・アクス」(~16890425没)
1678年2月 00:00|イギリス| |||<死去>エグター 伯「ジョン・セシル」
1678年2月 00:00|イギリス| |||<就任>エグター 伯「ジョン・セシル」(~17000829死去)
1678年2月21日-09:00|日本|大谷大学|延宝6年|東本願寺の学寮を東本願寺の別邸涉成園内に移転
1678年2月21日-09:00|日本|岡山県総社市|延宝6年|軽部神社創建くおっばい神社
1678年2月21日-08:00|モンゴル| |||ガルトンがタライマからハンの称号を受けジュンガル王国樹立
1678年3月-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「コ・アルノー・イブラヒム・パシャ」(2回目~10.26)
1678年3月4日-09:00|日本| ||延宝6年1月12日|幕府が過失による出火の罪を加重し、失火者を斬罪、名主五人組を入牢とすることを定める
1678年3月11日-09:00|日本| ||延宝6年1月19日|関東に川船極印奉行を設置し、川船を改める
1678年3月14日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ 副総督代行「サー・ヘンリー・モーガン」(2回目~7.19)
1678年3月15日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 司令官代行「アベル・ティツ」(2回目~12月)
1678年3月15日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル 領ブラジル総督「ロケ・ダ・コスタ・バレット」(~16820503)
1678年3月15日-09:00|日本|佐賀県唐津市|延宝6年1月23日|<加増移封>下総佐倉藩6万石「松平乗久」⇒肥前唐津藩7万石(⇒貞享3(1686)年7月17日、死去)
1678年3月15日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延宝6年1月23日|<移封>肥前唐津藩83000石「大久保忠朝」⇒下総佐倉藩83000石(⇒延宝8(1680)年1月12日、1万石加増され9万3000石)
1678年3月23日-08:00|中国| ||清・康熙17年3月|清朝に対して反乱を起こしていた呉三桂が衡州で帝位に即位し、大周と号し昭武(~1678)と建元
1678年3月25日-09:00|日本|大阪府大阪市|延宝6年2月3日|大坂、初代坂田藤十郎が荒木と次兵衛座の「夕霧名残正月」に出演し、大当りをとる(和事の初め)
1678年3月30日-09:00|日本|愛知県豊橋市|延宝6年2月8日|<死去>三河吉田藩4万石「小笠原長矩」⇒長男「小笠原長祐」が継ぐ(⇒元禄3(1690)年6月17日、死去)
1678年4月 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「マヌエル・ダ・コスタ・パッサ」(2回目~1682年)

1680迄 (2638件)

1678年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マルクアントニオ・ゴジ」「イノセント・ホ・リ」
1678年4月13日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Robert Heywood」(~1690年死去)
1678年4月19日-01:00|フランス| |||<初演>ジャン・バティスト・リュリ《歌劇「プシエ」》
1678年4月20日 00:00|イギリス| |||<死去>サマセット公「フランス・シーモア」
1678年4月20日 00:00|イギリス| |||<就任>サマセット公「チャールズ・シーモア」(~17481202死去)
1678年4月21日-09:00|日本| ||延宝6年3月|『古今役者物語』刊行、絵、曲、歌詞、せりふなど記す
1678年4月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ルートヴィヒ6世」
1678年4月24日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ルートヴィヒ7世」ルートヴィヒ6世の上の息子(~8.31死去)
1678年5月4日-01:00|オランダ| |||<死去>アンナ・マリア・ファン・シュールマン、ドイツ生まれのオランダの女流画家、版画家、詩人、哲学者(16071105生)
1678年5月16日-09:00|日本|宮城県岩沼市|延宝6年3月26日|<死去>陸奥岩沼藩3万石「田村宗良」⇒次男「田村建顕」が嗣ぐ(⇒延宝9(1681)年3月、陸奥一関藩3万石へ移封)
1678年5月18日-01:00|フランス| |||フランスの女流作家ラファイエット夫人、小説「クレウの奥方」を、秘書スグレーの名で発表
1678年5月22日-09:00|日本|埼玉県深谷市|延宝6年4月2日|<交替>武蔵岡部藩20250石「安部信之」隠居⇒長男「安部信友」が継ぐ(弟「信厚」に新田1000石を分与⇒天和2(1682)年4月、丹波国天田郡2000石を加増され2万2250石)
1678年5月24日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|延宝6年4月4日|<鹿児島延宝6年の大火>夜九時半時(午前0時半ごろ)鹿児島城下、下町の下納屋町から出火、町人の家屋(町屋敷)が集中している地域を残らずなめ尽くし焼失させた/朝五つ前(午前8時前ごろ)鎮火したが、町屋敷420か所、家数にして2231戸、武家屋敷15か所、職屋敷1か所が焼失し、町屋敷は15か所しか残らず97%が灰となり下町はほぼ潰滅
1678年6月17日-04:00|レニオン/フランス| |||<死去>ブルボン島司令官「Henry Esse d'Orgeret」
1678年6月18日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Germain de Fleurimont Moulinier」(~1680.1死去)
1678年6月19日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ジョン・ブラックモア」(~16901201死去)
1678年6月21日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Juan Antonio de Salas」(~16800605)
1678年6月22日-01:00|オランダ| |||<死去>オットー・マルセウス・ファン・シュリク、オランダの画家(生年1619年)
1678年6月26日-09:00|日本| ||延宝6年5月8日|<死去>征夷大將軍「徳川家綱」40歳
1678年6月29日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官代行(オランダ東インド会社)「ヘンドリック・クルトツ」(~10.12)
1678年7月7日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー暫定副王「リマ大司教メルチョル・デ・リニャン・イ・シスネロス」(~16811120)
1678年7月18日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||難を逃れたズンバ王は、ポルトガルの和平案を受諾しようとするが、甥のズンベらはこの方針を覆し、ズンバを処刑
1678年7月19日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サント・ヤゴ副総督「カール伯爵チャールズ・ハワード」(~16800527)
1678年7月19日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙17年6月|鄭經が福建の海澄県を占領
1678年7月25日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ暫定総督「マルコス・セル・デ・ガロ・セナイ・デ・アルトラ」(~16820219)
1678年8月2日-09:00|日本| ||延宝6年6月15日|<死去>徳川和子、徳川秀忠の娘、後水尾天皇の中宮(生年1607年)
1678年8月6日-09:00|日本|大阪府|延宝6年6月19日|<移封>遠江浜松藩35000石「太田資次」大坂城代に任じられる⇒畿内周辺55000石(⇒貞享元(1684)年4月6日、死去)
1678年8月10日-01:00|フランス/オランダ| |||フランスとオランダが、ナイメーヘンで和約を結び、オランダ戦争が終結
1678年8月10日 04:00|トリニダード・トバゴ/オランダ/フランス| |||オランダがトバゴ島をナイメーヘンの和約によりフランスに譲るがフランスは権利を執行せず(16831215、英国枢密院はフランスとケルダンターの主張に対してトバゴの中立を宣言)
1678年8月13日-09:00|日本|福井県大野市|延宝6年6月26日|<死去>越前大野藩5万石「松平直良」⇒三男「松平直明」が嗣ぐ(~天和2(1682)年3月16日、播磨明石6万石へ加増移封)
1678年8月16日 00:00|イギリス| |||<死去>アントニー・マーヴェル、イングランドの詩人(生年1621年)
1678年8月22日 04:00|プエルトリコ/スペイン| |||<就任>プエルトリコ知事兼提督「Juan de Robles Lorenzana」(~1683年)
1678年8月31日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ルートヴィヒ7世」
1678年8月31日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「エルスト・ルートヴィヒ」ルートヴィヒ6世の下の子(~17390912死去)
1678年9月-01:00|ハンガリー| |||テクリが北部ハンガリーにクルク公国を樹立
1678年9月 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ総裁・総司令官「フランシスコ・デ・セグーラ・サント・バル・イ・カスティリャ」(~16840712)
1678年9月1日-01:00|ベルギー| |||<死去>ヤン・ブリューゲル(子)、フランドルの画家(生年1601年)
1678年9月1日 00:00|モリタニア/フランス| |||アルギンをフランスが占領(~同月放棄)
1678年9月3日-09:00|日本| ||延宝6年7月18日|<延宝6年北九州、四国西部暴風雨>北九州、四国地方に暴風雨が襲い、伊予松山城下では、民家803戸、村々1594戸の農家が倒壊/瀬戸内海に面する同西条藩領では、民家293軒が倒壊、堤防255間(460m余)、新田堤860間(1.5km余)、塩浜286間(520m)が決壊し、稲作、塩田事業が被害を蒙った/土佐では、中村藩領で、民家3095戸が損壊、堤防800間(約1.5km)が決壊、船20隻を損壊
1678年9月15日-09:00|日本|徳島県徳島市|延宝6年7月30日|<死去>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀綱通」⇒従弟「蜂須賀綱矩」が継ぐ(⇒享保13(1728)年1月23日、隠居)
1678年9月16日-08:00|中国| ||清・康熙17年8月|周・呉三桂が病死し、孫の呉世ハ、即位し洪化(~1681)と改元/三藩の乱が沈静化へ
1678年9月17日-01:00|フランス/スペイン| |||フランス・スペイン間のナイメーヘンの和約

1680迄 (2638件)

1678年9月19日-01:00|フランス| |||<退位>ブルゴニユ公「シャル3世」ナイメーヘンの和約により、フランス王国へ併合
1678年9月19日-09:00|日本| |||延宝6年8月4日|<延宝6年西日本、東海暴風雨>(～6日)九州では中でも肥後熊本藩領では、大風で民家1万3039軒が倒潰、高潮により民家倒潰・流失2842軒、船舶の破損232隻、冠水田畑110町8反(約1平方km)など田畑損害7万6570石、堤防決壊6万1895間(112.5km)、海辺の土手1万114間(18.4m)が破損。熊本城周囲の堀破損/筑後柳川藩領では7人死亡、侍屋敷36軒、足軽以下家屋40軒、町人、農民家屋2645軒が倒潰。冠水田畑4万20石(表高の37%)、堤防1万569間(19km)決壊/豊前小倉では家屋2842戸倒潰、田んぼの損害810町(8平方km)、防波堤1万114間(18.4km)が決壊/そのほか、平戸、島原、天草、唐津、佐賀、久留米、福岡各藩領も損害を負った/四国伊予西条藩では、家屋277軒が倒壊、防波堤278間(500m)が決壊し、水田が冠水/京都、大坂では、豪雨によって鴨川、淀川、宇治川、大和川など淀川水系の諸河川などが洪水を起こした/東海地方では、尾張、美濃両国が大雨水となり、特に尾張藩領で2人死亡、家屋68戸損壊
1678年9月26日-09:00|日本|東京都中央区|延宝6年8月11日|<死去>三代目中村勘三郎(初代の三男)
1678年9月28日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「フアン・デ・バルガス・ウルタド」(～16840824)
1678年9月28日-01:00|イタリア| |||<死去>マウリツィオ・カツァーティ、イタリアの作曲家(生年1616年)
1678年10月1日-01:00|サマリノ| |||<就任>サマリノ共和国執政「オットー・ヨ・ジヤニニ」 「アルフォンソ・トシニ」
1678年10月1日-09:00|日本|山形県上山市|延宝6年8月16日|交替>出羽上山藩25000石「土岐頼行」隠居⇒長男「土岐頼殷」が継ぐ(⇒元禄5(1692)年2月25日、越前野岡藩へ移封)
1678年10月2日-09:00|日本| |||延宝6年8月17日|東日本で大地震/陸奥花巻城の石垣が倒壊、同白石城が損壊、江戸でも上野東照宮・宝樹院・崇源院などが破損
1678年10月3日-09:00|日本|静岡県浜松市|延宝6年8月18日|<移封>摂津国・河内国・和泉国・遠江・相模・武蔵など5万石(大坂城代)「青山宗俊」⇒遠江浜松藩5万石(⇒延宝7(1679)年2月15日、死去)
1678年10月12日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地指揮官(オランダ東インド会社)「サイモン・ファン・デル・シュテル」(⇒16910601、司令官～16990211)
1678年10月12日-01:00|ドイツ/スウェーデン| |||「フランドン」大選帝侯軍、スウェーデンを破り、ストラス・ラント占領
1678年10月12日-09:00|日本|愛媛県|延宝6年8月27日|伊予国で大風雨、民家五百二十余戸倒壊
1678年10月18日-01:00|ベルギー| |||<死去>ヤコブ・ヨルダーンス、フランドルの画家(生年1593年)
1678年10月26日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「コカ・ハリル・パシャ」(～1679年)
1678年10月29日-09:00|日本|山梨県甲府市|延宝6年9月14日|<死去>甲斐甲府藩25万石「徳川綱重」(生年1644年)⇒10月25日、長男「徳川綱豊」が継ぐ(⇒宝永元年12月5日(17041231)、徳川綱吉の後継者として江戸城へ入る)
1678年11月-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主代行「バテア・パレアス」 「フリゼア・カリディ」(～16790106)
1678年11月18日-01:00|イタリア| |||<死去>ジョヴァンニ・マリア・ボ・ノンチニ、イタリアの作曲家、ヴァイオリニスト(生年1642年)
1678年11月20日-01:00|オランダ| |||<死去>カレル・デ・ユッセル、オランダの画家(生年1640年)
1678年11月23日-09:00|日本|奈良県生駒市|延宝6年10月10日|湛海律師によって宝山寺創建(生駒聖天)
1678年11月29日-02:00|ルーマニア| |||<即位>ワラキア公「セルバン・カンタクジノ」(～1688年)
1678年12月 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)司令官「ヨハネス・ハインソウス」(～1680.4)
1678年12月2日-09:00|日本|徳島県徳島市|延宝6年10月19日|<立藩>阿波富田藩5万石「蜂須賀隆重」徳島藩より新田分与(⇒宝永2年12月26日(170601)隠居)
1678年12月2日-09:00|日本|新潟県上越市|延宝6年10月19日|<越後騒動>越後国高田藩松平家でお家騒動
1678年12月6日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ゲオルグ・4世・ウカ」(3期目～16831225)
1678年12月22日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ暫定総督・総司令官・大統領「ロペ・デ・シエラ・オリオ・バルデス」(～16811223)
1678年12月23日-01:00|モロッコ| |||<公布>モロッコで最初の憲法
1679年-08:00|インドネシア| |||<就任>ジャババ摂政「Kaiciil Alam」(～1684年)
1679年-05:30|インド| |||<就任>アッサム国ラジャ「ロウ・ロジャ・スリクファ・ラトナ・ワラジ」(～1681年没)
1679年-05:30|インド| |||<就任>イタル国ラジャ「チャンドラ・シン」(～1718年逃亡)
1679年-05:30|インド| |||<就任>ヴァンカル国統治者(ラージ・サヒブ)「チャンドラ・シン」1世「ライシンジ」(～1721年没)
1679年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「ウィレム・カレル・ハーツィンク」(～1681年)
1679年-05:30|インド| |||<就任>キルチール国統治者(デューワン)「アヌフ・シン」(～1715年)
1679年-05:30|インド| |||<就任>ゴンドアル国統治者(タル・サヒブ)「サケラムジ」1世「クンボ・ラジ」(～1714年没)
1679年-05:30|インド| |||<就任>ハラバ国支配者(ラウト)「バラバド・ラマング・ラジ」(～1711年)
1679年-05:30|インド/中国| |||上ラダックはチベットに占領された(～1681年、ムガル帝国の援助により撃退された)
1679年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>カラカルパク・ハン「Ishim Muhammad Khan」(～1725年以降)
1679年-05:00|パキスタン| |||<即位>バルティスタン国王「ムハンマド・ラフィ・カーン」(2回目)
1679年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「バグラト5世」(～1681年)
1679年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)スルタン(ヤルバ朝)「ビララフ・ビン・サルタン」(～1692年)
1679年-04:00|ロシア| |||<即位>カシモフ・ハン国ハン「ファータマ・スルターナ」アルブ・アルスラーンの妃でサイト・ブルハンの母(～1681年死去)
1679年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Abazekh Husein Pasha」(2期目～1683年)
1679年-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「スタニスラフ・カシミアス・ラトヴィラ」(～16901208没)
1679年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領エクアドル総督「Juan Arias-Davila Pacheco y Tellez-Giron」(～1681年)
1679年-01:00|リベントシエタイン| |||<就任>ファトウツ執行官代行「クリストフ・ケーベル」(2回目～同年)⇒執行官「ヨハン・ロマリッヒ・ブリュンゲラー・フォン・ヘルクスベルク」(～同年)
1679年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ホンフル方伯「フリードリヒ3世」(～17080123死去)
1679年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「デ・フェルダール・アフメト・パシャ」(2回目～1681年)

1680迄 (2638件)

1679年-01:00|ベルギー| |||<就任>リニユ公「アンリ・ルイ・エルネスト」(~1702年)
1679年-01:00|イタリア| |||<即位>グラーフィナ公「Pietro Francesco Orsini」(~1730年)
1679年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<即位>ユリヒ=クレフェ=ベルク連合公・プファルツ=ノイブルク公「ヨハン・グィルヘルム2世」(1685年より
プファルツ選帝侯領と同君連合となる~17160608死去)
1679年 00:00|イギリス| |||<就任>15代サーラント伯「ジョージ・ゴートン」(~17030304死去)
1679年 00:00|イギリス| |||<就任>初代ハリファックス伯「ジョージ・サイル」(⇒1682年初代ハリファックス侯~16950405死去)
1679年 00:00|イギリス| |||<就任>第3代トロヘッ伯「ヘンリー・ハミルトン=ムーア」(~17140607死去)
1679年 00:00|フェロ諸島/デンマーク| |||<就任>フェロ諸島首席大臣「Johan Hendrik Weyhe」(~17060126死去)
1679年 04:00|モントセリト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセリト副総督「ピーター・コベ」(~1680年)
1679年 04:00|グレナダ/フランス| |||<就任>グレナダ総督「ジャック・ト・シャンブリー」(~1680年)
1679年 04:00|サン・マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルタン副王「Francois Charles Maigne du Plat」(~1685年)
1679年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>ボネール司令官「Johannes "Hans" Bontemantel」(~1686年)
1679年 05:00|キューバ| |||<就任>ラモント・コリアンター、バロア、トリニダー、レメーイオスを襲撃
1679年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「チャールズ・カルバート」(~1684年)
1679年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「ロレンツォ・ラミレス・デ・グスマン」(~1682年)
1679年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Antonio de Otermin」(~1680年知事~1683年)
1679年-04:00|ロシア/日本| |||ロシア暦1月29日|松前家が樺太大苔(コルコフ)に集落を設立
1679年1月 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「フランシスコ・アントニオ・デ・リバス・イ・コントレラス」(~1680年1月)
1679年1月1日-01:00|オランダ| |||<死去>ヤン・ステーン、オランダの画家(生年1626年)
1679年1月6日-02:00|ルマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「セルバン・コンスタンティン・カンタゴネーノ」(~16881029没)
1679年1月14日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバグラタ大統領・総督・総司令官「フランシスコ・デル・カステージョ・デ・ラ
・コンチャ」(~16850906没)
1679年2月5日-01:00|オランダ| |||<死去>ヨースト・ファン・デン・フォンデル、オランダの劇作家(生年1587年)
1679年2月5日-01:00|フランス/ドイツ| |||神聖ローマ帝国とフランスがナイメーヘンの和約
1679年2月8日-09:00|日本|兵庫県粟粟市|延宝6年12月27日|<死去改易>播磨山崎藩3万石「池田恒行」7歳、無嗣断
絶
1679年2月11日-09:00|日本|滋賀県彦根市|延宝7年|彦根藩4代藩主の井伊直興が玄宮園造営(池泉回遊式庭園)
1679年2月11日-08:00|中国| |||清・康熙18年|<就任>チベット摂政「サンジエ・ギヤツォ」(~1703年)
1679年2月11日-08:00|中国| |||清・康熙18年1月|岳州の戦いで反乱軍が清軍に破れ華中戦線で反乱軍の撤退が
始まる
1679年2月19日-05:30|インド| |||<即位>ジョートフル国マハラジャ「アジット・シン」(~17240624没)
1679年3月13日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー=島知事「Thomas Morgan卿」
1679年3月16日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督「ジョン・レヴァレット」
1679年3月26日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国国庫財務実行主席弁務官「エックス伯アーサー・カール」(~11. 19) Wh
g
1679年3月26日-09:00|日本|静岡県浜松市|延宝7年2月15日|<死去>遠江浜松藩5万石「青山宗俊」(生年1604年)⇒
次男「青山忠雄」が継ぐ(⇒貞享2(1685)年8月8日、死去)
1679年3月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>アブラハム・ミグノ、ドイツの画家(生年1640年)
1679年4月-05:30|インド| |||ムガル朝アウラングゼーブが非ムスリムへの人頭税を復活
1679年4月 00:00|イギリス| |||<死去>パークシャー伯「チャールズ・ハワード」
1679年4月 00:00|イギリス| |||<就任>パークシャー伯「トマス・ハワード」(~17060412死去)
1679年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マッジョーニ」「フランチェスコ・ロリ」
1679年4月5日-09:00|日本|東京都中央区|延宝7年2月25日|<死去>初代森田勘彌(別名、又七)
1679年4月24日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「de La Saulaye」(~1694年死去)
1679年5月11日-09:00|日本|茨城県土浦市|延宝7年4月2日|<死去>常陸土浦藩45000石(老中)「土屋数直」⇒5月10
日、家督を長男「土屋政直」が継ぐ(⇒天和2(1682)年2月12日、駿河田中藩45000石に移封)
1679年5月13日 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー=島知事「Jean Lanier卿」(~16840805)
1679年5月16日-09:00|日本|福島県二本松市|延宝7年4月7日|<交替>陸奥二本松藩100700石「丹羽光重」隠居⇒嫡
子「丹羽長次」が継ぐ(⇒元禄11年6月26日(16980802)死去)
1679年5月25日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|延宝7年4月16日|<死去>備中足守藩25000石「木下利貞」⇒長男「木
下きん定」が継ぐ(⇒享保14(1729)年5月2日、隠居)
1679年5月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハインル選帝侯「フェルディナント・マリア」
1679年5月26日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハインル選帝侯「マクシミリアン2世エマヌエル」フェルディナント・マリアとアデライド・エンリエッタの息
子(~17060429選帝侯の地位を剥奪~17260226死去)
1679年5月28日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾植民地総督「サイモン・ブラッド・ストリート」(~16860525)
1679年6月2日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|延宝7年4月24日|<死去>大和国郡山藩12万石「本多政長」毒殺され
る⇒6月26日、養子「本多忠国」が継ぐ(陸奥福島藩15万石へ加増移封)
1679年6月4日-04:00|アルメニア| |||アルメニアで地震(M6. 5)死者7600人
1679年6月5日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦5月26日|イギリス議会で人身保護法が制定される
1679年6月27日-01:00|スペイン| |||<死去>パブロ・ブルナ、スペインの作曲家、オルガニスト(生年1611年)
1679年6月29日-01:00|ドイツ/スウェーデン| |||ブランデンブルク選帝侯フルドリッヒ・グィルヘルムが、スウェーデン国王カル11世と和約
を結ぶ(サン・ジェルマン・アン・レイの和約)

1680迄 (2638件)

1679年7月-05:30|インド| |||インドのラージプートで人頭税復活に対して反乱
1679年7月 00:00|イギリス| |||<死去>第2代ウィムズ伯「デヴィッド・ウィムズ」
1679年7月 00:00|イギリス| |||<就任>第3代ウィムズ女伯「マーガレット・ウィムズ」(~17050311死去)
1679年7月7日-09:00|日本|東京都中央区|延宝7年5月29日|中村座、市村座焼失
1679年7月14日-08:00|中国| |||清・康熙18年|<就任>タライ・ラ行政官「サンゲギャツォ」(⇒1683年、摂政~1703年)
1679年7月23日 00:00|イギリス| |||<就任>初代マルズ・フィールド伯「チャールズ・ジェラード」(~16940107死去)
1679年7月25日-09:00|日本|大阪府河内長野市|延宝7年6月18日|<立藩>河内西代藩1万石「本多忠恒」近江膳所藩より分封(⇒宝永元年11月10日(17041206)死去)
1679年7月25日-09:00|日本|滋賀県大津市|延宝7年6月18日|<交替>近江膳所藩7万石「本多康将」隠居⇒甥「本多康慶」が継ぐ(弟「忠恒」に1万石分与し6万石⇒正徳4(1714)年3月4日、隠居)
1679年7月25日-09:00|日本|静岡県磐田市|延宝7年6月18日|<交替>遠江掛塚藩13000石「加々爪直澄」隠居⇒甥「加々爪直清」が嗣ぐ(⇒延宝9(1681)年2月9日、改易所領収公)
1679年7月29日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジョヴァンニ・スピノラ」(~16810729)
1679年8月1日-09:00|日本|千葉県野田市|延宝7年6月25日|<死去>下総関宿藩5万石(老中)「久世広之」⇒三男「久世重之」が継ぐ(⇒天和3(1683)年8月、備中庭瀬藩に移封)
1679年8月2日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|延宝7年6月26日|<加増移封>播磨明石藩65000石「松平信之」⇒大和郡山藩8万石(⇒貞享2(1685)年6月10日、常陸古河藩9万石へ加増移封)
1679年8月2日-09:00|日本|兵庫県明石市|延宝7年6月26日|<移封>大和国郡山新田藩6万石「本多政利」⇒播磨明石藩6万石(⇒天和2(1682)年2月22日、陸奥大久保藩1万石に減移封)
1679年8月2日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|延宝7年6月26日|<移封改名>大和国郡山新田藩1万石「本多政貞」廃藩⇒播磨山崎藩1万石「本多忠英」(⇒享保3(1718)年6月24日、72歳で死去)
1679年8月2日-09:00|日本|福島県福島市|延宝7年6月26日|<加増移封>大和国郡山藩12万石「本多忠国」⇒陸奥福島藩15万石(⇒天和2(1682)年2月12日、播磨姫路15万石へ移封)
1679年8月16日-09:00|日本|茨城県つくばみらい市|延宝7年7月10日|<立藩>常陸小張藩1万石「松平(石川)乗政」(⇒延宝9(1681)年7月22日、5000石加増され15000石)
1679年8月16日-09:00|日本|群馬県安中市|延宝7年7月10日|<加増>上野安中藩2万石「堀田正俊」⇒4万石(⇒延宝9(1681)年2月、下総古河藩13万石に加増移封)
1679年8月16日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝7年7月10日|<就任>老中「土井利房」(~延宝9年2月21日)
1679年8月16日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝7年7月10日|<就任>老中「堀田正俊」(~天和1年12月12日)
1679年8月16日-09:00|日本|栃木県足利市|延宝7年7月10日|<加増>下野足利藩25000石「土井利房」+15000石⇒4万石(⇒天和2(1682)年3月16日、越前大野藩4万石に移封)
1679年8月16日-09:00|日本|広島県広島市|延宝7年7月10日|(及び18日、21日)引続き広島領内暴風雨・洪水、道橋堤防の破損多く、流出全壊家屋2804軒、死者16人
1679年9月2日-08:00|中国| |||清・康熙18年7月28日|中国・河北省、三河・平谷地震(M8)、死者4万5500
1679年9月11日-09:00|日本|千葉県君津市|延宝7年8月7日|<改易>上総久留里藩2万石「土屋直樹」乱心蟄居/子に3000石安堵
1679年9月12日-09:00|日本|山口県周南市|延宝7年8月8日|<死去>周防徳山藩45000石「毛利就隆」⇒10月13日、五男「毛利元賢」が継ぐ(⇒元禄3(1690)年5月21日、死去)
1679年9月19日-09:00|日本|茨城県古河市|延宝7年8月15日|<建立>古河大仏(西光寺、1979年再建)
1679年9月20日-09:00|日本|山口県岩国市|延宝7年8月16日|<死去>周防岩国藩6万石「吉川広嘉」⇒10月15日、長男「吉川広紀」が継ぐ(⇒元禄9(1696)年7月13日、死去)
1679年9月26日-01:00|デンマーク/スウェーデン| |||ルートの講和が結ばれ、スウェーデン戦争が終わる
1679年9月29日 00:00|イギリス| |||<死去>トラント伯「ジョン・マナース」
1679年9月29日 00:00|イギリス| |||<就任>トラント伯「ジョン・マナース」先代の息子(⇒17030329トラント公・ゲランバー候~17110110死去)
1679年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「カルロ・トシーニ」「ロレンツォ・ジャンギ」
1679年10月9日-09:00|日本|愛媛県西条市|延宝7年9月5日|新居郡大生院村の曾我部親信の開墾地で有望鉱脈発見される(市之川鉱山の開発)
1679年10月10日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの化学者メーヨ/36歳(誕生16430524)/呼吸に関する論文を発表/「紫外線」を発見した
1679年10月10日-09:00|日本|静岡県藤枝市|延宝7年9月6日|<加増移封>信濃小諸藩3万石「酒井忠能」⇒駿河田中藩4万石(⇒天和元(1681)年12月10日、在国中の逼塞と勤務怠慢を理由に改易)
1679年10月10日-09:00|日本|長野県小諸市|延宝7年9月6日|<移封>駿河田中藩25000石「西尾忠成」⇒信濃小諸藩25000石(⇒天和2(1682)年3月9日、遠江横須賀藩25000石に移封)
1679年10月20日-09:00|日本|京都府京都市北区|延宝7年9月16日|上賀茂社の正遷宮が行われる
1679年10月21日-09:00|日本|京都府京都市左京区|延宝7年9月17日|下賀茂社でも正遷宮が行われる
1679年11月3日-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)代行「ラトラス・キス」(~同年)
1679年11月19日 00:00|イギリス| |||<就任>イングランド王国国庫財務実行主席弁務官「ケルワースのハイド」子爵(⇒16821129、ロチェスター伯)「ローレンス・ハイド」(1期目~16840825) Tor
1679年11月22日-09:00|日本|新潟県上越市|延宝7年10月19日|<越後騒動>幕府評定所は越後国高田藩お為方の永見大蔵、荻田主馬、片山外記、中根長左衛門、渡辺九十郎に人心を惑わした罪で大名家へのお預けの処分
1679年12月 04:00|マルティニーク/フランス| |||<死去>フランス領マルティニーク知事「Antoine Andre de Sainte-Marthe de Lalande

1680迄 (2638件)

」

- 1679年12月3日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ローレンス・ファン・ヒール」(~16930619)
- 1679年12月4日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|延宝7年11月2日|<死去改易>備中庭瀬藩2万石「戸川安風」無嗣断絶、弟に4000石安堵
- 1679年12月5日-09:00|日本|東京都品川区|延宝7年11月3日|平井権八、辻斬りの廉で鈴ヶ森で処刑される
- 1679年12月6日-09:00|日本|岩手県一関市|延宝7年11月4日|<死去>伊達宗勝(生年1621年)伊達騒動で失脚した一関藩初代藩主
- 1679年12月12日 00:00|イギリス| |||<死去>第2代ノーセック伯「デヴィッド・カーネギー」
- 1679年12月12日 00:00|イギリス| |||<就任>第3代ノーセック伯「デヴィッド・カーネギー」(~1688. 10死去)
- 1679年12月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>カレンベルグ侯「ヨハン・フリートリヒ」
- 1679年12月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>カレンベルグ侯「エルスト・アウグスト」ヨハン・フリートリヒの弟(~16980123死去)
- 1679年12月21日-01:00|ベルギー| |||<就任>ファニョーレ伯「アンリ・ルイ・アーネスト」(~17020208没)
- 1679年12月25日-09:00|日本|福島県相馬市|延宝7年11月23日|<死去>陸奥中村藩6万石「相馬貞胤」⇒12月18日、弟「相馬昌胤」が継ぐ(⇒元禄14(1701)年2月11日、隠居)
- 1679年12月29日-09:00|日本|福島県いわき市|延宝7年11月27日|<交替>陸奥窪田藩2万石「土方雄次」隠居⇒次男「土方雄隆」が継ぐ(弟「雄賀」に2000石分与し18000石⇒貞享元(1684)年7月22日、御家騒動により改易)
- 1679年12月29日-09:00|日本|宮城県延岡市|延宝7年11月27日|<交替>日向延岡53000石「有馬康純」隠居⇒長男「有馬清純」が継ぐ(⇒元禄4(1691)年12月28日、無城大名に格下げの上で越後糸魚川藩5万石に移封)
- 1680年-06:30|ミャンマー/オランダ/イギリス| |||ヒルマで政情不安を理由にイギリスとオランダの商館支店が閉鎖
- 1680年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「テンジン・ラバゲ」(~1694年)
- 1680年-05:45|ネパール| |||<即位>マラ(Kantipur)国王「Parthivendra Malla」(~1687年)
- 1680年-05:30|インド| |||<建国>ポドゥッコッタ国
- 1680年-05:30|インド| |||<就任>サハヌール国支配者(ナワブ)「ダリル・カーン「アブドゥル・ウッ」」建国(~17200623没)
- 1680年-05:30|インド| |||<就任>ソネプーール国ラジャ「フルッソタム・シン・デオ」(~1700年没)
- 1680年-05:30|インド| |||<就任>ダフラール国統治者(デシュムク)「サトゥ・アジール・ラ1世」建国(~1703年)
- 1680年-05:30|インド| |||<就任>デシカル国ラジャ「ヌルガ・ライ・シン・プラマハラ」(~1708年)
- 1680年-05:30|インド| |||<就任>バスター国ラジャ「デヴィガ・パール・デオ」(~1709年)
- 1680年-05:30|インド| |||<即位>サハヌール(ミヤ朝)ナワブ「Dalil Khan "Abdul Rauf"」(~17200623死去)
- 1680年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<死去>ブハラ・ハン国ジャーン朝ハン「アブドゥル・アズィーズ・ハーン」
- 1680年-05:00|ガザフスタン| |||<即位>ガザフ汗国ハン「タケ」(~1715年没)
- 1680年-05:00|パキスタン| |||<即位>バルティスタン国王「シール・カーン」(~1710年)
- 1680年-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン/タジキスタン| |||<即位>ブハラ・ハン国ジャーン朝ハン「スプ・ハーン・クリー・ハーン」ナデイル・ムハンマドの次男(~1702年)
- 1680年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バスラ・ワリス「シタール・フセイン・ハッシャ」(2回目~16830101)
- 1680年-03:00|ジブチ| |||<即位>タジュラ・スルタン国スルタン「ムサ・ヒン・カミル」⇒「デニ・ヒン・ハマト」
- 1680年-03:00|ウガンダ| |||東アフリカの財人とマゼイ人が統合し、アチョリ集団を形成
- 1680年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ホスニア人オスマン・ハッシャ」(~1683年)
- 1680年-02:00|ブルンジ| |||<即位>ブルンジ王国国王「ンタレ3世ルシャツィ」建国(~1709年頃没)
- 1680年-02:00|南アフリカ/オランダ| |||南部アフリカのオランダ人入植者の大半がケープ植民地に移住
- 1680年-02:00|ジンバブエ| |||チャンガミール帝国がトルクを吸収
- 1680年-01:00|フランス| |||<死去>リニー伯「Margaret-Charlotte」
- 1680年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領リウ総督「Diego Toscano y Brito」(~1683年)
- 1680年-01:00|ルクセンブルク/スペイン| |||<就任>スペイン領ルクセンブルク総督兼総司令官「シメイとクロイ・ダレンベルク公アーネスト・アレクサントルト・ミニク・ト・リーニュ・アレクベルク」(~1684年)
- 1680年-01:00|リトベニシュタイン| |||<就任>ファドゥーツ執行官「アント・レアス・ジョセフ・ヴァルザー」(~1683年)
- 1680年-01:00|フランス| |||<就任>リニー伯「Madeline-Charlotte」Margaret-Charlotteの娘(~1701年死去)
- 1680年-01:00|チャド| |||<即位>バギルミ王国スルタン「Abdul Qadir1世, Mbangi」(~1707年)
- 1680年-01:00|アンゴラ/コンゴ共和国/コンゴ民主共和国/ガボン| |||年末<即位>レンバ・ムラ王国国王「ヨハ2世」(~1716年没)
- 1680年-01:00|ベナン/ポルトガル| |||サントメ・プリンシペのポルトガル総督がファクタ砦を設立
- 1680年-01:00|フランス/タイ| |||フランスがタイに商館を開設
- 1680年 00:00|イギリス| |||<就任>3代キンカーティン伯「アレクサンダー・ブルース」(~1705年)
- 1680年 00:00|イギリス| |||<就任>4代バコン伯「クロード・ハミルトン」先代の従兄弟甥(~1691年)
- 1680年 00:00|トーゴ| |||<就任>ゲニガバ統治者(フィオ)「オフォリ」建国(~1693年頃)
- 1680年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Jacinto de Figueiredo e Abreu」(~16830113死去)
- 1680年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>テムネ王国統治者(バイス)「ナイン・ナ1世」(ロッコ港内~1720年)
- 1680年 00:00|フェロー諸島/デンマーク| |||<就任>フェロー諸島領土執行使(トスハウ)「Hans Willumsen」(~17090617)
- 1680年 00:00|ポルトガル/ウルグアイ| |||ポルトガルがラ・プラタ川の北岸にコロニア・サクラメントを建設
- 1680年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>ファイアル島・ピコ島トナトリア長官「Rodrigo Sanches Farinha e Baena」(~1730年死去)
- 1680年 03:00|ウルグアイ| |||ラ・プラタ川の北岸にブラジル人が入植地を建設しスペイン人と対峙

1680迄 (2638件)

1680年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<死去>バ・ブー・ダ 総督「フランチェスコ・ネイサン」
1680年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ 島司令官代理「Willem Kien」⇒司令官「Johannes “Hans” Bontemante I」(~1681年)
1680年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ/イギリス| |||<就任>アンティグア 副総督「ハレタイン・ラッセル」(~1682年)
1680年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセロ 副総督「James Cotter」(~1685年)
1680年 04:00|グレナダ/フランス| |||<就任>グレナダ 総督「サン・サルタン卿がブリエル・ジャン・ニコラス・ト・ガバレ」(~1689年)
1680年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>サバ 島司令官「Peter Batterie」
1680年 04:00|英領ヴァージン諸島/イギリス| |||イギリスはアカタとバーズンコルダに植民
1680年 05:00|ハイチ| |||Dageronと交替したPouancey総督、サント・シモのスペイン軍を撃退し全植民地の支配権を維持
1680年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル州暫定市長兼副司令官「デ・イゴ・デ・ガマ・イ・バルカセル」(~1684年)
1680年 06:00|アメリカ| |||加ライ植民地でインディアンの部族対立を助長し奴隷狩り戦争
1680年 07:00|メキシコ| |||サハテ族、ふたたび反乱
1680年1月-04:00|レユニオン/フランス| |||<死去>ブルボン島司令官「Germain de Fleurimont Moulinier」
1680年1月-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「F. Bernardin de Quimper」(~16861201)
1680年1月 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「フアン・フランシスコ・サンス=バスケス・デ・キンタニラ・イ・センデ・イン・デ・リトマヨール」(2回目~16810724)
1680年1月12日-09:00|日本|茨城県つくば市|延宝7年12月11日|<改易>常陸玉取藩12000石「堀通周」発狂/弟に3000石安堵
1680年1月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領バルバドス島知事「George Carteret卿」
1680年1月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領バルバドス島知事「Elizabeth de Carteret」(~1682年)
1680年1月20日 03:00|ウルグアイ/ポルトガル| |||<就任>サラメント新植民地ポルトガル総督「マヌエル・ロホ」(~8. 7)
1680年1月20日 03:00|ウルグアイ/ブラジル| |||トンプド2世、父からの植民者2千を送りウルグアイ南端にまで進出、プエルトアイレス対岸にサラメント植民地(現ウルグアイ領コロニア)を建設/ラプラタ川左岸をブラジル領と主張
1680年1月21日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューハンプシャー州植民地総督「ジョン・カット」(~16810317)
1680年1月28日-09:00|日本|佐賀県小城市|延宝7年12月27日|<交替>肥前小城藩73000石「鍋島直能」隠居⇒次男「鍋島元武」が継ぐ(⇒正徳3(1713)年1月26日、隠居)
1680年1月31日-08:00|中国| ||清・康熙19年|<即位>ヤルカント・ハン「アブドゥッラー=ラシード2世」イスマーイルの甥(~1682年)
1680年1月31日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・正和1年|大越後黎朝11代・熙宗が正和と改元(-1705)
1680年2月-01:00|スペイン| |||スペイン通貨危機で平価50%切り下げ
1680年2月1日-09:00|日本|群馬県前橋市|延宝8年1月|<加増>上野厩橋藩10万石「酒井忠清」+上総久留里2万石⇒12万石(⇒延宝9(1681)年2月27日、隠居)
1680年2月12日-09:00|日本|神奈川県小田原市|延宝8年1月12日|<加増>相模小田原藩95000石「稲葉正則」+15000石⇒11万石(⇒天和3(1683)年閏5月27日、隠居)
1680年2月12日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延宝8年1月12日|<加増>下総佐倉藩83000石「大久保忠朝」+1万石⇒93000石(⇒貞享3(1686)年1月21日、相模小田原藩10万3000石へ加増移封)
1680年2月12日-08:00|中国| ||清・康熙19年1月13日|<死去>李漁、明末・清初の劇作家・小説家(生年1611年)
1680年2月12日 08:00|日本|鹿児島県鹿児島市|延宝8年1月12日|<鹿児島延宝8年の大火「田尻殿火事」>申の下刻(17時ごろ)平の馬場にある田尻八兵衛の屋敷から出火、炎は火元の家を半分ほど焼くと、近隣にある藩の重役の屋敷につぎつぎと延焼、そこから家々に火の粉を飛ばし、町方(町人の街)に炎が燃え移った/延焼したのは西の火元から北は城の大手之口堀まで、東は客屋から六日町、新築出海まで、南は天神之宮から樋之口、南林寺門前脇寺、屋久嶋蔵海まで、鎮火した戌の上刻(20時ごろ)までの3時間あまりで市中が一気に焼けた/焼失した屋敷849か所、家数にして3308軒/内訳は客屋1か所23軒、天神宮地並びに門前1か所12軒、屋久嶋蔵1か所12軒、侍屋敷345か所2059軒、南林寺脇寺地11か所36軒、同門前地91か所172軒、仲間並びに細工人の家8か所27軒、町家391か所923軒/54人死亡
1680年2月17日-01:00|オランダ| |||<死去>ヤン・スワメルダム、オランダの博物学者(生年1637年)顕微鏡を使った解剖を行ったバ・イオニ。昆虫の生活史を研究。人間の赤血球の発見者
1680年2月28日-09:00|日本|徳島県阿南市|延宝8年1月28日|<死去>平島公方「平島義次」⇒嫡男「平島義景」が継ぐ(⇒元禄10年8月28日(16971012)死去)
1680年3月1日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙19年;南明・永暦34年2月|清軍が海澄、廈門などを回復し、鄭經勢力が中国本土の拠点を喪失
1680年3月26日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ダニエル・ベルハウート」(~16830801)
1680年4月 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)司令官代行「エグアールト・ファン・ヘルム」(~9月)
1680年4月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Richard Dutton卿」(1期目~1683年)
1680年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アレサント・ロ・ベルツィ」/「ジャンバティスタ・ファットーリ」
1680年4月5日-05:30|インド| |||<就任>マフラツ国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「シャンバジ」(~16890311没)
1680年4月10日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マティウ総督「Joao da Costa de Brito」(~16840418)
1680年4月29日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「ニコラス・コナー」
1680年4月30日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「アルナ・セラルタ」(~5. 2)

1680迄 (2638件)

1680年5月1日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金寿桓」(~16870901)
1680年5月2日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ケレゴ・リオ・カファ」(~16900721没)
1680年5月16日-09:00|日本|香川県高松市|延宝8年4月18日|高松藩主松平頼常、崇徳天皇廟所頓証寺を再建
1680年5月27日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サティアコ 副総督代行「ヘンリー・モーガン卿」(3回目~16820824)
1680年5月29日 00:00|イギリス| |||<昇格>7代ロズ・伯「ジョン・レスリー」⇒初代ロズ・公(~16810727死去)
1680年5月31日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヨアヒム・ネンダー、ドイツの神学者、賛美歌作者(生年1650年)
1680年6月 04:00|トリニダード・トバゴ/ラトビア| |||(~1693年)ケールント(現ラトヴィア)人トバゴ 植民地再建(1683.3~168606
13及び16870302~16871005、廃棄される)
1680年6月3日-09:00|日本|群馬県館林市|延宝8年5月7日|<交替>上野館林藩25万石「徳川綱吉」が「徳川家綱」養嗣
子として江戸城二の丸に入る⇒長男「徳川徳松」が継ぐ(⇒天和3年閏5月28日(16830722)、5歳で死去廃藩)
1680年6月4日-09:00|日本|茨城県|延宝8年5月8日以降|<拝領>常陸国内13000石「牧野成貞」(天和2(1682)年1月21
日、33000石に加増)
1680年6月4日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝8年5月8日|<死去>第4代将軍「徳川家綱」40歳(誕生:寛永18(1641
)0803)
1680年6月5日-10:00|グアム/北マリア諸島/スペイン| |||<就任>マリア諸島知事代理「Jose de Quiroga y Losada」(1期
目~16810615)
1680年6月7日 00:00|イギリス| |||<死去>サミュエル・パトラ、イギリスの詩人(生年1612年)
1680年6月7日 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Jacques de Chambly」(~16870815死去)
1680年6月25日-09:00|日本|千葉県佐倉市|延宝8年6月19日|<死去>堀田正信(生年1631年)佐倉惣五郎事件時の下
総佐倉藩主
1680年7月5日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マース島総督「Nicolaï Esmit」(~1682.11)
1680年7月14日-09:00|日本|埼玉県東松山市|延宝8年6月19日|<死去>武蔵国野本藩13500石「渡辺方綱」⇒養子「渡
辺基綱」が継ぐ(⇒元禄11(1698)年、和泉国大庭寺藩13500石へ移封)
1680年7月21日-09:00|日本|京都府宮津市|延宝8年6月26日|<死去改易>丹後宮津藩73000石「永井尚長」芝の増上
寺で志摩鳥羽藩主「内藤忠勝」に刺殺される/弟に大和新庄藩1万石安堵
1680年7月21日-09:00|日本|福島県いわき市|延宝8年6月26日|<加増>陸奥湯長谷藩1万石「遠山政亮」+2000石⇒12
000石(⇒貞享4(1687)年、3000石加増され15000石)
1680年7月22日-09:00|日本|三重県鳥羽市|延宝8年6月27日|<死去改易>志摩鳥羽藩33000石「内藤忠勝」永井尚長
を殺害し切腹・断絶
1680年8月 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領西ニュージャージー 総督「エドワード・ベリンゲ」(~1687.1)
1680年8月2日-09:00|日本| |||延宝8年7月8日|<死去>明子女王、皇族(生年1638年)
1680年8月7日 03:00|カルクアイ/ポルトガル| |||<就任>サラムント新植民地ポルトガル総督「Marcos Jose de Garro Senei d
e Artola」(~16830131)
1680年8月10日 06:00|アメリカ/スペイン| |||アメリカ南西部のインディアンが、スペイン人植民者の圧政に対して反乱を起こし、ス
ペイン人をオカランデ川下流域に追いやる(プエブロの乱)
1680年8月12日-09:00|日本|大阪府高槻市|延宝8年7月18日|<死去>摂津高槻藩36000石「永井直時」⇒閏8月19日、
養子「永井直種」が継ぐ(⇒元禄8(1695)年4月22日、死去)
1680年8月18日-01:00|フランス| |||フランス王ルイ14世の命により、パリの「ケネー・劇団」と「ブルゴーニュ劇団」が統合し、「王
立コメディ・フランセーズ 劇団」創立
1680年8月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン選帝侯「ヨハン・ゲオルク2世」
1680年8月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>ザクセン選帝侯「ヨハン・ゲオルク3世」(~16910912死去)
1680年8月24日-01:00|オランダ| |||<死去>フェルディナント・ボルク、オランダの画家(生年1616年)
1680年8月26日-01:00|フランス| |||統合した「王立コメディ・フランセーズ 劇団」が、「ケネー・劇場」(3区、1687年まで「アルシーグ
通り」60番地にあった)で初公演
1680年8月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツ選帝侯「カール1世ルートヴィヒ」62歳
1680年8月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>プファルツ選帝侯「カール2世」(~16850526死去34歳)
1680年8月30日-09:00|日本|奈良県葛城市|延宝8年8月7日|<再立藩>大和新庄藩1万石「永井直圓」(⇒宝永7(1710)
年11月3日、隠居)
1680年8月31日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ 総督・総司令官「ルイス・フェルナンデス・デ・コルト・バ・ホンセ
・デ・レオン」(~16850702)
1680年9月 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 司令官代行「ロレンス・ガエルブーム」(~16831
126)
1680年9月 06:00|アメリカ| |||<分離>ニューハンプシャーがマサチューセッツから分離
1680年9月9日-08:00|中国| |||清・康熙19年8月17日|中国、雲南省、楚雄地震(M6.8)、死者2700
1680年9月11日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ジョアン・ダ・シルバ・エ・ソウザ」(~16840912)
1680年9月11日-09:00|日本|京都府京都市|延宝8年8月19日|<死去>後水尾天皇(法皇)(85歳、文禄5(1596)0604生)
/108代天皇/院政が閉じられる
1680年9月15日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝8年8月23日|<就任>第5代征夷大将軍「徳川綱吉」
1680年9月28日 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ 植民地総督「フアン・マルクス・カブレラ」(~16870411)
1680年9月28日-09:00|日本| |||延宝8年閏8月6日|<延宝8年東海・江戸大水害>東海及び関東地方が大風雨に襲わ
れた/遠江国横須賀では、300人余死亡、城の櫓1棟、武士・町人の家6000余軒が流失/江戸では南風が特に激しく、
江戸城緒門の瓦や壁が落ち、城下の住家が倒壊し両国橋も損壊、本所・深川・八丁堀・築地・芝などが高潮に襲わ

1680迄 (2638件)

れ、あわせて700人余が死亡、損壊家屋3420軒余、貯蔵米20万石余がぬれる

1680年10月-05:30|インド| |||<就任>ダランプール国ラジャ「サハデウジ」(~1711年没)

1680年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャンバティスト・トシーニ」「メルキオール・ハンマース」

1680年10月1日 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官「フリス伯チャールズ・フィッツチャールズ」(~17日)

1680年10月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代フリス伯「チャールズ・フィッツチャールズ」フリス伯爵位廃絶

1680年10月17日 00:00|モロッコ/イギリス| |||<就任>タンジール長官代行「エドワード・サックビル卿」(~16811228)

1680年11月1日-09:00|日本|山梨県甲府市|延宝8年9月|<加増>甲斐甲府藩25万石「徳川綱豊」⇒35万石(⇒宝永元年12月5日(17041231)、将軍後継者となる)

1680年11月7日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニア副王「パレデス伯爵、ラ・ラグーナ侯爵トマス・アントニオ・デ・ラ・セルタ・イ・アラゴン」(~16860616)

1680年11月13日-09:00|日本|東京都千代田区|延宝8年9月21日|<就任>老中「板倉重種」(~天和1年11月26日)

1680年11月14日-01:00|ドイツ| |||ドイツの天文学者ゴットフリート・キルヒがキルヒ彗星(1680年の大彗星)発見/最初に望遠鏡で発見された彗星

1680年11月27日-01:00|ドイツ| |||<死去>アタシウス・キルヒヤ、ドイツのイエズス会司祭、学者(生年1601年)ヒエログリフの科学的研究に取り組んだパイオニア

1680年11月28日-01:00|イタリア| |||<死去>ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ、イタリアの彫刻家、建築家(生年1598年)

1680年11月30日 00:00|イギリス| |||<死去>ピーター・レリー、イングランドの画家(生年1618年)

1680年12月2日 00:00|ガーナ/ポルトガル| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「ジュリアン・デ・カンホ・パレット」デンマークのクリスチャンスホー砦(サン・フランシスコ・ザビエル砦と改名)を占領(~16820829)

1680年12月10日-01:00|イタリア| |||<死去>マルコ・ウッチェリーニ、イタリアの作曲家、ヴァイオリニスト(生年1603年~1610年頃)

1680年12月18日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>イギリス領フロリダ植民地総督「ジョサイア・ウィンロー」

1680年12月18日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領フロリダ植民地総督「トマス・ヒンクリー」(~1686年)

1680年12月23日-09:00|日本| ||延宝8年11月3日|幕府が、火つけ・盗賊追捕令をだす